

年

報

平成十八年度

年報

平成18年度

平成19年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

序

平成18年度における当センターの事業計画は、関係各位の御指導・御協力をいただきながら、円滑に各種事業を実施することができました。

はじめに、調査事業においては、19遺跡・20件の発掘調査と15遺跡の整理作業・報告書作成を実施いたしました。発掘調査の内訳は、県農林・土木事業に係る調査が4件、国土交通省事業に係る調査が16件となっており、その外10遺跡・9冊の発掘調査報告書を行いました。近年における発掘調査の特徴は、県公共事業の減少は引き続き見られるものの高速交通網の整備に伴う事業が主体であり、今後の本県における高速道路の整備状況の推移を見ると、調査事業量は微増の傾向にあります。これからも公共事業等の事業量に即した体制の整備などに配慮しながら、埋蔵文化財保護の観点や古代の人との心の交流を県民の皆さんに提供するとともに、県民の皆さんとの目線に留意しながら、責任ある発掘調査の成果を基礎とした調査研究を推進してまいります。

次に、研究・普及事業につきましては、現地における発掘調査説明会の開催、広報誌「理文やまがた」の刊行などを通じて、埋蔵文化財の調査研究の成果を県民の皆さんにお知らせしてまいりました。特に今年度は、県庁ロビー、山形空港ビルや文翔館で「外部展示」を行い、県民の皆さんに出土品を公開し、当センターの事業の周知や文化財保護の重要性について広く普及を図ったところです。

また例年、山形市を会場に行っております「山形県埋蔵文化財発掘調査報告会」を今年度は2日間にわたりて開催したほか、昨年度に統いて日本海沿岸東北自動車道関係遺跡を対象に「発掘された鶴岡の歴史<2006>」を開催し、今年度発掘した調査の成果を発表したところです。さらに、学校現場からの依頼を受けた「出前授業」は31校で実施したほか、職員を派遣しての講演や研究発表等を実施してまいりました。今後は、特に、次世代を担う子供達を中心に、地域の伝統文化の大切さや、誇りと自信の持てる地域づくりの一環としての事業の展開など、さまざまな機会を活用して、研究・普及活動を行っていく計画です。

今後とも、センター運営の基本原則としての県民共有の文化遺産である埋蔵文化財を後世に伝えていくため、職員一同、一層の研鑽を重ねていく所存であります。

また、今年度は外部監査を受検し、当センターの事業運営の各分野にわたって指摘を受けたところですが、直ちに改革プロジェクトチームを立ち上げ、「センター改革プラン」を策定したところです。来年度から本格的な改革に移行するための準備に着手しており、センター再生の改革元年と位置付け、改革プランに基づいて改善すべきところは早急に改め、県民の方々から信頼される埋蔵文化財センターとして、職員一丸となって取り組んでまいることとしております。

平成19年3月1日

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長職務代理者専務理事 柏 倉 俊 夫

目 次

I. 管理運営概要

A.	沿革	1
B.	組織	
1.	役員及び評議員	1
2.	職制及び人員	2
3.	組織	2
4.	職員	3
C.	施設	4

II. 事業概要

A.	調査業務	5
1.	調査遺跡一覧	6
2.	調査遺跡の概要	
	上野遺跡	8
	中川原C遺跡	10
	石畠遺跡	12
	檜原遺跡（第1次）	14
	檜原遺跡（第2次）	16
	上大作裏遺跡	20
	天王遺跡	24
	百刈田遺跡	28
	中山城跡	32
	加藤屋敷遺跡	42
	下叶水遺跡	46
	樺荷山館跡	52
	山ノ下遺跡	54
	興屋川原遺跡	58
	行司免遺跡	62
	矢馳A遺跡	68
	木の下館跡	74
	玉作1遺跡	78
	岩崎遺跡	80
	南田遺跡	82

B. 研究業務	
1. 研究研修	
全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣	84
2. 情報処理	
収蔵図書データベース	84
3. 普 及	
(1) ホームページ	85
(2) 山形県埋蔵文化財発掘調査報告会の開催	85
(3) 日本海沿岸東北自動車道関係発掘遺跡調査報告会	85
(4) 外部展示	86
(5) 学校への協力	87
(6) 来所者	89
(7) 職員派遣等	90
(8) 調査説明会	90
(9) 資料貸出	91
(10) 資料掲載許可	91
(11) 出版物	92
III. 図書受贈先一覧	93

I. 管理運営概要

A. 沿革

山形県には、土地に埋蔵された埋蔵文化財や史跡、有形文化財、民俗文化財などが数多く残されています。これらの文化財は、長い歴史の中で生まれ、育まれ、そして今まで守り伝えられてきた貴重な県民の文化遺産であり、これを保護・活用し、次世代に確実に継承していくことが大事です。

平成16年に策定された第5次山形県教育振興計画では、「いのち」、「まなび」、「かかわり」の三つがキーワードとなっています。埋蔵文化財については、広い「かかわり」の中で、社会をつくるという基本方針のもと、「感性あふれる地域文化の創造」という視点から、保護と活用にあたることとしています。

平成5年4月に、文化財の保護と県土の開発を両立させて調和を図るため、山形県の出資によって「財團法人山形県埋蔵文化財センター」が設立されました。当センターでは、埋蔵文化財の調査研究を通じて、県民の文化生活の向上と地域文化の振興に寄与することを目的として、1. 県内遺跡等埋蔵文化財の調査研究、2. 埋蔵文化財の発掘調査、3. 埋蔵文化財の活用と保護思想の普及の三つを基本とした各種事業を推進しております。

センターの設立から平成19年3月で14年を迎えますが、発掘調査の成果を基礎とした調査研究の積重ねに加え、近年は「発掘調査報告会」や「出前授業」などの普及活動についても力を注いでおります。

B. 組織

1 役員及び評議員

役員

理事長	佐藤 敏彦	前山形県教育委員会教育長（平成18年12月27日退任）
	山口 常夫	山形県教育委員会教育長（平成19年3月22日就任）
専務理事	柏倉 俊夫	財団常勤役員
理事	阿子島 功	山形大学人文学部長
理事	宮本長二郎	東北芸術工科大学大学院教授
理事	加藤 稔	山形考古学会長
理事	川崎 利夫	東北中世考古学会長
理事	大場 登	山形県市町村教育委員会協議会教育長会長
監事	齋藤 貞夫	山形県出納局経理課長
監事	小笠原信順	山形県教育庁総務課長

評議員	佐藤 稔宏	山形考古学会副会長
評議員	長澤 正機	最上地城史研究会理事
評議員	佐藤 鑑雄	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館長
評議員	南 格	山形県農林水産部農村計画課農山村整備主幹
評議員	松尾 良夫	山形県土木部道路課長
評議員	佐藤 庄一	山形県教育庁教育やまがた振興課文化財保護室長

2 職制及び人員

局長	1名
調査研究部長	1名
課長	2名
調査研究主幹	2名
総務課長補佐	1名
専門調査研究員	2名
主任調査研究員	14名
主事	2名
調査研究員	8名
調査員	14名
事務員	2名
事務補助員	3名

計52名

3 組織

役員(理事会)

理事長(非常勤) 専務理事(常勤)

職員(事務局)



4. 職 員

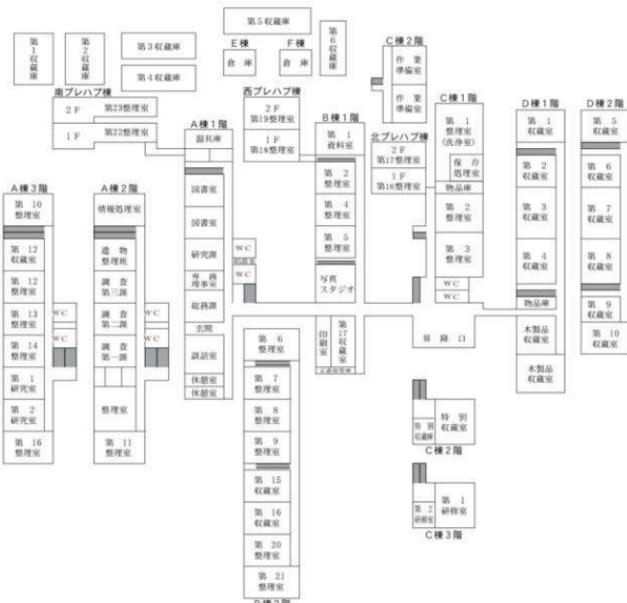
課	職 名	氏 名	所 屬
総務課	局長(兼)総務課長	小笠原正道	県行政職派遣
	総務課長補佐	船越真知子	県行政職派遣
主 事	浅野 ちよ	財团職員	
主 事	原田 英明	財团職員	
事務員	尾形 幸子	財團職員	
事務員	星 とき子		
事務補助員	佐藤 孝子	(19年1月31日退職)	
事務補助員	五十嵐夕子	(19年2月1日採用)	
研究課	調査研究部長(兼)研究課長	尾形 輿典	県行政職派遣
	(兼)調査第二課長	山口 博之	県教育職派遣
	主任調査研究員	安部 由佳	(18年6月30日退職)
	事務補助員	鈴木久美子	(18年11月30日退職)
	事務補助員	加藤 雅	(18年7月1日採用)
	事務補助員	齋野 裕子	(18年12月1日採用)
調査第一課	調査第一課長	野尻 侃	県行政職派遣
	調査研究幹	長橋 至	県行政職派遣
	主任調査研究員	齊藤 主税	財团職員
	主任調査研究員	氏家 信行	財团職員
	主任調査研究員	小林 圭一	財团職員
	主任調査研究員	須賀井新入	財团職員
	主任調査研究員	横 稔	県教育職派遣
	主任調査研究員	石井 浩幸	県教育職派遣
	主任調査研究員	須藤 孝宏	県教育職派遣
	調査研究員	菅原 哲文	財团職員
	調査研究員	佐藤 学	県教育職派遣
	調査員	伊藤 純子	(旧姓: 渋谷)
	調査員	坂 英子	
	調査員	佐藤 祐輔	
調査第二課	専門調査研究員	伊藤 邦弘	財团職員
	主任調査研究員	植松 曜彦	財团職員
	主任調査研究員	渡辺 淳一	県教育職派遣
	主任調査研究員	今田 秀樹	県教育職派遣
	主任調査研究員	押切 智紀	県教育職派遣
	調査研究員	高桑 弘美	財团職員
	調査研究員	高桑 登	財团職員
	調査研究員	高橋 一彦	県教育職派遣
	調査員	長瀬えみ子	
	調査員	須賀井明子	
	調査員	山本 巧	
	調査員	渡辺 敏恵	
調査第三課	調査第三課長	渋谷 孝雄	県行政職派遣
	調査研究主幹	佐藤 正俊	県行政職派遣
	専門調査研究員	黒坂 雅人	財团職員
	主任調査研究員	伊藤 成賢	県教育職派遣
	主任調査研究員	鈴木 良仁	県教育職派遣
	調査研究員	齋藤 健	財团職員
	調査研究員	水戸部秀樹	財团職員
	調査研究員	三浦 勝美	県教育職派遣
	調査員	稻谷 孝	
	調査員	黒坂 広美	
	調査員	吉田江美子	
	調査員	向出 博之	
	調査員	深澤 萬	
	調査員	渡辺 和行	
	調査員	山内 七恵	

C. 施設

財団法人山形県埋蔵文化財センターは、上山市弁天二丁目15番1号に所在する。

当所の施設は、A棟からF棟までの6棟の建物からなる。平成9・10・16年度に整理プレハブ棟を建設する。

A 棟	鉄筋コンクリート3階建	管理棟（専務理事室、総務課、研究課、調査第一～三課ほか）
B 棟	鉄骨2階建	整理・出土文化財収蔵棟
C 棟	鉄筋コンクリート3階建 鉄骨2階建、鉄骨1階建	出土文化財収蔵棟 整理棟
D 棟	鉄骨2階建	出土文化財収蔵棟
E・F 棟	鉄骨平屋建	器材棟（倉庫）
プレハブ棟	2階建	整理棟（北・西・南）3棟
プレハブ棟	平屋建	出土文化財収蔵棟（第1～第6）6棟



II. 事業概要

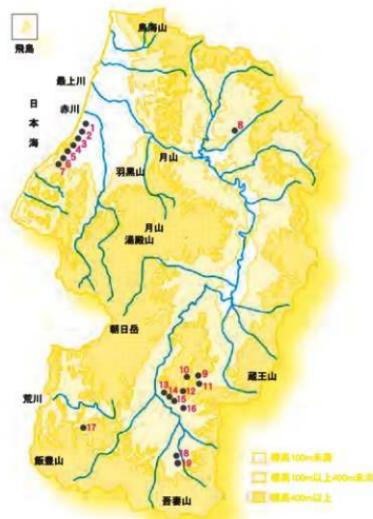
A. 調査業務

平成18年度は、国土交通省および山形県農林水産部並びに土木部から委託を受け、道路建設や農地整備事業などに先だっての発掘調査と整理作業を実施しました。

発掘調査は19遺跡・20件について行い、調査面積は81,251m²になります。出土遺物は土器等1,526箱が文化財の認定を受けました。

報告書作成のための整理作業は15遺跡について実施しました。また、10遺跡・9冊の発掘調査報告書を刊行しました。

- 1 矢牆A遺跡
- 2 南田遺跡
- 3 岩崎遺跡
- 4 玉作1遺跡
- 5 興屋川原遺跡
- 6 行司免遺跡
- 7 木の下館跡
- 8 中川原C遺跡
- 9 中山城跡
- 10 石畳遺跡
- 11 加藤屋敷遺跡
- 12 上野遺跡
- 13 上大作裏遺跡
- 14 天主遺跡
- 15 榆原遺跡
- 16 百刈田遺跡
- 17 下叶水遺跡
- 18 山ノ下遺跡
- 19 稲荷山館跡



※ 本書中の「調査遺跡の概要」の記述内容は概報であり、報告書の刊行をもって本報告とする。

1. 調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	主な時代	遺跡の種別	調査期間
1	上野遺跡（第2次）	南陽市	縄文～古墳・中世	集落跡	2006年5月8日～6月19日 9月4日～9月26日
2	中川原C遺跡（第4次）	新庄市	縄文・中世	集落跡	5月11日～7月7日
3	石畠遺跡	南陽市	縄文・弥生	集落跡	5月15日～8月10日
4	榎原遺跡（第1次）	南陽市	平安～近代	集落跡	8月21日～9月22日
5	榎原遺跡（第2次）	南陽市	平安・中世	集落跡	5月9日～11月9日
6	大作裏遺跡	南陽市	縄文・弥生・平安	集落跡	8月21日～11月9日
7	天王遺跡	南陽市	奈良～中世	集落跡	5月10日～11月17日
8	百刈田遺跡（第4次）	南陽市	縄文～中世	集落跡	2006年11月20日～2007年1月26日
9	中山城跡（第2次）	上山市	縄文・平安～近世	城館跡	2006年4月24日～11月10日
10	加藤屋敷遺跡	南陽市	縄文・古墳・平安・中世	集落跡	5月17日～11月24日
11	下叶水遺跡	小国町	縄文	集落跡	5月8日～11月22日
12	福荷山館跡（第2次）	米沢市	中世	城館跡	7月18日～8月4日
13	山ノ下遺跡	米沢市	縄文・平安	集落跡	5月9日～7月31日
14	興屋川原遺跡（第3次）	鶴岡市	古墳・平安	集落跡	5月8日～11月30日
15	行司免道跡（第3次）	鶴岡市	奈良・平安	墓・祭祀跡	4月17日～11月30日
16	矢馳A遺跡（第3次）	鶴岡市	古墳～平安	集落跡	4月17日～11月30日
17	木の下館跡（第3次）	鶴岡市	中世・近世	城館跡	4月17日～7月14日
18	玉作1遺跡（第2次）	鶴岡市	弥生・古墳・平安	集落跡	7月3日～8月31日
19	岩崎遺跡	鶴岡市	古墳～平安	集落跡・官衙閏連施設	5月8日～9月22日
20	南田遺跡	鶴岡市	古墳～平安	集落跡	9月19日～11月30日
21	梅野木前1遺跡	山形市	古墳～平安	集落跡	平成15・16年度調査
22	亀ヶ崎城跡	酒田市	中世・近世	城館跡	平成16・17年度調査
23	百刈田遺跡	南陽市	縄文～中世	集落跡	平成16～18年度調査
24	庚塙遺跡	南陽市	弥生～平安	集落跡	平成17年度調査
25	中落合遺跡	南陽市	奈良・平安	集落跡	平成17年度調査
26	大塚遺跡	南陽市	平安	集落跡	平成16年度調査
27	西中上遺跡	南陽市	平安	集落跡	平成16年度調査
28	上ノ山館跡	上山市	磐国・江戸	城館跡	平成17年度調査
29	坂地台遺跡	金山町	縄文	集落跡	平成16年度調査
30	下中田遺跡	金山町	縄文	集落跡	平成16年度調査
31	太郎水野1遺跡	金山町	縄文	集落跡	平成16年度調査
32	太郎水野2遺跡	金山町	旧石器・縄文	集落跡	平成16年度調査
33	川前2遺跡	山形市	古墳～平安	集落跡	平成14・15・17年度調査
34	上敷免遺跡	山形市	平安	集落跡	平成17年度調査
35	万治ヶ沢遺跡	鶴岡市	縄文・奈良・平安	集落跡 窯跡	平成16・17年度調査

調査面積 : 平方m	文化財認 定数 : 箱	調査の原因 < 委託者 >	業務内容			調査経費 : 千円
			発掘	整理	報告書	
2,500	7	農地環境整備事業（上野地区）<山形県>	○	○	○	28,958
1,000	18	ふるさと農道緊急整備事業（野中地区）<山形県>	○	○	○	22,685
2,000	60	主要地方道山形南陽線改良工事<山形県>	○	○	○	35,403
1,275	3	主要地方道米沢南陽白鷹線改良工事<山形県>	○	○	○	14,575
7,400	20	一般国道113号赤湯バイパス改築事業<国土交通省>	○	○		53,058
1,800	20	一般国道113号赤湯バイパス改築事業<国土交通省>	○	○		18,563
6,500	14	一般国道113号赤湯バイパス改築事業<国土交通省>	○	○		53,195
600	3	一般国道113号赤湯バイパス改築事業<国土交通省>	○			13,149
8,840	165	一般国道13号上山バイパス改築事業<国土交通省>	○	○		91,330
4,400	140	一般国道13号上山バイパス改築事業<国土交通省>	○	○		58,926
5,900	600	横川ダム建設事業<国土交通省>	○	○		98,956
200	1	東北中央自動車道（福島県境～米沢）建設<国土交通省>	○	○		4,078
3,000	7	東北中央自動車道（福島県境～米沢）建設<国土交通省>	○	○		16,948
8,800	82	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設<国土交通省>	○	○		64,341
2,100	144	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設<国土交通省>	○	○		92,996
13,000	150	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設<国土交通省>	○	○		166,154
750	1	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設<国土交通省>	○	○		19,893
2,786	1	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設<国土交通省>	○	○		17,755
5,000	70	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設<国土交通省>	○	○		41,801
3,400	20	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設<国土交通省>	○	○		24,277
緊急地道路整備事業（一般県道大野に内表線）<山形県>			○	○		5,968
県立高等学校校舎改築事業<山形県>			○			11,926
一般国道113号赤湯バイパス改築事業<国土交通省>			○			19,751
一般国道113号赤湯バイパス改築事業<国土交通省>			○	○		11,792
一般国道113号赤湯バイパス改築事業<国土交通省>			○			4,419
一般国道113号赤湯バイパス改築事業<国土交通省>			○	○		28,952
一般国道13号上山バイパス改築事業<国土交通省>			○	○		8,075
一般国道13号主寝坂道路改築事業<国土交通省>			○			15,386
一般国道13号主寝坂道路改築事業<国土交通省>			○			15,312
須川河川改修事業（下流部）<国土交通省>			○			18,031
須川河川改修事業（下流部）<国土交通省>			○			16,583
81,251	1,526					1,093,236

2. 調査遺跡の概要

上野遺跡

遺跡番号	平成16年度登録
調査次数	第2次
所在地	南陽市大字上野字上野四他
北緯・東経	38度03分37秒・140度09分14秒
調査委託者	山形県
調査原因	農地環境整備事業（上野地区）
調査面積	2,500m ²
現地調査	平成18年5月8日～6月19日、9月4日～9月26日
調査担当者	須藤孝宏（調査主任）、菅原哲文
調査協力	置賜総合支庁産業経済部農村整備課、置賜教育事務所、南陽市教育委員会、南陽市体育館、南陽市農林課、上野フルーツランド整備推進協議会
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代（中期）、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中・近世
遺構	掘立柱建物跡、土坑、溝跡、河川跡
遺物	縄文土器、土製品、石器、須恵器、陶磁器、木製品、石製品 (文化財認定箱数：7)



調査の概要

今回の調査は、山形県置賜総合支庁産業経済部の南陽市上野地区における農地環境整備事業に伴って実施されたものである。上野遺跡の存在は、平成16年12月に県教育委員会によって実施された事業計画区域を対象とする試掘調査の際に確認された。調査の結果、縄文時代および中世の遺構・遺物が検出され、集落跡として上野遺跡が新規登録された。その後、県教育委員会と山形県置賜総合支庁産業経済部との協議の結果、記録保存のための緊急発掘調査を行うことが決まり、山形県埋蔵文化財センターが調査を受託した。第1次調査は、平成17年度に

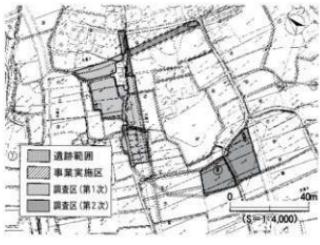
約3,050m²にわたって実施されており、今回が2回目の調査となる。

本年度の発掘調査は、昨年度調査区の北東端から東に延びる果樹園（7区）600m²と、南端から南東に約50m離れた水田（8・9区）1,900m²の2箇所、合計2,500m²が対象であった。調査は8・9区の水田地帯を5月8日から6月19日にかけて、その後中断期間を挟んで、7区の果樹園地帯を9月4日から9月26日にかけてそれぞれ行った。

上野遺跡は、南陽市大字上野字上野4他に所在する。遺跡は南陽市役所から北東へ約750m、吉野川から東に約250mの、上野集落から南側に張出す河岸段丘を中心とした地点に立地する。標高はおよそ233～240mである。現況は水田や畑地、果樹園等になっている。南陽市は、県内最大級の国史跡船荷森古墳があることで有名だが、遺跡周辺にも蒲生田・上野山・二色根・鳥帽子山等の終末期古墳群が分布する。また中世では、伊達氏支配以前から、遺跡南東標高341mの館ノ山・薬師山に軍事的な拠点として二色根館が築かれていた。

遺構と遺物

7区からは約150基の柱穴を検出した。これらの柱穴群から構成される掘立柱建物跡は調査区の西側・中央・東側で合わせて4棟確認されたが、いずれも調査区に



8区SG425完掘状況 (←北東)

よって切られるため、規模は明確にならない。いずれの掘り方内からも遺物は出土していないが、遺存していた柱材や炭化物の分析から、13世紀末～14世紀末および15世紀半ば～17世紀初めに構築されたものの二種に分類できそうである。

7区西部においては、縄文時代の土器片・土製品・石器等を作う土坑・柱穴も検出されている。特に、性格不明遺構SX630からは、縄文時代中期中葉の大木8aおよび8b式土器片や西ノ前タイプ土偶の右脚部がまとまって出土している。

8・9区からは、縄文時代の土坑・河跡・弥生時代の土坑・溝跡・古墳時代の杭跡・中世の土坑等が検出されているが、遺構から出土した遺物は、SX413の杭材（古墳時代）のみである。表土除去の際に、農業用水路の堆積土中から古代から近世にかけての須恵器および陶磁器の破片が多く検出されていることから、圃場整備の際に地表面が削平されたことが推測される。須恵器の器種は壺の蓋と盃である。中世陶磁器では、在地產と思われる

陶器類の他に中国産の青磁が出土している。近世陶磁器では、肥前窯の染付碗・花瓶に加えて、色絵の段重などが出土している。その他の遺物としては、表土および遺構検出面から縄文時代の櫛器・石籠・石核・剥片等の石器が数点検出されている。

ま と め

8・9区においては地表面の削平により、有効な資料が得られなかつたが、7区における遺構・遺物の検出状況から、上野集落が鎌倉から江戸時代に至るまで存続しており、集落がさらに北東および東の方向に広がることが確認された。

また、第1次調査の際に縄文時代の土坑が検出された区域に隣接する7区西部から、中期中葉の土器および土製品が一括して検出された。さらに7区SD567以西の全域において、少數ながら縄文土器片が散見される。以上のことから、縄文時代の集落の中心も調査区から程近い北北東の方向に存在するのではないかと推測される。



7区SB661・SB662完掘状況 (←西)



7区SX630縄文土器片検出状況 (←西)

なかがわら 中川原C遺跡

遺跡番号	平成8年登録
所在地	新庄市十日町字中川原
北緯・東経	38度47分31秒・140度17分37秒
調査委託者	山形県
調査原因	ふるさと農道緊急整備事業(野中地区)
調査面積	1,000m ²
現地調査	平成18年5月11日～7月7日
調査担当者	石井浩幸(調査主任)、須賀井明子
調査協力	最上総合支庁産業経済部農村計画課、最上教育事務所、新庄市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代、中世
遺構	土壙、溝跡、ピット群
遺物	縄文土器、石器、陶磁器 (文化財認定箱数: 18)



調査の概要

中川原C遺跡は、山形県農林水産部の「若い手育成基盤整備事業(野中地区)」に伴い、平成8年度の分布調査により新規発見され、縄文時代の遺跡として登録された。基盤整備に先立ち、平成11年度・12年度と3次わたる発掘調査が実施されている。今回は、遺跡の中央南側にふるさと農道緊急整備事業(野中地区)により農道が建設されることとなり、遺跡にかかる部分の約1,000m²について緊急発掘調査を行なうことになった。事業を予定している箇所は、以前の第3次発掘調査の折、縄文時代の土壙群が発見されていたため、関連する遺構の分布が予想されていた。(図)山形県埋蔵文化財センターでは、県教育委員会・最上総合支庁産業経済部農村計画課と日程や調査方法についての協議を経て、発掘調査を実施した。調査日数は42日である。

新庄市には旧石器時代から縄文時代にかけて多くの遺跡が存在し、現在のところ約120ヶ所の遺跡を数える。

特に段丘上や丘陵には多くの遺跡が存在することが知られており、平成8年度の分布調査によって、本遺跡の周辺にも多くの遺跡が存在することが確認された。縄文時代の遺跡は泉田川に形成された河岸段丘やせり出した台地上に立地している。古くから川や山野の自然の恵みが得られる快適な環境の中にあったものと考えられる。

遺構と遺物

今回調査した区域は、第3次調査時のE区とした調査部分に繋がるところで、南端に埋没した谷状のくぼ地が、北端には河川跡のような落ち込みが見られた。発見された遺構は土壙等11基・溝跡1条・河川跡・ピット群などである。

土壙は性格不明のものも含めて11基確認した。調査区中央部の地形的に高まり部分に密集して分布しており、土壙の上部分は堀場整備時の造成によって削り取られていた。土壙は円形・不規則形・長方形のプランを持ち、覆土から縄文時代後期の土器や石器がまとまって出土している。溝跡(SD18)は調査区の北側で検出した。東壁から西壁に伸びて、幅110cm、深さ40～50cmを測る。覆土から珠洲系陶器片が出土したことから、中世以降の溝跡と考えられる。

南端の斜面部(SG1)は谷状の遺物包含層となっており、斜面部からは多數のピットと縄文時代中期から後期の遺物がまとまって出土した。北端には河川跡(SG20)も見つかっている。

出土遺物としては、縄文時代の土器や石器・中世以降の陶磁器・古銭などがある。遺物は総数で4,248点を数え、遺構内2,883点、遺構外から1,354点である。遺物の内訳は縄文土器・陶磁器類が74%、石器類が25%、その他1%で、大半が縄文時代の遺物である。縄文時代の土器はほとんどが破片資料で、文様のわかるものの観察から、

縄文時代中期と後期前葉の頃のものと考えられる。石器は石鏸・石鑿・籠状石器・石錐などがあり、特に漁撈に関連すると思われる「石錐」が40個以上出土していることが特色である。また河川跡や土壌から「木品片」が出土した。ほぼ完全な形のため信仰的なものか飾品としての用途なのか課題となった。中世以降の陶磁器では珠洲系瓈片・鉢片・唐津焼の碗等が出土した。その他、瓦片2点、古錢「寛永通宝」2枚が出土した。

ま　と　め

今回検出した遺構は、土壙等11基、ピット群、溝跡などで住居跡の検出はなかった。堆積状況から以前の圃場整備によって包含層や遺構のほとんどが削除されていることが確認された。遺物は縄文土器を中心に石器・陶磁器・石製品・土製品が出土した。造成工事の影響を受けなかった谷地状のくぼ地から遺物がまとまって出土している。小規模な谷の周辺と土壙群の近くに住居が営まれている可能性がある。

出土した縄文土器は大半が縄文時代後期初頭から前葉にかけての時期のもので、時間的に限られた資料である。また第3次調査のE区出土の土器とも共通する土器群であることもわかった。最上地域では戸沢村津谷遺跡や最上町水上遺跡・かっぱ道跡から縄文時代後期前葉の土器がまとまって出土しており、当該期における追加資料となつた。数多く出土した石錐も縄文時代後期前葉の時期のものと想定され、ある程度の生業を復元することも可

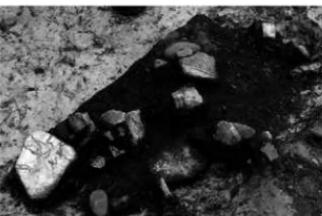


能となった。

遺跡面積60,000m²もの広がりを持つ中川原C遺跡は、縄文時代（中期、後期）、中世（鎌倉時代）の遺構遺物の豊富な内容から、他に比類をみない大規模な遺跡であることが伺える。



調査区全景（南から）



土坑群検出状況（東から）



中川原C遺跡出土の石錐

いし 石 畑 遺 跡

遺跡番号	南陽市M-1
所 在 地	南陽市金山川西字石畠
北緯・東経	北緯38度10分76秒・東経140度15分90秒
調査委託者	山形県
調査原因	主要地方道山形南陽線改良工事
調査面積	2,000m ²
現地調査	平成18年5月15日～8月10日
調査担当者	渡辺淳一（調査主任）・押切智紀
調査協力	置賜総合支店建設部道路計画課、置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時 代	縄文時代、弥生時代、近世
遺 構	土坑、溝跡、沢跡、ピット群、井戸跡
遺 物	縄文土器、弥生土器、石器、土製品、陶磁器、錢貨 (文化財認定箱数：60)



調査の概要

石畠遺跡は、昭和30年頃当地区在住の上浦善助氏によって発見され、「周知の遺跡」となった。その後、県道改良工事に伴い、平成16年度に県教育委員会（以下県教委）による試掘調査の結果、事業区内の2,000m²について記録保存が必要になり、県教委と山形県との間で協議が行われ、記録・保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになった。調査区は、便宜上用水路から北をA区、南をB区とした。

遺跡は、南陽市金山地区に所在し、吉野川の河岸段丘

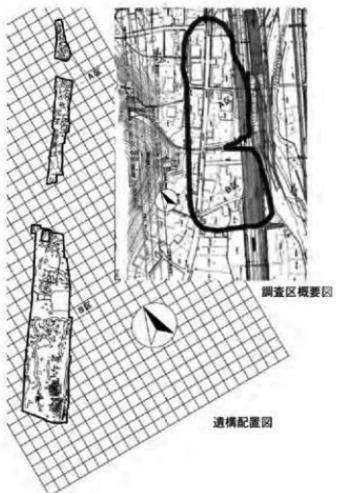
上に立地している。標高は290mを測り、遺跡面積は、1万m²ほどである。

遺構と遺物

今回検出した主な遺構は、土坑や溝跡、沢跡、ピット群などである。土坑は、径1～2m、深さ50～60cmを測るもののが一般的だが、1mも掘られたものもある。溝跡は幅1mのものが多く、上層からの削平で、覆土は何れも浅い。また、B区北側で確認面から1.5m下で検出された沢跡もあった。調査区西側から東側にかけて急激に落ち込む。ピット群は、A区北側に密集しており、掘立柱建物跡や堅穴土居跡の遺構の一部かもしれない。これらの遺構の廃絶した年代は、凡そ縄文時代中期～晩期にあたる。

遺物は、60箱出土しており、縄文土器や弥生土器が大半である。縄文土器は、後期・晩期を主体に弥生時代のものも確認されている。石器は、石鎚や石斧などが見られる。大半の石材は頁岩を用いているが、中には鉄石英を使用しているものもあった。

この度の調査区域は段丘の川側にあるため、生活の拠点からは外れているようであった。集落の中心は、西側の山側にあったと思われる。



調査区概要図

遺構配置図



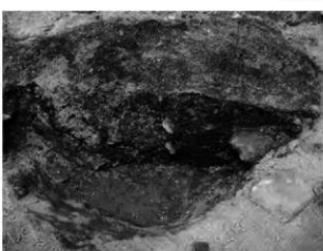
縄文晩期の注口土器



注口土器



調査区全景



土抗断面



遺物出土状況

ひのき 檜 原 遺 跡

遺跡番号	平成8年度登録
所 在 地	南陽市西落合字明神前・東原
北緯・東経	北緯38度05分14秒・東経140度12分98秒
調査委託者	山形県
調査原因	主要地方道米沢南陽白鷹線改良工事
調査面積	1,275m ²
現地調査	平成18年8月21日～9月22日
調査担当者	押切智紀（調査主任）、石井浩幸
調査協力	置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時 代	平安時代、中世、近世、近代
遺 構	掘立柱建物跡、溝跡、土坑、柱穴
遺 物	須恵器、土師器、陶磁器、土製品、石製品、鉄製品 (文化財認定箱数：3)



調査の概要

一般国道113号赤湯バイパス改築事業に伴い、平成7～8年にかけて県教育委員会（以下県教委）が分布調査が実施された。その結果、本遺跡を含め9遺跡の存在が明らかになった。その後、平成16年に今次の工事路線内を県教委が試掘調査を実施したところ、溝跡・柱穴などの遺構や織文土器片1点が発見された。その結果を受けて県教委と山形県との間で協議が行われ、記録・保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになった。また、調査区は先行して調査している2次調査との関係か

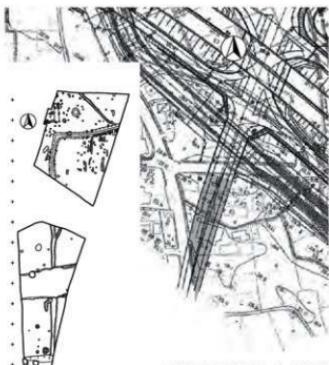
ら、用水路北側をD区、南側をE区とした。

遺跡は、南陽市西落合ほかに所在し、上無川の自然堤防上に位置している。標高は223mを測り、遺跡面積は10万m²を超えている。

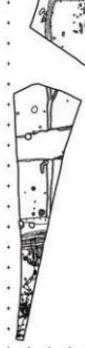
遺構と遺物

今回、検出した主な遺構は、掘立柱建物跡や柱列、溝跡、土坑などである。建物跡はE区南側に集中して検出された。径の小さい柱穴が多く、西側や北側に庇を持つものもあった。溝跡では、L字に屈曲する溝跡（SD1053）が検出された。幅が最大180cmで、一辺50m以上を測る。溝の縁に柱穴が断続的に並んでいた。断面形はV字に近く、「薬研掘」を想起させる。出土遺物から中世前期と考えられる。その他、耕作関連の溝跡や径1.5mほどの土坑など近世・近代の遺構が検出された。

遺物は、須恵器、陶磁器などが出土しているが、大半は陶磁器の類である。中世では、中国製の白磁盤、在地産と思われる瓷器系陶器が挙げられる。14世紀前後に比定されている。近世では、中国漳州産や初期伊万里の皿、福島県岸窯産の捕鉢・甕、戸長里窯産の皿などが挙げられる。その他、近代の陶磁器片が出土している。



調査区概要図 ($S = 1 : 3,000$)



遺構配置図 ($S = 1 : 1,000$)



掘立柱建物群



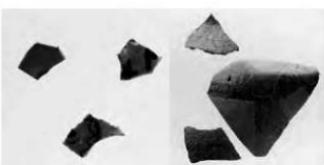
区画溝断面と柱穴列



遺構検出



土坑出土状況



中・近世の遺物

ひのき 檜 原 遺 跡

遺跡番号	平成8年度登録
調査次数	第2次
所在地	南陽市大字中落合字榆原他
北緯・東経	北緯38度03分07秒・東経140度07分47秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道113号赤湯バイパス改築事業
調査面積	7,400m ²
現地調査	平成18年5月9日～11月2日
調査担当者	今田秀樹(調査主任)、伊藤邦弘、深澤 篤
調査協力	置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	奈良・平安時代～中世
遺構	掘立柱建物跡、井戸跡、竪穴状造構、溝跡、河川跡、土坑、柱穴
遺物	土師器、須恵器、中世陶器、木製品、古銭 (文化財認定箱数: 20)



調査の概要

榆原遺跡は、南陽市南部の沖郷地区に位置し、今回の調査は、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の「国道113号赤湯バイパス改築事業」に係る緊急発掘調査として実施された。

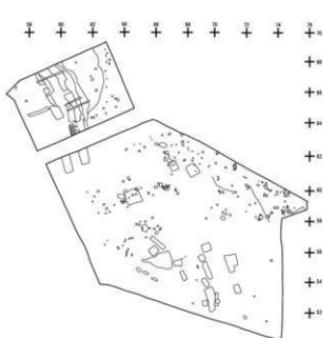
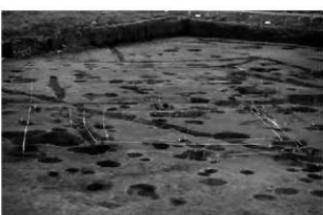
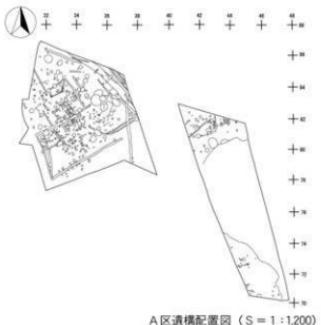
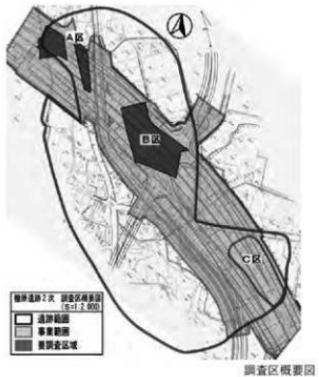
平成8年度に県教育委員会が計画路線内を踏査し詳細分布調査を実施した結果、榆原遺跡が確認・登録されることになった。平成17年度には路線内の試掘調査がなされ、平安時代の土器などの遺物や遺構が検出された。

この結果をもとに、県教育委員会と山形河川国道事務

所の協議が行われ、事業予定地にかかる埋蔵文化財については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受けて、記録保存のための緊急発掘調査を実施することとなった。

調査は、5月9日から11月2日までの約半年間に及んだ。今回の調査区域はA区・B区の計7,400m²で、次年度にはC区の調査が引き続き行われる予定である。

遺跡は、吉野川と織機川に形成された宮内扇状地の扇央部、上無川の自然堤防上に位置し、標高は約222mを測る。南陽市には数多くの板碑が残っており、9世紀の創建と伝えられる宮内熊野神社の存在、経塚造営などからも、平安時代以降のこの地における庶民信仰の高まりと宗教行事の民衆化が広く浸透していたであろうことが理解できる。(石井浩幸ほか 2006『鶴の木館跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第150集) A区の南約200mにも板碑があって、「永仁」の紀年銘が読み取れる。



遺構と遺物

今回の調査では、掘立柱建物跡・井戸跡・堀跡・区画溝跡・溝跡・竪穴状遺構・河川跡・土坑・柱穴などの遺構が確認された。

A区では中世を主体とする遺構が検出され、中央部では掘立柱建物跡5棟が密集して見つかった。互いに重なり合っているものもあり、建て替えが行われたと考えられる。付属する施設として、木製の枠を持つ井戸跡1基のほか、素振りの井戸跡6基と解説を確認した。北東部では幅およそ2m、深さ約80cmの区画溝が見つかった。

B区の遺構は平安時代のものである。竪穴状遺構が3基と溝跡、河川跡などが検出され、河川跡からは土師器・須恵器が多数出土した。特筆すべきは、被熱して床や壁が真っ赤に焼けた遺構が30基ほど見つかったことで、形状は方形や溝状のものが多い。

遺物は、土師器・須恵器・中世陶器・古銭・近世陶磁器のか、繩文土器や石器も出土した。A区の掘立柱建物を構成する柱穴からは礎板や礎石が見つかった。中世陶器は在地系のものと考えられる。古銭の一つは北宋の「元祐通寶」(げんゆうつうほう、初鑄は1086年)で掘立柱建物群近くの柱穴から出土した。B区河川跡出土の土師器・須恵器はほとんどが壺や甕である。また、繩文土器や石器の出土から、近くに縄文時代の遺跡があることが考えられる。

まとめ

調査により明らかになったこと、および今後の調査・研究の課題を整理すると次のことがらがあげられる。

A区の掘立柱建物跡は、板塀や区画溝などの付属する施設を含めて、出土した陶器、古銭が流通した中世の遺構と考えられる。

A区の大小の溝跡は、建物を区画したり囲んだものと推測でき、当時の居住域は、調査区の北や南の方向にさらに広がっていたものと考えられる。B区では、調査区東側を蛇行する河川跡から土器が多数出土したこと、竪穴状遺構が見つかっていることなどから、集落の中心は調査で見つかった旧河川の東側に存在すると推察される。

B区西側の焼土遺構の性格については不明な点が多く、類例などを調査中だが、土師器焼成や製鉄、鍛冶などの生産にかかる遺構、あるいは火を使った祭祀の場であった可能性などが考えられる。



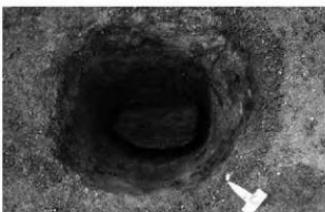
永仁銘板碑（東から）



堀跡（南東から）



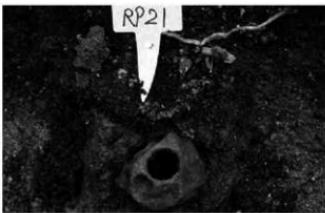
井戸跡（西から）



礎板出土状況（南から）



区画溝（南東から）



縄文土器出土状況（東から）



土坑遺物出土状況（南から）



土器



竪穴状遺構断面（南から）



須恵器



調査風景（河川跡、南東から）



中世陶器

かみ 上 大 作 裏 遺 跡

遺跡番号	平成17年度登録
所 在 地	南陽市大字砂塚字大作前ほか
北緯・東経	38度03分28秒・140度06分43秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道113号赤湯バイパス改築事業
調査面積	1,800m ²
調査担当者	須賀井新人（調査主任）、小林圭一
調査協力	置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時 代	縄文時代、弥生時代、平安時代
遺 構	土坑、陥穴、畝状遺構、ピット、柱穴
遺 物	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器、木製品 (文化財認定箱数: 20)



調査の概要

上大作裏遺跡は南陽市街地から西方約4.5kmに位置し、縄文・弥生・平安時代の三時期の集落跡と推測される遺跡である。その範囲は現況の地形等から推察して、広域的に河岸段丘上の人東西約500m・南北約200mと考えられている。今回の調査は昨年度の試掘調査の結果に基づいて、道路範囲の東端域に調査区を設定し、8月21日から実施した。調査の進行に伴って、東側および南側の段丘縁辺部に遺物を多く含む堆積層の存在が確認されたため、途中一部を拡張して調査している。

また、今回の調査区西側で県教育委員会が試掘調査を

実施したところ、約4,000m²の範囲に遺構・遺物の散布が確認されたことから、平成19年度に第2次調査が行われる予定である。調査で得られた資料は整理作業を通じて検討を加え、次年度分と合わせて平成20年度以降に報告書を刊行するものである。

検出遺構

河岸段丘の端部に設定した調査区から検出された遺構には、縄文時代の陥穴、縄文または弥生時代の土坑やピット、平安時代の土坑や畝状遺構などがある。このうち、出土遺物等から構築時期が明らかなものは一部に限られる。調査区内に住居跡が存在しないことから、当地が各時代の集落の一部であったことは推測できるが、居住域は北側の微高地にある可能性が考えられる。1基見つかった縄文時代の陥穴や、平安時代の畝状遺構の存在から、当地は集落域の外縁として利用され、狩猟場や畠地であったものと想定される。

調査区東辺と南辺は段丘の縁辺に当たるが、この端部は幅3m程にわたって埋め立てたことによってできた地形であることが判明した。その堆積土内からは多くの遺物が出土しており、縄文時代の土器や石器と弥生・平安時代の土器が混在する状況を呈していた。

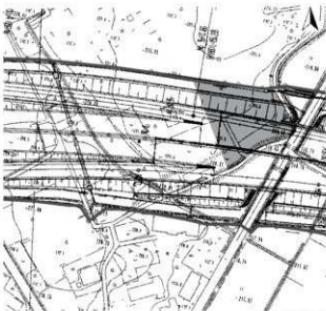
出土遺物

縄文土器と打製石器、弥生土器、平安時代の土師器や須恵器、それに時期不明であるが木製品が1点出土している。これらの大半は、縁辺部の堆積層内から出土したものである。土器類はすべて破片資料で、縄文土器では時期が明らかなものとして、窯穴から出土した前期末葉の大木輪式土器がある。石器の点数は少ないが、石鎧・石笠・石器などの器種が認められる。弥生土器は半截竹管等による2本一対の平行沈線を引いた文様に特徴があり、弥生時代中期後半の桜井式に比定される。平安時代の土器も器形が窺えるものはほとんどないが、須恵器の壺・甕などが出土している。縁辺部堆積層の最下層から出土した木製品は農耕具の鍬と判断され、その形状から古墳時代以降の製品と考えられる。

まとめ

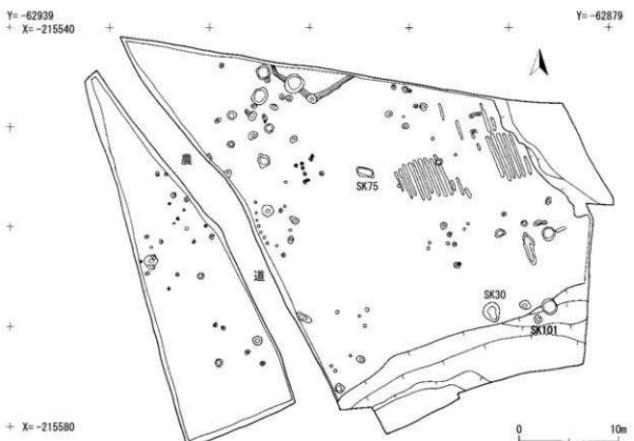
上大作裏遺跡は縄文・弥生・平安時代の三時期に跨られた集落跡である。調査の成果を要約すると以下のようになる。

遺構・遺物の分布状況や地形等から、当時の集落の居

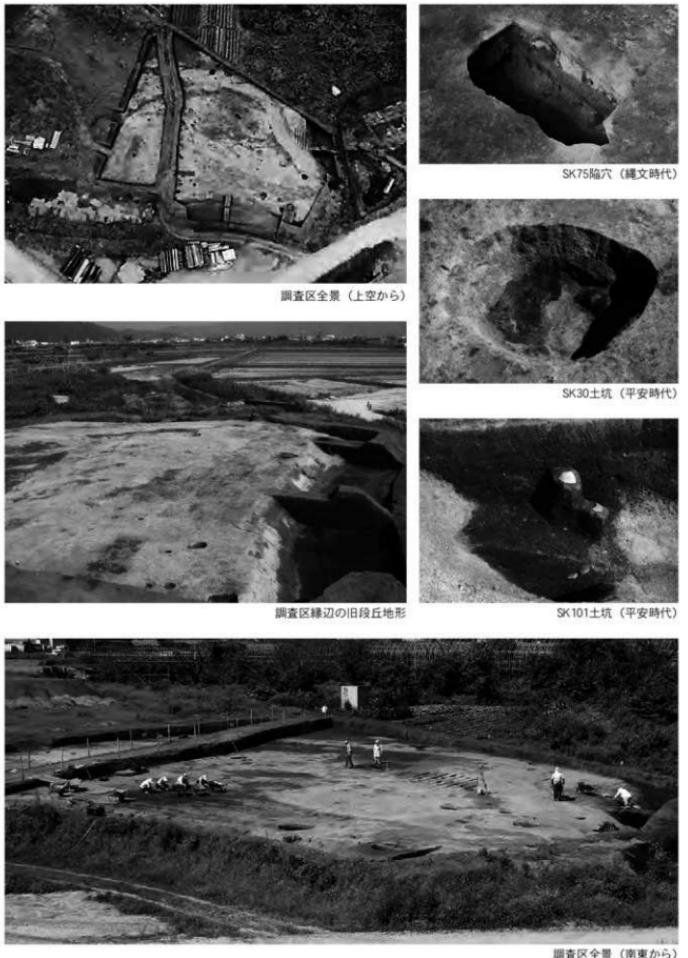


調査区概要図

住域は調査区北側に広がっていたものと推察される。遺物は20箱分量を数えるが、中でも県内では資料数が少ない弥生土器が主体を占め、昨年度の調査で同時期の土器が一括出土した遺跡との関連も窺われる資料を得ることができた。



遺構配置図





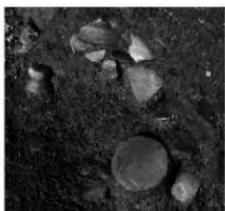
調査区東縁の堆積層



調査区南縁の堆積層



木製品（瓶）出土状況



弥生土器出土状況



弥生土器出土状況



縄文土器・打製石器



弥生土器



弥生土器



須恵器

天王遺跡

遺跡番号 平成8年度登録
所在地 南陽市大字塗山字天王・塚原二
北緯・東経 38度03分26秒・140度07分04秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因 一般国道113号赤湯バイパス改築事業
調査面積 6,500m²
現地調査 平成18年5月10日～11月17日
調査担当者 高橋一彦（調査主任）、高桑 登
調査協力 置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺跡種別 集落跡
時代 奈良・平安時代、中世
遺構 溝跡、堀跡、井戸跡、土坑・柱穴等
遺物 土師器、須恵器、中世陶器、木製品、石製品
(文化財認定箱数：14)



調査の概要

天王遺跡は南陽市宮内の熊野大社から南西約4kmに位置し、遺跡の中央には、近くの砂塚集落から宮内に抜ける古くからの道が通っている。遺跡の北側は、遺跡が立地する微高地が低地に向かって半島状に張り出している。そこに地元の人が「テンノウさま」と呼ぶ祠があり、遺跡名の由来にもなっている。遺跡の北東の大仏（おぼとけ）集落には山形県指定文化財の「文和三年阿弥陀板碑」が建つ。

今回の調査は国道113号線赤湯バイパス改築事業に係

る遺跡の面積13,000m²のうち6,500m²を対象に実施した。来年度残りの6,500m²の調査を行う予定である。

遺構

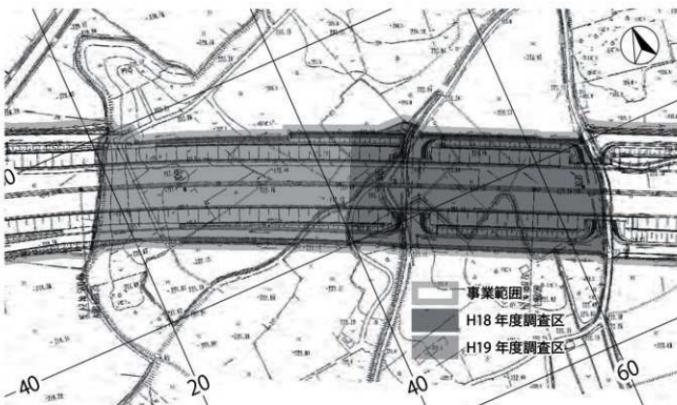
調査区の西側で館の堀が見つかった。堀は幅約8m、深さ約1mの規模で、人为的に埋められていた。堀の一部は幅が狭くなっている。館の出入り口と考えられる。「テンノウさま」を屋敷神とする大規模な方形館の可能性がある。方形館の中心は、調査区北側の果樹畠付近と考えられる。

堀の東側には柱穴や井戸が数多く見つかった。館の前面に集落があったと考えられる。柱穴や井戸は周辺よりやや高く、水はけのよい場所に集中している。低地の部分からは調査区を横断する溝が見つかっている。調査区の南西部からは細い溝が並んだ畝状遺構がまとまって見つかった。

大規模な堀で囲まれた館の前面に、柱穴・井戸が集中する居住城と、畝状遺構が分布する生産城が展開する景観が復元できる。

遺物

遺物の多くは堀と溝から出土した。かわらけ、珠洲、瓷器系陶器、青磁、古瀬戸などの中世陶器、木筒や曲物などの木製品、砥石や茶臼などの石製品が出土している。



調査区概要図 (1/2,000)

13世紀から14世紀頃の中世前半のものが中心である。

また、堀の最上層から板碑が出土した。置断地方に多い家型板碑と呼ばれるものである。遺跡の近くに立つ文和三年阿弥陀板碑とあわせ、板碑を立てた人々と今回見つかった館や集落の住人との関連がうかがえそうである。

また、縄文時代、古墳時代、奈良平安時代の遺物も出土している。周辺にその時代の遺跡があると考えられる。

今回の調査で見つかった中世の方形館と集落は、周辺に残る石造物や地名などと合わせて、地域の歴史を考える上で貴重な資料となる。



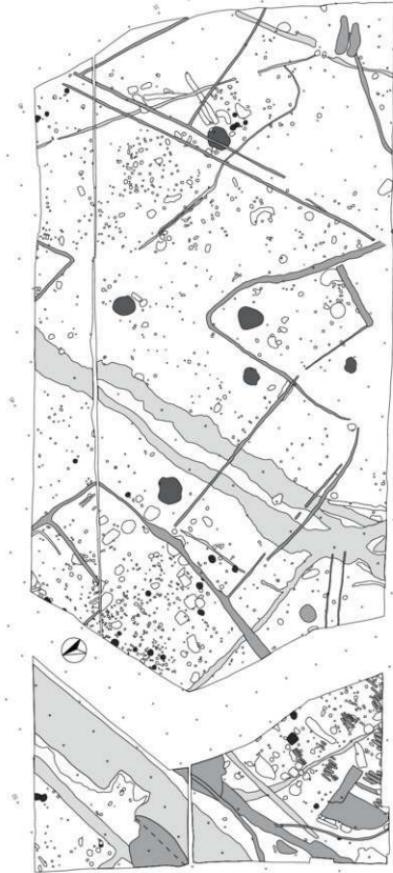
調査区全景（南東から）



幅約8m、深さ約1mの堀跡



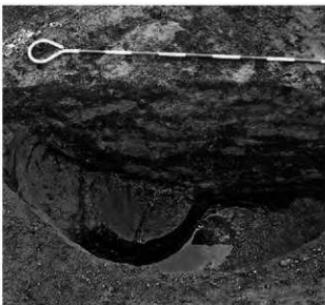
調査区中央で見つかった2条の溝跡



造構配置図 (1/600)



茶臼の出土状況



曲げ物の出土状況



古銭・瀬戸美濃・かわらけ・青磁



堀跡から出土した板牌



珠洲



瓷器系陶器

ひやく ひの だい しゆ

遺跡番号	平成14年度登録
調査次数	第4次
所在地	南陽市大字島賀字百刈田
北緯・東経	38度02分20秒・140度08分22秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道113号赤湯バイパス改築事業
調査面積	600m ²
調査担当者	須賀井新人（調査主任）、深澤 篤
調査協力	置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代～中世
遺構	河川跡（自然流路）
遺物	縄文土器、土師器、須恵器、木製品 (文化財認定箱数：3)



調査の概要

百刈田遺跡は国道113号赤湯バイパス改築にかかる県教委の分布調査により、平成8年度に遺跡可能性地として報告され、平成14年度の試掘調査で正式に登録された遺跡である。

遺跡の位置する島賀地区は、吉野川と上無川に挟まれた宮内扇状地の先端部にあたり、東側を流れる吉野川によって形成された自然堤防上に立地している。本道跡東方約1.2kmには国指定史跡の稻荷森古墳があるほか、赤湯駅周辺の郡山地区には、古墳時代から平安時代の遺跡が数多く確認されている。

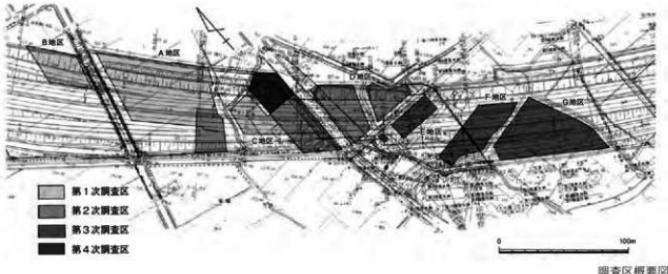
百刈田遺跡では、これまで平成15年度から3カ年にわ

たる発掘調査を実施してきた経緯がある。第1次調査(平成15年度)では縄文時代中期の住居跡や土坑をはじめ、古墳～平安時代の遺構・遺物が発見された。平成16年度の第2次調査では、今次調査の対象となった河川跡の掘り下げを行ったほか、縄文時代住居検出範囲を拡張して継続調査を実施した。また、昨年度の第3次調査では弥生時代から中世までの遺構や遺物が見つかり、県内では初例となる弥生時代中期の土器群が一括出土したことは特記される。

第4次となる今回の調査では、2次調査で検出された河川跡の北側約600mを対象としたが、降雪期のため12月からは仮設の覆屋内で調査を実施した。

河川跡と出土遺物

今回の調査範囲は、全域が吉野川の旧支流と推測される河川跡に属している。現地表下約70cmで確認したところ、南北方向で「く」の字状に蛇行する最終の河道部が検出された。蛇行部に試掘溝を設定し、流木や古墳時代の遺物が出土した地点(約1.8m下)までを上層面として、覆屋内全域を掘り下げた。この面の記録を行った後に遺物を取り上げ、さらに下層の調査を実施した。約3m掘り下げたあたりから、これまで粘質土だった堆積層が砂礫に変わり、流木に混じって土器片が点在する状況から、



これを川底と判断して下層面の記録を行った。

遺物は主に上層面から多く出土し、最終河道であった調査区西半に集中している。蛇行部付近からは、口縁部のみを欠損する古式土器の壺が出土したほか、高杯や丸底鉢・甕の器種が認められた。これらは、古墳時代前期4世紀代の土器と推測される。木製品では欠損により完全な形状のものはないが、棒状に加工したものが多く出土した。他に、1/2の残存ながら舟形木製品も見つかり、満田での貨物運搬に使用した「舟舟」と考えられる。下層の遺物は繩文土器も含まれていたが、砂礫層から出土したことでも原因为して、大半は摩滅した小片であった。

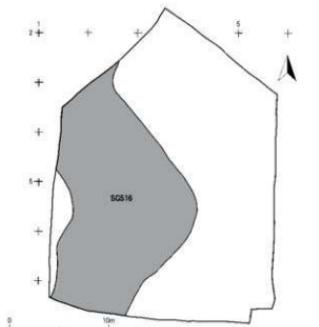


ま と め

これまでの調査結果から、百刈田遺跡は縄文時代中期から中世にかけての集落跡であることが判明した。第1次～4次調査の成果をまとめると、以下のような。

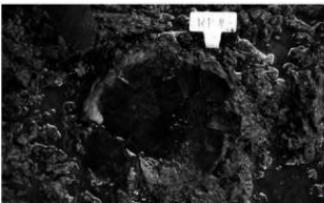
検出された主な道構は縄文時代の住居跡群、弥生時代の墓域、古墳～奈良・平安時代の溝や土坑などである。これらは遺跡範囲のほぼ中央を流れる河川跡を境にして、縄文時代と古墳時代には河川の西側、弥生時代と奈良・平安時代には河川の東側に聚落が営まれたようである。吉野川の旧支流と考えられる河川跡は、縄文時代から流れていたと思われ、川幅を徐々に狭めながら平安時代頃には洪水によって運ばれてきた多量の砂により、完全に埋没したと想定される。

遺物は4年間に及ぶ調査で累計150箱を超える量が出土した。特に、一括出土した弥生時代中期の土器群は県下では初例となることから、当時の埋葬の形態が窺われる貴重な資料を得ることができた。





調査区覆屋



土師器壺出土状況



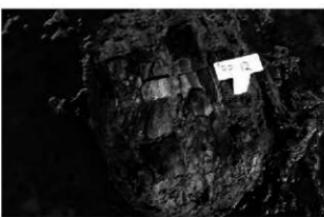
覆屋内の調査風景



土師器小型丸底鉢出土状況



河川跡上層面遺物出土状況



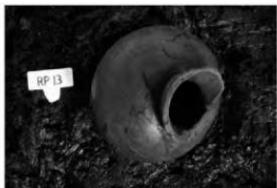
土師器壺出土状況



河川跡の土層断面



土師器小型丸底鉢出土状況



土師器壺出土状況



棒状木製品出土状況



土師器壺・棒状木製品出土状況



舟形木製品出土状況



河川跡上層面完掘状況



河川跡下層面の掘り下げ状況



河川跡下層面完掘状況

なかやまじょうしろ

遺跡番号	207-001 (山形県中山城跡報告書)
調査次数	第2次
所 在 地	上山市中山字上郭武
北緯・東経	38度07分30秒・140度12分55秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道13号上山バイパス改築事業
調査面積	8,840m ²
現地調査	平成18年4月24日～11月10日
調査担当者	横 綾(調査主任)、佐藤祐輔、阪 英子、小林圭一
調査協力	村山教育事務所、上山市教育委員会
遺跡種別	散布地、城館跡
時代	縄文時代、平安時代、安土桃山時代、江戸時代、明治時代
構造	曲輪跡、武家屋敷跡、掘立柱建物跡(礎石建物)、土坑、井戸跡、溝跡
遺物	近世陶磁器、石製品(砥石・硯・硯臼)、木製品(漆器・曲物・柱根)、金属製品(古鉢・キセル) (文化財認定箱数: 165)



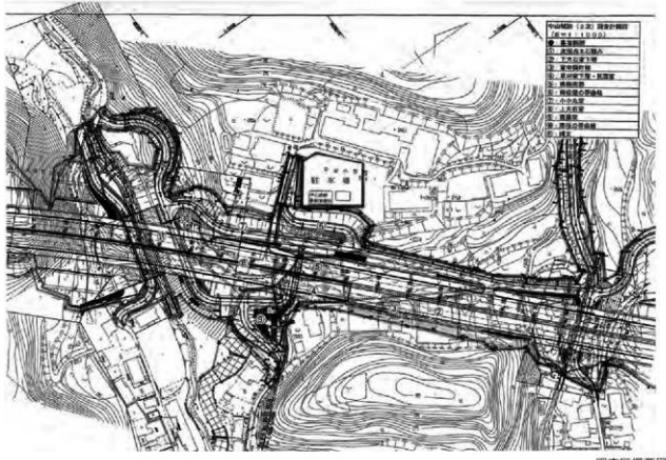
調査の概要

今回の調査は、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所の一般国道13号上山バイパス改築事業とともに実行された。山形県教育委員会が実施した中世城館遺跡調査の結果、平成7年度に遺跡登録された。現在まで県教育委員会は、平成9・10・15年に試掘調査を行っている。上山市教育委員会は、平成13年に試掘調査、平成14年には宅地予定地の調査をした。また上山市は平成10年に「中山城跡調査会」を組織し、地理、歴史、宗教、文化、自然等について広範な調査を行って、「中山城跡調査報告書」を平成15年によどめた。

戦国時代に築城されたとされる中山城は、上山市の南西端、上山盆地と米沢盆地の間に位置する標高343.9mの天守山に築かれた山城である。伊達氏、蒲生氏の支配を経て、1598年に上杉氏の領地になった。天守山の頂上の本曲輪には、蒲生氏の時代に築かれたと推測される石積みの物見台があり、二の曲輪、三の曲輪ともに良好な状態で残っている。北側を横川、南側を権現川に挟まれ、東側には標高282.5mの前森山と称する小高い山があり、自然の要害を利用した防備である。

中山城が立地する中山地区は、米沢方面と山形方面と結ぶ交通の要衝にあたり、昭和32年に上山市に合併するまでは、東置賜郡中川村(現南陽市)に含まれ、置賜と村山の都境となっていた。1600年(慶長5)には、関ヶ原戦に連動した上杉軍と最上軍の戦いで戦場となつた。江戸時代初期は、米沢藩の5支城の一つとして、中山城には、上杉氏直属の家臣が配属されて、藩境の防備にあつたが、1692年に中山御役屋と改称されて支城体制が変わつた。上杉氏は米沢街道沿いに領境の開所、中山御番所を設置し、旅人の取り締まりや物質の流出を監視して藩境を警備していた。

調査区域は、曲輪跡と考えられている部分と家中屋敷



調査区概要図

といわれる上杉家臣が居住していた武家屋敷跡で、天守山と前森山の狭間にあたる。

1次調査では、草刈家北側、西方家、内藤家、岡沢家、次郎兵工、原田家、下西方家、横爪家、下大石家、藤本家、上岡田家の武家屋敷跡を調査した。また、旧中山小学校グラウンド直下部分の平坦地（御役屋の帶曲輪跡）と前森山西北西部の曲輪跡の調査を行った。

2次調査では、昨年に続いて下大石家の下畠、小中丸家、上大石家、尻高家、草刈家南側、斎藤家の武家屋敷跡を調査し、道路関係では、次郎兵東側の石積みとそれに沿う市道「家中横町線」、藤本家と岡沢家の間の市道「家中横町線」、館坂から中山城跡への登り口（通称こぶし坂）を調査した。曲輪跡では、小中丸家と上大石家の南斜面、御役屋の帶曲輪跡を調査した。

また、調査区南側の榎沢沿岸を、山形県教育委員会が平成18年3月に試掘し、繩文土器が出土したため、この一帯が2次調査の調査範囲に追加され、調査区とした。同調査区の東端は斎藤家と隣接している。

2次調査は、平成18年4月24日から開始した。各武家屋敷や曲輪跡を調査区に設定し、重機による表土除去後

は、ジョレン等の道具による面整理、遺構の検出、5m方眼座標の設定を行い、地層断面や遺構平面のデジタル測量による記録、写真撮影、遺物の取り上げなどをを行い、11月10日に調査を終了した。

遺構について

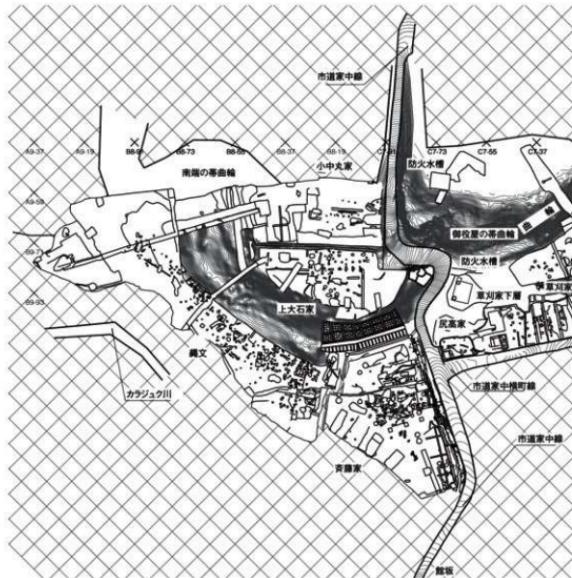
調査区内には、上杉家臣24家のうち15家が置かれていた。検出された遺構は、武家屋敷跡の石積み、掘立柱建物跡、礎石建物跡、土坑、井戸跡、溝跡、埋設桶遺構、柱穴跡、墓跡がある。

1. 整地・盛土

武家屋敷跡については、傾斜地を削り、低いところを埋め立てて整地していることが調査によって確認できた。これらの工事は、江戸・明治時代から最近まで、機会あることに行われている。

2. 石積み

調査区内に残っていた石積みは、下大石家北側、下大石家西側、次郎兵東側、斎藤家北側、上大石家北側のS字型板道部分にあった。上山市教育委員会が所有する

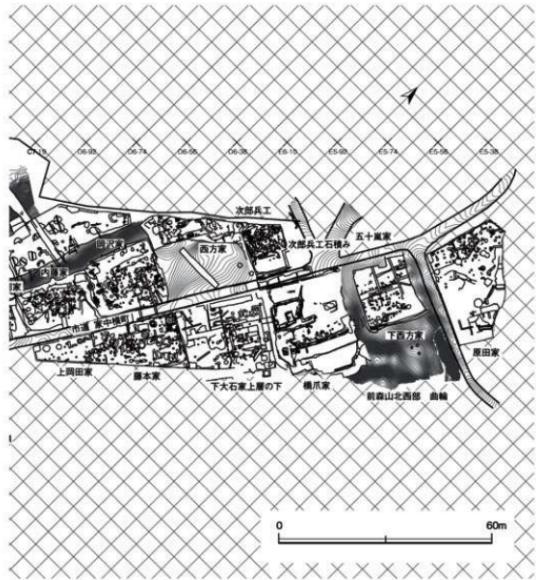


写真(2001年撮影)によると、草刈家へ内藤家へ岡沢家東側の市道「家中横町線」に沿った部分、岡沢家南側の内藤家との境界付近、次郎兵氏北東部分に石積みが確認できる。尻高家東側の市道「家中横町線」に沿った部分にもあったと聞くが、存在していない。

1次調査では、原田家の東側に一列に並ぶ石を確認した。岡沢家南側で内藤家との境界付近では、上山市教育委員会が所有する写真に石積みの土台部分を確認することができる。

これらは、武家屋敷跡ということで、江戸時代に築かれたと言われているが、2次調査の結果、すべてを江戸時代からの石積みとすることはできないと考えられる。その根拠として、①上大石家北側のS字形階段部分の石積みは、登り口（通称こぶし路）を調査した結果、石積みの下から現今の麻袋が出てきた。②下大石家西側石積

みは、切り石でしっかり組まれており、明らかに新しい造りである。1次調査では、北西部の角部分で高さ約2.3m、現在の道路から1.3m下まで続いていることを確認していたが、2次調査の結果、家中横町線も深さ約1.3m昔の道跡が確認され、道路が盛土されていったこと、下大石家の下層約0.5mにかけての生活面があることから、下大石家西側石積みは、明治になってから構築されたものではないかと推測する。また石積みの裏から近年の碎石を確認し、石積みを組み直したことがうかがえる。
③下大石家の北側石積みは、地表に出ている面が高さ約1mだったが、調べた結果、高さ約2.4mになった。下大石家の下層に漆塗しの布が見つかった生活面の層があることなどから、当初からこの高さまで石を積んだのではなく、最初に低い石積みがあり、道路「家中横町線」や橋爪家の埋立てなどで、下大石家の石積みもかさ上げ



中山城跡 遺構配置図

していったのではないかと考える。④次郎兵工東側の石積みは、高さ約1.6mであったことを2次調査で確認し、昔の道路「家中横町線」を盛土していく度に、石積みが埋まっていたことがわかった。石積みの断面からは、型紙摺の染付が見つかっている。また、⑤上山市教育委員会が平成13年に行った岡沢家石積みの部分試掘では、耕作土を切って石積みが構築されていると報告していることなどが挙げられ、家中屋敷すべての石積みを、江戸時代からのものとは考えられない。

しかし、①岡沢家や内藤家などの跡地では、近年の整地によって、石積みが動いていることも十分考えられる。また、②丹家に伝わる文書には、平塚家が書いた「石垣破損についての覚」1830年（文政13）が存在しており、平塚家東側は幕末から続く石積みであることは間違いない。③岡沢家南側で内藤家との境界付近の石積みと考

えられる土台石の部分から、18世紀以降の生産と考えられる陶器が出土している。④明治時代以降武家屋敷が24家の内、少なくとも13家が明治時代中に家中屋敷から離



下大石家石積み

れており、7家に減っていったことなどを考慮すると、家中屋敷すべての石積みを、明治時代以降のものとすることもできない。

3. 杉の生垣

米沢城下の屋敷では五加の垣根がよく知られており、調査区内や家中屋敷に五加が残っていた。しかし、平塚家、岡田家、斎藤家の3家には杉の生垣があり、地元古老から、中山地区の杉生垣の存在は、家中地区に上杉氏直属の家臣が配属され、武家屋敷が形成されてきた頃と密接な関係があるのではないかと指摘を受けた。木材用の杉に比べて、生垣の杉は極めて成長が遅いと言われる。現調査区内の斎藤家には、34本の杉の切り株を確認し、8本をサンプルとして持ち帰り、年輪年代を測定した。中心部分が朽ちて空洞になっている杉が大部分であるが、残りの良い杉の1本は年輪136層を数え、幕末頃の植栽と考えられる。



家中横町線道路跡

4. 石段跡

小中丸家では、道路から続く石の並びを検出した。同じ道路の並びである調査区外中村家の入り口には、現在も使用中の石段があり、同一形態であることから、江戸時代から使用されていた屋敷入り口の石段と推測される。

5. 道路跡

次郎兵工東側の石積みに沿う「家中横町線」、藤本家と岡沢家の間の「家中横町線」を部分調査した。

次郎兵工東側石積みに沿う道路は、旧道のアスファル

ト下から次郎兵工東側石積みに沿って、石で土留めした水路が検出された。さらにその下から、木材で土留めをした水路と水場遺構が確認され、多数の近世陶磁器や真輪の御金、包丁などが出土した。土留めを取り除いた最下層の道路は、幅約1.2~2.0mで、道の両側に側溝が確認された。この部分の道路は、下大石家前が、北から南へ上り坂だった所で、道路を盛土していく度に、石積みが埋まっていったと考えられる。盛土の深さは約1.4mである。

藤本家と岡沢家の間のアスファルトの現道は、岡沢家石積みを壊した部分に拡幅して造られており、下層のアスファルト直下がかつての道路と考えられる。旧道幅は、織の跡から約1mを超える程度である。

また、中山城第一の虎口と言われている坂道部分（通称こぶし坂）を調査した結果、石で土留めをした旧道が出土した。昭和32年創立の中山小学校造成時にS字形の道路にするまで使用されていた。



小中丸家石段跡

6. 挖立柱建物・礎石建物

最近までの家中屋敷や中山地区における建物の土台の様子を、複数の地元住民から聞くと、現在の家に建て替え以前は、柱を地面には埋めないで、大きく扁平な礎石の上にのせて構築された礎石建物であることがわかった。昨年移転するために壊された上大石家の建物は、天保6



齋藤家掘立柱建物跡



下大石家石組み井戸跡

年（1835）の棟札があり、最近まで何回も増築されているようだが、礎石建物であった。下層からは掘立柱建物跡が検出された。

下大石家の建物跡でも栗石を固めて敷いた礎石が検出され、礎石建物であったことがわかる。下層からは、同様に掘立柱建物跡を検出した。

草刈家からも明確な礎石建物跡が検出され、明治時代に廃棄された建物跡と考えられる。草刈家の一部を下層まで掘り下げたところ、柱穴状の遺構が確認され、掘立柱から礎石建物への変遷が考えられる。

調査区外の平塚家も現在の建物に建て替え前は、礎石建物であったと現当主は証言している。中村家の建物も増築されているものの、古い柱は礎石の上にのせてある。これらのことから、幕末から明治時代の家中屋敷は礎石建物になっていたのではないかと推測する。

7. 井戸跡

井戸跡は、素掘り、円形の石組み、方形の石組み、縦板横桿隅柱の4形態が確認された。調査区内の武家屋敷跡で、井戸跡を確認できなかったのは、原田家、下西方家、岡沢家、草刈家、尻高家、小中九家、斎藤家である。

8. 埋設桶遺構

埋設桶遺構は、1次調査では、直径約1m弱の桶が14基埋設されているのを確認した。廻跡ではないかと推定した9基の土壌をサンプリングし、寄生虫卵分析の結果、明確に廻と断定できるものはなかった。2次調査では、肥溜めと最近まで使用していたトイレの土壌を採取し、

1次調査の結果と比較し、肥溜めの可能性をさぐりたいと考えている。

9. 溝跡

溝跡は、1次調査では御役屋の帯曲輪跡、内藤家、岡沢家、西方家の上、次郎兵卫、藤本家、橋爪家、下西方家から検出した。2次調査では、御役屋の帯曲輪跡の斜面、草刈家南側、尻高家、下大石家と橋爪家、小中九家と下大石家との南斜面曲輪跡から検出した。

下大石家と橋爪家の溝については、下大石家から橋爪家を経て下西方家につながることがほぼ確認でき、削られた前の前森山山裾に沿っていた可能性がある。

10. 曲輪跡

1次調査の草刈家から西方家西側の一段高い部分、御役屋の帯曲輪跡平坦地は、上層が重機によって整地擾乱されており、最近の樹木痕多数と1m下からも重機の爪痕が見つかった。西縁は重機による整地層のすぐ下が地山であるが、東縁は下層部分が近世陶磁器の出土する層で、岸窯産の香がも出土していることから、近世に平坦にする整地が行われていたと考えられる。

1次調査の前森山の北西部には、調査区内から4段の平坦地が確認された。しかし、隣接する橋爪家は2m以上の盛土で、その下からは型紙模の染付が見つかっており、明治時代以降に前森山を削って盛土にしたものと考えられる。このことから、前森山全体から北西部の曲輪の形状を考える必要があり、4段の平坦地すべてが、中世からの曲輪跡であるとは結論付けられない。



南端の帶曲輪跡



縄文調査区全景

2次調査では、小中丸家と上大石家の南斜面と御役屋の帶曲輪跡の斜面を調査した。旧中山小学校グラウンド部分は、整地層で、東側の縁は2m以上の盛土となっていることを確認した。

小中丸家と上大石家の南斜面曲輪跡は、3段の平坦地があり、斜面を削りその土砂を盛土している「切岸」が確認された。一番上の平坦地には、西から東に傾斜する溝があるが、遺物が確認されないため、いつの時代の遺構かはつきりしない。空堀または櫛沢上流から家中地区に引いてきていた水路の可能性がある。また、一段目と二段目の間の傾斜面から、墓跡を検出した。直径約0.8m、深さ0.4mで、六道銘、頭骨などの骨、歯が出土した。確認のため理化学分析を現在行っている。近世陶磁器、銭が共伴しているため、江戸時代の墓と考えられる。

11. 縄文調査区

縄文調査区は、中山地区を東西に流れる檢沢が形成する谷筋の平坦な一角に位置し、北側には天守山を守るために作られた南端の帶曲輪の斜面が迫っている。

上山市内に分布する縄文時代の遺跡は、三脚土製品が出土した中期（大木7b～8a式）の牧野遺跡や思い川遺跡などが著名である。中山城跡周辺では川口地域に位置する上ノ代1遺跡で縄文時代早期末～前期初頭の遺物が出土しており、前川ダムの南西には天守園遺跡が位置している。また、上ノ山館跡からも、縄文時代の石器が出土している。

調査の手順は、最初に3本のトレーナーを手掘りで掘削

し、基本層序を確認した後、重機で遺物包含層まで掘り下げた。遺物包含層は、面整理を行いながら、遺物・遺構の検出を行なった。

基本層序を確認するためのトレーナーは、調査区の東・西・中央部に1.5m幅で設定した。調査区が南端の帶曲輪と接する関係上、トレーナーは帶曲輪の最高部から縄文調査区の最南端まで延長して設定した。

縄文調査区の基本層序は、I～VI層まで分層することができた。I・IIa・IIb層は南端帶曲輪と連続する層で、縄文時代の遺物は基本的に出土せず、近世陶磁器類が出土した。縄文時代の遺物が出土するのは、主にIIIa層である。IIIa層は、主に調査区西側で面的に広がっており、他は小範囲で確認されるだけであった。

検出された遺構は、様々な形態の土坑・柱穴・落ち込み状遺構や平安時代の炉などである。調査区東側に集中する土坑・柱穴類の多くは、遺物が伴わないため、遺構の所属時期は不明確である。

調査区南西部では、不整形の落ち込み状遺構が検出された。遺構の規模は、長軸554cm・短軸280cm・深さ28cmである。覆土上面からは、無文の土器や縄文施文の土器が出土している（時期不詳）。遺構内に付属する遺構は小さなビットが一つのみで、遺構の性格は不明確である。

調査区西側からは、長軸272cm・短軸110cm・深さ60cmの綫長の土坑が検出された。遺構覆土からは縄文後期後半の土器片が出土している。同形態の土坑は、他に検出されなかっただため、遺構の性格は不明である。

調査区南東部で確認された小さなビットからは、縄文

後期後半の土器と共に炭化したクリが出土しており、貯蔵穴として機能していたものと考えられる。

縄文時代以降のものとしては、調査区西側で検出された平安時代の炉がある。炉の形態はC字形に石で囲われ(南側開放部)、石壇内部からは大量の燒土が検出された。燒土内からは被熱した土師器の長胴甕(口縁部～胴上半)が出土している。炉周辺からも別個体の被熱した長胴甕や須恵器の杯が出土している。燒土は全てフローテーション(水洗選別)を行って、炭化物・種子を採取し、理化学分析を行っている。

遺物について

1. 武家屋敷・曲輪の調査区

出土遺物は、中世から現代に生産されたとみられる陶磁器、同時期の木製品、古錢、金属製品、石製品が多く出土した。

1次調査で出土した中世陶磁器の破片総数は11,337点、2次調査は約11,857点で、ほとんどが近世陶磁器である。縄文調査区の土器片は1,296点である。橋爪家の出土が最も多く、破片数の約16%を占める。統いて、次郎兵工東側石積みに沿う市道「家中横町線」からは、約11%、草刈家9%、小中丸家と上大石家の南斜面曲輪跡は約8%である。

一部中世末にさかのぼる中国製磁器や瀬戸美濃の陶器が出土している。中国製品は、16世紀の景徳鎮窯、龍泉窯の磁器である。珍しいものでは、草刈家から出土した唐津皿屋窯の四角釉剥ぎの皿(1580～1590)がある。また2次調査では、斎藤家の南側に隣接する縄文調査区東端から内耳皿が出土し、伊達氏と深いかかわりが推測される。

江戸時代のものでは、古いもので17世紀の肥前陶磁器があるが、大多数が18世紀から19世紀の肥前・肥前系で、19世紀の幕末から明治にかけては、瀬戸美濃の磁器も出土している。その他、近隣の東北地方の窯で製造されたとみられる陶磁器(在地系)が極めて大量に出土している。在地系には、岸窯、大堀相馬焼、会津地方の窯、置賜地方の戸長里焼と成島焼、山形市の平清水焼が含まれていることは間違いない。また宮城県の切込焼と類似する磁器も多数確認されている。

陶磁器の器種は、碗、皿、小杯、鉢、鉢、瓶、水滴、猪口、香炉、火入、仏飯器、壺、戸車などがあり、特に



内耳壙

碗と皿が多い。よく目立つものとして鉢跡も多數ある。

1次調査で注目するものは、岡沢家から出土した磁器の底部に付着した朱色の皮膜物質、草刈家から出土した磁器に入った朱色物質、橋爪家から出土した磁器の底部にたまつた塊、岡沢家と草刈家から出土した挖った朱色物質である。理化学分析の結果、皮膜物質はベンガラを混ぜた赤塗、朱色物質はベンガラ(赤鉄鉱)であり、底部にたまつた塊は樹脂(漆)と考えられ、挖った物質は、格子状に編まれた中にベンガラを混ぜた赤塗が染み込んでいることがわかり、これは漆を塗る前に準備するために使用したものである。漆塗りでは、陶磁器の底部のくぼみをパレットとして使用していたと聞くので、これらのことから、家中屋敷で漆塗りが行われていたと伝えられていることを、裏付けることになる。

2次調査でも漆塗しの布は、小中丸家、上大石家、斎藤家から出土している。特に小中丸家の漆塗しの布は、黒塗で、現在、理化学分析を行って確かめている。

瓦は黒瓦の一部で、1次調査で岡沢家からのみ出土した。赤瓦の出土は、1次、2次調査で確認できなかった。

木製品は、漆器、ヘラ、杭、程鉢、柱根、桶、つるべ桶、文字のある板、柱などがある。

珍しいものとして、1次調査では上頸用の木製漆塗り総義歎が、橋爪家から出土した。右上の側切歎が残っていたようで、その部分は空いている。義歎に関しては、同じ上杉領内の白鷹町駄貝役屋の幕末の下級武士の日記「小嶋家文書 傑親日記四 白鷹町教育委員会」に記述がある。橋爪家からは、櫛も出土している。これらは、型紙摺の染付やホヤ(石油ランプのか?)のようなガラス

片も一緒に出土していることから、江戸時代末から明治期のものではないかと考えられる。漆器も多数見つかっており、内職の漆塗り伝世品と同じ型の漆器もあった。また家紋入りの漆器（碗）も出土している。

銭貨は、1次調査で58枚出土し、2次調査でも数十枚出土している。1次調査の銭貨のうち49枚が江戸時代以前の銭で、5枚が戦前、2枚が現行、残り2枚は銭と思われる金属である。江戸時代以前の銭のほとんどが寛永通宝で、あとは文久永宝が1枚、永楽通宝が1枚、元豊通宝が2枚出土している。

金属製品には、キセル、簪、鉄砲玉と考えられる鉄球、包丁、小柄、灰ならし、角釘、鍵、その他現在までの日用雑貨が出土した。

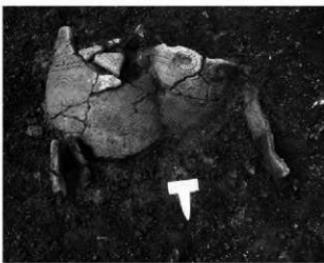
石製品は、礫石、硯、砥石、五輪塔の一部、繩文時代の石匙が出土した。

2. 繩文調査区

繩文調査区出土遺物は、遺物包含層であるⅢa層から主に出土したが、その多くは小破片であった。繩文時代の遺物としては、早・前・中・後・晚期の各時期の土器・石器が出土している。その他には、平安時代の土師器・須恵器や近世陶磁器が出土している。

早期の土器は、貝殻沈線文の小破片が1個体出土したのみである。

前期の土器は、前期初頭の上川名II式と前期後半の大木5式が出土している。上川名II式の土器は、横羽状縄文・燃糸压痕文と沈線文が組み合ったものなどであり、そのほとんどに纏維が混入されている。出土地点は、調



繩文前期後半の土器

査区西側のⅢa層分布範囲に限られ、出土量が最も多い時期の土器である。

大木5式土器は、1個体復元可能な土器が調査区西側から出土している。出土状況は、土器が潰れた状態で、底部と胴部約1/2が欠損している。口縁部には刺突を施した二個一対の満巻状装飾帯を6単位めぐらせ、胴部上半には鋸歯状沈線を施している。鋸歯状沈線は、部分的に（口縁部に対応）弧状を描く。文様帶は胴部上半に集約されるが、独立した弧線が胴部最大径付近に施される。その他の大木5式としては、粘土紐貼り付けによる鋸歯文の破片などがある。

中期の土器は、大木7b・8a式を中心として出土している。いずれも破片のみである。

後期の土器は、後期前半（加賀利B式並行）の無文の浅鉢が1点と後期後半（幅付土器）の土器が破片ながらも、一定量出土している。小破片のため、文様や器形の全体像は不明確だが、入り組み文に刺突・キザミ列を施すものが多い。

晩期の土器は、大洞B式の土器片が1点出土しているのみである。口縁部に三叉文を施し、以下を細かな地文繩文としている。

石器は、石鎌・石錐などのトゥール類のほかに、フレイクや円盤状石製品が出土している。

これら様々な時期の遺物は、同一層ではなくレベルで出土しており、層位的に分けることはできなかった。ただし、繩文時代前期初頭の遺物は、調査区西側にまとまって分布しており、分布の偏りもみられる点で注目される。

ま と め

1次調査では、江戸時代武家屋敷の生活面がある程度残されていると想定して調査を進めたが、予想以上に重機を使用した開発が進んでいることがわかった。2次調査では武家屋敷全体にわたって、江戸時代から明治時代そして現在まで、整地・掘削・盛土等、大小の開発が行われていたことがわかった。

家中屋敷といわれる上杉家家臣24家の武家屋敷配置図は、故保科文夫氏（上大石家の出）が調べた屋敷配置図を、加藤和徳氏が作成した中山城縄張り図にあてはめたものである。調査を進めるうちに、その配置を検証することが重要な課題として浮かび上がってきた。また、江戸時代から明治時代そして現在まで、整地・掘削・盛土



2次調査全景

等の開発が行われており、どの面に上杉家家臣15家の武家屋敷が建っていたのかもできる限り明らかにしていく必要もある。

縄文調査区は縄文早期から晩期まで、断続的にこの土地を利用していたことがわかる。ただし、住居跡などが検出されず、遺物量も希薄なことから、定住生活の場ではなく、一時的に滞在する場であったと考えられる。

復元可能な大木5式土器は、県内で出土例が極めて少ない土器で、縄文時代前期後半の土器編年や周辺地域との関係など、今後の良好な研究材料として期待される。また、縄文前期初頭の土器がややまとまって出土したが、川口地区の上ノ代1遺跡でほぼ同時期の遺物が出土しており、比較材料として今後検討していきたい。



出土近世陶器



調査風景

か　とう　や　しき　遺　跡

遺跡番号 平成17年度登録
所在地 南陽市川穂字加藤屋敷
北緯・東経 38度09分24秒・140度19分30秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因 一般国道13号上山バイパス改築事業
調査面積 4.400m²
現地調査 平成18年5月17日～11月24日
調査担当者 齋藤主税(調査主任)、佐藤 学
調査協力 置賜教育事務所、南陽市教育委員会
遺跡種別 集落跡
時代 銀文時代、古墳時代、平安時代、中世、近世
遺構 穴住居跡、井戸跡、溝跡、方形周溝状遺構、川跡、土坑
遺物 繩文土器、土師器、須恵器、木製品、石製品
(文化財認定箱数: 140)



調査の概要

加藤屋敷遺跡は、JR中川駅から西へ約500mのところ、南陽市北東部の川穂地区に位置している。鷹戸山と岩部山に囲まれた緩やかな傾斜地で、標高は280m程度である。現在は主に、水田・畑地・宅地・果樹園などになっている。

今回の調査は、一般国道13号上山バイパスの改築事業(中川工区)に伴う緊急発掘調査として行われた。平成17年度の山形県教育委員会による試掘調査で平安時代の土器や柱穴・溝跡などの遺構が検出され、本遺跡の確認・

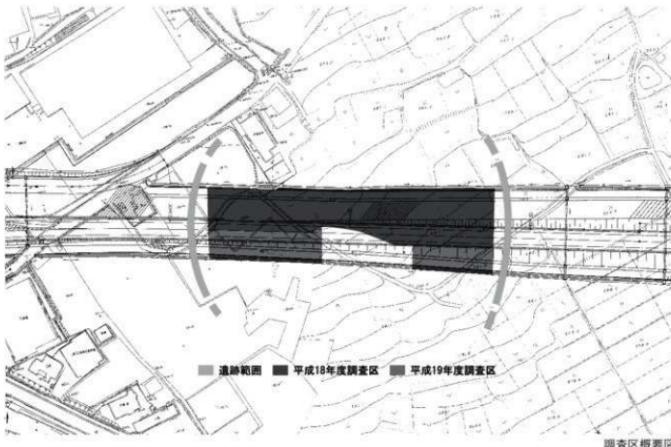
登録がなされた。今年度の発掘調査は、工事用道路部分を除く4.400m²について行った。調査の便宜上、調査区を南側から順にA～Eの5区画に分け、①重機による表土除去②遺構検出③遺構精査・記録という工程で進めた。

遺構と遺物

検出された遺構は出土した遺物から、ほとんどが平安時代のものと考えられる。A区では井戸跡SE 1や柱穴が検出されたが、住居跡は確認できなかった。SE 1は素掘りの井戸である。

B区では方形周溝状遺構SD 4が検出された。その形は弥生時代や古墳時代の方形周溝墓と全く同じである。しかししながら、出土した遺物は平安時代のものと思われる土師器であった。この遺構については今後、慎重な検討が必要である。また、溝跡SD 2はL字形に検出されたが、東側の工事用道路下に統一している可能性が高い。

C・D区では穴住居跡が6棟検出された。大きさは一辺3 m～4 mの方形で、すべてに白い粘土で作られた据付のカマド跡が見つかった。また、どの住居跡にも炭や焼土が見られ、中でもD区のST20とSK19で多量の炭や焼土が確認された。この点から、今回検出された住居跡は火事に遭った可能性があると考えられる。その他にはC区で、合口甕棺と思われる土器埋設遺構1基と溝跡・



調査区概要図

杭列などが検出された。

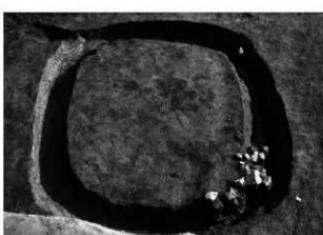
E区では南西から北東に向かって幅4m～7m、深さ2mを超える川跡SG23が検出され、平安時代の遺物が多数出土した。川跡はD区西側に続いていたが、E区と比べ川幅が狭く遺物の出土量も少なかった。

遺物は、平安時代の土師器・須恵器が最も多く出土した。器種は、壺・甕・蓋・壺・土鍋などである。とくにC・D区の堅穴住居跡と遺物包含層、E区のSG23に遺物が集中していた。SG23からは完形の土師器・須恵器壺がまとまって出土し、「大」「主」「物」「王」などの文字が書かれた墨書き器も含まれていた。また、柄杓・皿・曲物・木穂などの木製品、当時の食料であるクルミやトチの実も多数出土した。この他、B区のSD2から古墳時代の勾玉、C区のSX16から平安時代のものと思われる木筒が出土した。D区のST20では炭化材下から木製の皿、ピットから土製の筋鉢車が出土している。

遺構外からは、多様な遺物が出土した。時代の古いものでは、縄文時代後期の土器や石器・石斧、縄文時代晚期の小型の壺形土器が出土した。また、砥石や古銭、中世・近世の陶器なども見つかっている。



B区完掘状況



B区SD4方形周溝状遺構

まとめ

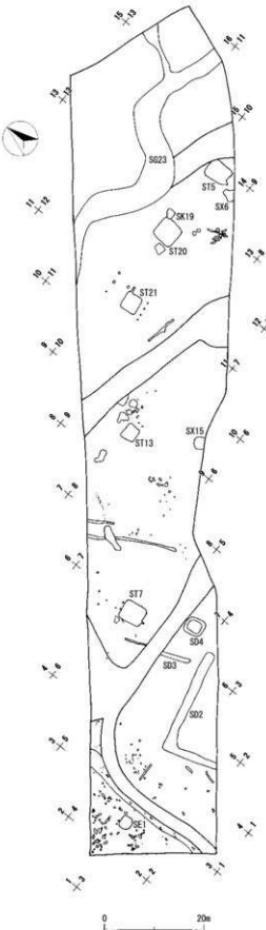
加藤屋敷遺跡は、平安時代の集落跡である。今回の調査で検出された堅穴住居跡は6棟であり、比較的まばらな集落の様子を窺い知ることができた。

一方でC・D区には、表土から堅穴住居跡などの遺構検出面までの間に、40cm～70cmの厚い遺物包含層が堆積していた。遺物包含層には、平安時代の土器器・須恵器の破片が多量に含まれていたが、それ以外に縄文土器・石器など様々な遺物も出土した。この調査区は西側に比べ東側が低い傾斜地で、降雨による遺構の浸水がしばしば見られた。恐らく平安時代も同様の地形で、降雨や周囲を流れる川の氾濫などがあった際、隣接する遺跡から土器などが土砂とともに流れ込み堆積したと考えられる。

こうしたことから、集落跡の中心部は、調査区より西側の平坦な場所にあると推測される。そのあたりには、縄文時代晩期の集落跡と考えられている岩谷堂遺跡が広がっている。加藤屋敷遺跡・岩谷堂遺跡の一带は、縄文時代から古墳時代・中世・近世にわたる複合遺跡となる可能性がある。



D区発掘状況



遺構配置図



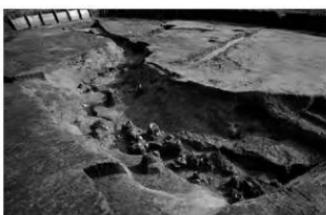
C区ST 7竖穴住居跡



D区SK19土坑·ST20竖穴住居跡



C区 木简出土状况



E区SG23川跡 遗物出土状况



C区S M24合口匣



E区SG23川跡 木製皿(漆器)出土状况



C区ST14竖穴住居跡



E区SG23川跡 手杓出土状况

しも かの みず 下 叶 水 遺 跡

遺跡番号	昭和53年度登録
所 在 地	西置賀郡小国町大字叶水字下叶水
北緯・東経	38度00分10秒・139度48分16秒
調査委託者	国土交通省北陸地方整備局横川ダム工事事務所
調査原因	横川ダム建設事業
調査面積	5,900m ²
現地調査	平成18年5月8日～11月22日
調査担当者	植松暁彦（調査主任）、山木 巧、渡辺淑恵
調査協力	置賀教育事務所、小国町教育委員会
遺跡種別	集落跡
時 代	縄文時代
遺構	河川跡、柱穴、土坑、ピット
遺 物	縄文土器、土偶、石器、石製品 (文化財認定箱数：600)



調査の概要

今回の調査は、国土交通省北陸地方整備局横川ダム工事事務所の横川ダム建設事業にともなって行われた。

本遺跡は、横川ダム建設事業の予定地にかかるところから平成17年度に山形県教育庁社会教育課文化財保護室が試掘調査を実施し、縄文時代の遺物や遺構が検出された。その結果、文化財保護室と横川ダム工事事務所との協議が行われ、事業予定地にかかる埋蔵文化財については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが委託を受けて、記録保存のための発掘調査を行うこととなった。

調査は、事業区域にかかる5,900m²を対象とし、5月8日から開始した。

下叶水遺跡は、山形県南西部、新潟県との県境に近い小国町に位置する。南にそびえる飯豊連峰に源流を持つ横川右岸の河岸段丘上に立地し、標高は263mを測る。

小国町には、旧石器時代から縄文時代にかけて多くの遺跡が存在している。旧石器時代の遺跡では、東山型ナイフ形石器の標識遺跡である東山遺跡、縄文時代では、北陸系の土器が出土した蟹沢遺跡、下野遺跡がある。

本遺跡の周辺にも、野向遺跡、市野々向原遺跡、千野遺跡など、縄文時代早期から晩期に至る集落跡が、横川と支流の明沢川との合流地点までの河岸段丘に分布する。

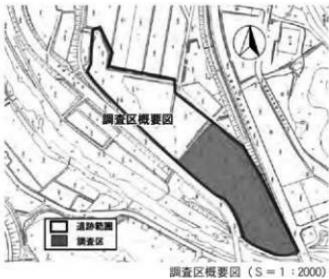
検出構造と出土遺物

調査の結果、縄文時代の後～晩期（約3,000年前）の集落跡や埋設土器群（墓域）、沢跡が確認された。

集落跡は、沢跡（SG 1）の両岸に沿って、住居の柱穴や貯蔵穴などが主に検出された。住居の柱穴は、大型で長さ約1m前後を測り、平面形が円形や小判形である。

また、柱材を固定するために、根固め石を詰め込んだ柱穴が多い点も特徴である。貯蔵穴は直径約1～2mの円形で、断面形がフラスコ状や袋状のものがある。

沢跡（SG 1）の上層には、土器や石器を中心に多量の



遺物が発見され、土偶などの祭祀品も出土した。

集落外縁部には、深鉢を縦に埋めた埋設土器が集中して10基ほど確認された。これらは、死者の骨を土器に納めて埋めた墓とされ、この区域は墓域と考えられる。

遺物は、沢跡を主体として、縄文土器や石器を中心多く出土し、油蔴箱で約600箱を数える。

縄文土器は、寸胴形の深鉢や鉢類の中に、薄手で精巧な文様の壺や皿状の浅鉢、急須状の口付土器などがある。

石器では狩猟に使われた石鏃や、加工に使用する石錐、ヘラ状の石ペラ、携帯用とされる石匙などがある。

その他に木を切る道具とされる磨製の石斧も多く出土した。

堅果類を磨り潰す道具の磨石や凹石、漁に使った土鍤

や石鍤もあり、当時の多様な食料事情がうかがえる。

その他に、祭祀の道具である土偶、石刀、石劍、石棒、装飾品の勾玉や細密なせんこく線刻のある石製品が出土した。

まとめ

下叶水遺跡には当初、幅約8mの沢（SG1）が横川に向って注いでいた。そして、沢がほぼ埋没（下層）し、低湿地（上層）になった頃に集落跡が営まれ始めた。

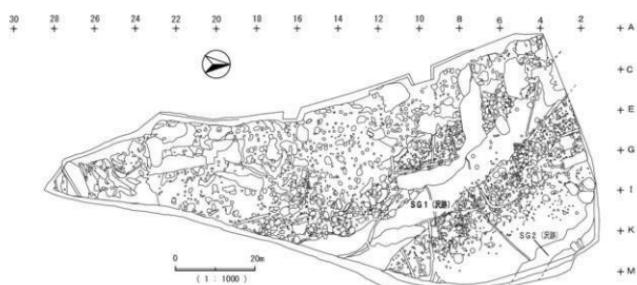
沢跡の两岸から、幅約15mの範囲に、住居跡や貯蔵穴が集中して確認された。当時の集落が沢に沿って帶状に広がっていたことが分かる。また、遺構の重複から4時期以上の時期差があり、住居などが建て替えられながら、集落が長期間（約500年間）営まれたようである。

貯蔵穴が住居を遠のように分布し、これらがセットとなり、数棟単位で集落を構成していたようである。

集落の間を流れる沢（SG1上層）からは、集落で使われていた縄文土器や石器が多量に出土し、土偶や石棒などの祭祀品も出土した。また土鍤・石鍤の出土から、横川を利用した漁労の存在も明らかになった。

埋設土器を主とした墓域は、調査区の北東部に集中している。埋設土器は、沢（SG2）の洪水などによる堆積土が集落や沢（SG1）を一時埋めた上に構築されており、最も新しい段階の遺構群の一つと考えられる。

これらから、沢の洪水などを間に集落の構成が変化・縮小し、集落の発展や移転につながった事が推測される。



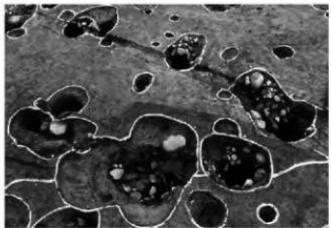
遺構配置図 (S = 1 : 2,000)



調査区全景（北から）



沢路（SG1）と柱穴・土坑群 完掘状況



石組み柱穴群 完掘状況



SK719 (石組み柱穴) 断面状況



SK631 (フラスコ状土坑) 遺物出土状況



ST569 (堅穴住居跡) 精査状況



調査区内 作業状況 (北から)



SK114-115 (埋設土器) 槍査状況



SK115 (埋設土器) 断面状況



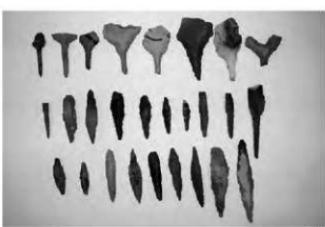
注口土器



RP558 出土状況



石鏃



石錐



石劍



石匙



磨製石斧



凹石



磨石・石皿



土錘・石錘



土偶



石棒



石刀



裝飾品

いな 稲 荷 山 館 跡

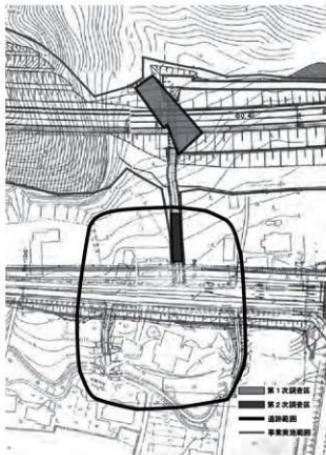
遺跡番号	米沢遺跡地図A-393
調査次数	第2次
所在地	米沢市万世町杵山稲荷山
北緯・東経	37度53分39秒・140度09分45秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	東北中央自動車道（福島県境～米沢）建設
調査面積	200m ²
現地調査	平成18年7月18日～8月4日
調査担当者	須賀井新入（調査主任）、阪英子
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所、置賜教育事務所、米沢市教育委員会
遺構種別	城館跡
時代	中世（鎌倉時代）
遺構	土塁、堀跡、柱穴
遺物	内耳土塁、捕鉢
	（文化財認定箱数：1）



調査の概要

東北中央自動車道は福島県相馬市と秋田県横手市とを結ぶ高速自動車網で、福島市からは国道13号と並行する縦貫道として整備・建設中である。

稲荷山館跡は米沢市街地から南東方約6kmに位置する中世の館跡で、米沢市遺跡地図に記載された周知の遺跡である。国道13号が遺跡の中央部を東西に横断しているため、現況の館跡はこれを挟んで南・北側に分断されている。今回の調査は、昨年度に続く第2次調査で、館跡内部を対象としている。7月18日より調査を開始し、当



調査区概要図 (S = 1:2,500)

時の構築物として現存する土塁と堀跡を主体に調査を行った。

遺構と遺物

館跡は山麓の自然地形を利用し、尾根に面した空間を土塁と堀でL字状に区画して構築されたと考えられる。土塁は何層にも土を積み上げて構築され、堀は土塁と平行して外側に築かれていた。柱穴は内部の建物跡を構築するものの一部と考えられるが、調査区域が限定されていたことからその内容については不明である。

遺物には10数点の土器片があり、置賜地方の中世の遺跡によく見られる内耳土壙片が見つかった。

稻荷山館跡は南西側にそびえる早坂山を背景として、山麓に築かれた「平城」に分類される。本館跡は伝承によれば長井氏の家臣、熊板利衛門の築城とされており、伊達氏の置賜侵入の際に最後まで戦ったが敗れ、廃城になつたと伝えられている。梓山村付近には10余りの館跡や山城が点在していることから、この地域が古来より交通の要所であったことが窺われる。



内耳土壙



稻荷山館跡略測図



土塁と堀跡



調査区全景（土塁・堀跡側より）



調査区全景（主郭側より）

山ノ下遺跡

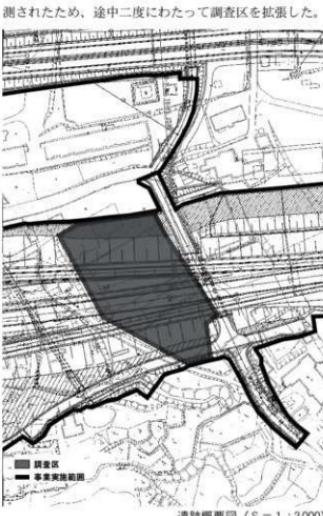
遺跡番号 平成17年度登録
 所在地 米沢市万世町桑山字山ノ下
 北緯・東経 37度53分40秒・140度09分29秒
 調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
 調査原因 東北中央自動車道（福島県境～米沢）建設
 調査面積 3.000m²
 現地調査 平成18年5月9日～7月31日
 調査担当者 須賀井新人（調査主任）、阪 英子
 調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所、置賜教育事務所、米沢市教育委員会
 遺跡種別 集落跡
 時代 繩文時代、平安時代、鎌倉時代
 遺構 土坑、窓穴、埋設遺構、溝跡
 遺物 繩文土器、土師器、須恵器、内耳土壙、石器
 (文化財認定箱数：7)



調査の概要

東北中央自動車道は福島県相馬市と秋田県横手市とを結ぶ高規格道路網で、福島市からは国道13号と並行する縦貫道として整備・建設中である。

山ノ下遺跡は米沢市街地から南東方約5kmに位置し、縄文時代の集落跡と推測される遺跡である。その範囲は現況の地形等から推察して、東西約60m・南北約100mと考えられる。今回の調査は昨年度の試掘調査の結果に基づいて調査区を設定し、5月9日より実地した。調査の進行に伴って、調査区北側に遺構や遺物の広がりが予



遺構

検出された遺構は縄文時代の土坑・陥穴・埋設土器と平安時代から近世までの溝跡や柱穴である。このうち、出土遺物などから掘られた時期が明らかなものはごく一部である。

SD 6 溝跡より北側に埋設土器 (EU237・247・249) が単独で3点見つかった。付近に住居跡は検出されなかったことから、当地が縄文時代の集落の一部であることは推定されるが、居住城は北側の平坦部にある可能性が考えられる。3基見つかった陥穴 (SK 7・21・118) は獸道に配したことが推測され、調査区南半の山麓側で検出された。

調査区西端にある谷状の鞍部 (SX160) からは、平安時代の土器がまとめて出土した。調査区中央部にある溝跡 (SD 1～6) は、土地を区画したものと推測される。これらの溝跡から、内耳土壙の破片が数点出土していることから、時期は中世と考えられる。

遺物

出土遺物の多くは破片であり、器形が分かることは多くない。縄文土器では、大木1式・大木7b式併行および後期前稟の土器が出土した。石器はいずれも少量であるが、石礫・石砦・凹石などの実用品、岩偶とも考えられる三脚石器が出土している。

平安時代の土器も器形が分かることは少ないが、土師器の甕や須恵器の壺などが出土した。溝跡からは中世の内耳土壙の把手部分が出土した。

まとめ

山ノ下跡は縄文時代前期～後期が主体の集落跡である。今回の調査で発見された遺構や遺物の分布状況から、集落の中心は北側に広がっていたと考えられる。また、遺構の密度や遺物の出土数から推定すると、小規模な集落であったか、あるいは季節的なキャンプサイトであったものと考えられる。

出土量は少ないながら平安時代や中世の土器も含まれ、当地が各時代で生活の舞台となったことが窺われる。



調査風景



拡張前調査区の完掘状況



1回目拡張範囲の完掘状況



2回目拡張範囲の完掘状況



調査区近景（北から）



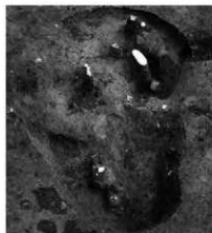
調査区全景（上空から）



SD 1～5 溝跡完掘状況



SD 6 溝跡完掘状況



SK247土坑遺物出土状況



EU249埋設土器



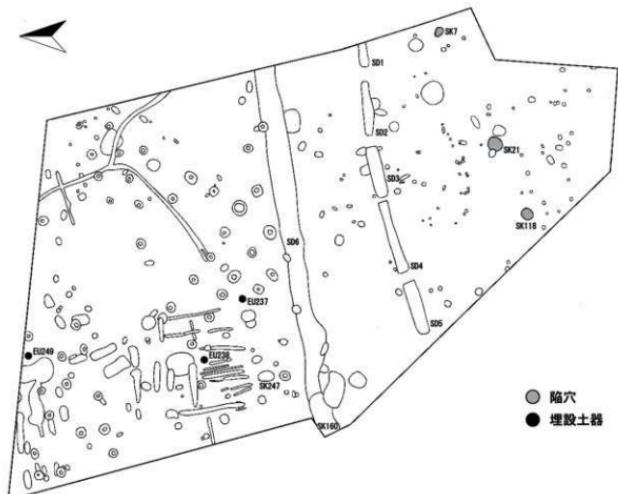
EU238埋設土器



EU237埋設土器



復元されたEU238埋設土器



遺構配置図 (S = 1 : 400)



EU249打製石器



硯石器



繩文土器



須恵器



内耳土壙

こしや 川原の遺跡

遺跡番号	平成16年度登録
調査次数	第3次
所在地	鶴岡市大字田川字興屋川原他
北緯・東経	38度42分40秒・139度45分04秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道（温泉～鶴岡）建設
調査面積	8,800m ²
現地調査	平成18年5月8日～11月30日
調査担当者	齋藤健（調査主任）、渋谷孝雄
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	古墳時代、奈良時代、平安時代
構造	掘立柱建物跡、溝跡、土坑、ピット
遺物	土師器、あかやき土器、須恵器、刀子 (文化財認定箱数：82)



調査の概要

興屋川原遺跡は、日本海沿岸東北自動車道建設に先立ち、県教育委員会が実施した分布調査で新規に発見された遺跡である。同時に行司免遺跡などが新規登録遺跡として登録された。これらの遺跡は日本海沿岸東北自動車道の用地内に所在するため、日本道路公团東北支社(現 東日本高速道路株式会社東北支社)と山形県教育委員会で遺跡の取り扱いについて協議がなされ、財団法人山形県埋蔵文化財センターに建設工事で破壊を受ける部分を記録保存のために緊急発掘調査を委託することで合意に

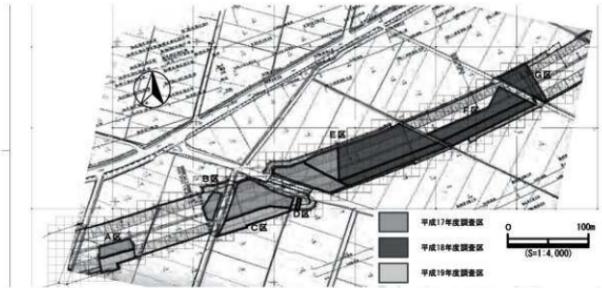
至った。

これを受け、平成16年度に当センターは、これらの遺跡で第1次調査を実施し、遺跡の詳しい情報を収集した。その結果、興屋川原遺跡は古墳時代と奈良・平安時代の広大な遺跡であることが分かり、平成17年度と平成18年度の2年間にわたり現地調査をおこなうことになった。

昨年度は6,750m²を対象に調査を実施し、大量の遺物を伴う平安時代の河岸跡を調査するなどの成果があった。

しかし、平成18年2月の国土開発幹線自動車道建設会議に於いて、日本海沿岸東北自動車道建設事業は、新直轄方式で建設が進められることが決定し、調査委託者は国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所に代わった。それに伴い、調査対象が建設工事で破壊を受ける部分から、用地内の全遺跡範囲に変更され、現地調査も平成19年度まで行われることとなった。

興屋川原遺跡は庄内平野の南西端部に位置し、鶴岡市街地から南西へ約10kmの鶴岡市田川地区と大泉地区にかけて所在する。遺跡は大山川右岸の沖積地上に立地し、周辺の地目は水田や畑地で、標高17mを測る。かつてこの辺りは湿地や微高地のある複雑な地形であった。圃場整備事業により、現在は大型機械に対応した整備された圃場となった。調査区の中には、これらの圃場整備によ



調査概要図

り削平を受けた箇所も見られた。

調査対象区は農道、水路で分割されているため、これらを便宜的に西側からA区からG区までの7ヶ所に分けた。昨年度はA区、B区、C区、D区、E区西側を対象とした。今年度は引き続きE区東側、F区、G区とE区、F区の工事用道路部分の調査を実施した。来年度はA区、C区の工事用道路部分の調査を実施する予定である。

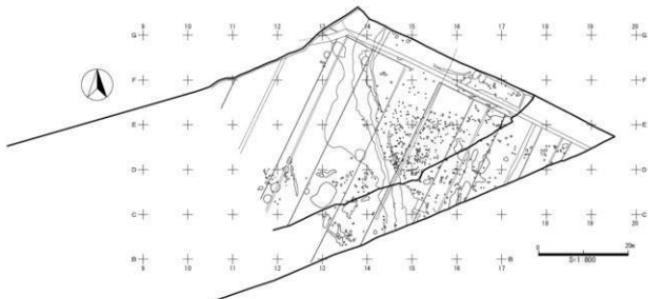
遺構

今年度の調査はE区東側、F区、G区で実施した。遺構の分布は、E区東端、F区東端に集中し、その他の調査区は皆無に近かった。昨年度の調査の結果も踏まえると、興原川原遺跡にはC区及びE区西側、E区東端、F区東端の三ヶ所の遺構集中地区があり、その間は、遺構

検出面までの標高が低いことから低湿地があったと思われる。

今年度の調査ではE区東端から、平安時代と思われる柱穴群と古墳時代の性格不明遺構が検出された。現時点では柱穴群から建物跡を復元するには至っていない。また、古墳時代の遺構からは中期後半と思われる土師器が多数出土した。

F区東端からは、大型の掘立柱建物跡が4棟整然と並んでいるのが確認された。東西方向に梁間2間×桁行3間規模の建物が2棟、南北方向に梁間2間×桁行4間と梁間2間×桁行6間規模の建物が2棟並んでいた。それぞれ柱の掘り方は60~100cm程あったが、圃場整備で激しく削平されたと見え、深さは深い所でも30cm程度しか



E区東側遺構配置図



古墳時代刀子出土状況



古墳時代土坑

なかった。これらの建物群は、規模から言って一般的な集落に存在する建物とは考えにくい。

遺 物

今年度は、古墳時代と奈良・平安時代の遺構・遺物が出土している。E区東端の古墳時代の遺構からは古墳時代中期後半頃と思われる土師器の他、刀子も1点出土した。

E区東端からは平安時代の遺物の出土は希薄であった。F区東端も、遺物の出土は極めて少なかったが、掘立柱建物跡SB1002周辺から奈良時代までさかのぼる可能性がある古手の須恵器や有台杯が出土し、建物群の年代を推定する資料となりうる遺物であると思われる。

ま と め

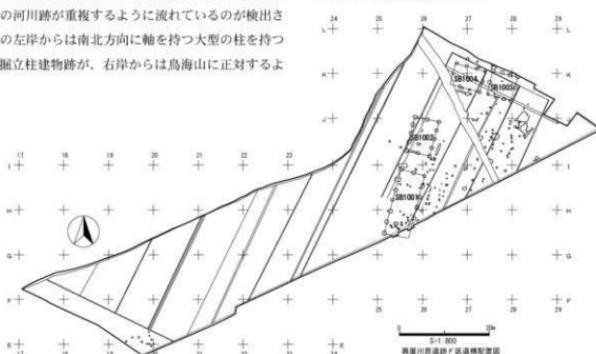
興屋川原遺跡は古墳時代と平安時代の遺跡である。昨年度の調査ではE区西側から平安時代9世紀と10世紀、二時期の河川跡が重複するように流れているのが検出され、その左岸からは南北方向に軸を持つ大型の柱を持つSB352掘立柱建物跡が、右岸からは鳥海山に正対するよ

うに建てられた2棟の掘立柱建物跡SB350、351が検出された。今年度は、興屋川原遺跡の東半分である、E区東側、F区、G区の調査を実施した。

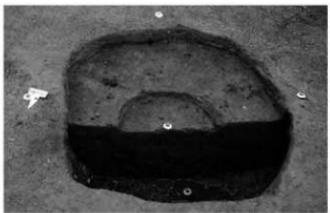
E区東側からは古墳時代の遺構が検出され、遺物も出土した。さらに、平安時代と思われる柱穴群が検出されたが、はつきりと建物跡を復元できず、同時期の遺物は少ない。また、F区東側からは奈良時代までさかのぼる可能性がある遺物を伴って大型の掘立柱建物跡が検出された。その建物は整然と2棟ずつ、南北方向と東西方向に並んでおり、一般集落には明らかに異質な存在である。

また、昨年度の調査では河川跡から古代出羽郡大田郷との関連の可能性もある「大田」や「寺」などの文字が書かれた墨書き土器も出土している。

今後これらの成果を踏まえながら、来年度の調査成果も合わせて検討して行きたい。



F区遺構配置図



SB1004掘立柱建物跡EB1100柱穴土層断面



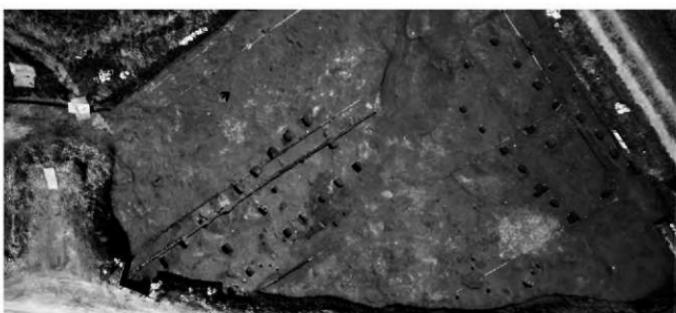
SB1001掘立柱建物跡EB1053柱穴土層断面



奥からSB1003、1004掘立柱建物跡



SB1001掘立柱建物跡



F区東側掘立柱建物群

行司免遣跡

遺 踪 番 号	平成16年度登録
調査 次 数	第3次
所 在 地	鶴岡市大字水沢字行司免
北緯・東経	38度42分42秒・139度44分32秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査 原 因	日本海沿岸東北自動車道(温海～鶴岡)建設
調査 面 積	2,100m ²
現 地 調 査	平成18年4月17日～11月30日
調査担当者	鈴木良仁(調査主任)、向出博之、佐藤正俊、深澤 勘
調査 協 力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺 踪 別	墓域
時 代	奈良時代、平安時代
遺 構	木棺墓、溝跡、ピット、河川跡
遺 物	土師器、須恵器、赤焼土器、木製品 (文化財認定箇数: 144)



調査の概要

行司免遭跡は、県教育委員会の分布調査を経て平成16年度に新規の遭跡として登録され、遭跡範囲の一部が日本海沿岸東北自動車道の路線内にかかるため、県教育委員会と当時の日本道路公社東北支社との間で遭跡の取り扱いについて協議が行われた。その結果、記録保存のための緊急発掘調査を財團法人山形県埋蔵文化財センターが行うことで合意した。

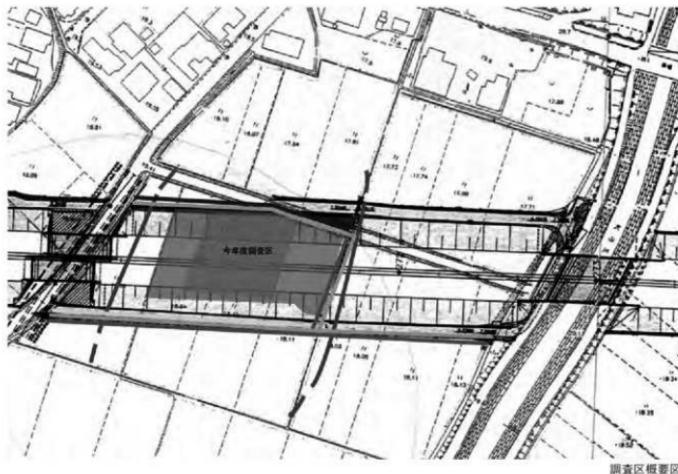
平成16年度に実施された用排水路の切り回し工事に先立つ1次調査によって、平安時代の集落跡と確認され、

平成17年度に3,600m²を対象に2次調査を行った。調査が進むにつれ下層から奈良時代末頃の土器がまとまりを持って出土することがわかり、今年度に3次調査を行うことになった。

4月17日より調査を開始したが、調査の過程で当初予想した層のさら以下の層にも遺構・遺物が存在することがわかった。試掘の結果ほぼ遺跡全面に亘ることが確認された。そのため関係機関による協議を行い、11月30日まで調査期間を延長し、新たに確認された文化層を発掘するところとなつた。



写真1 平成17年撮影 調査前風景（西から）



遺構と遺物

昨年度と今年度の調査成果から、行司免進跡では奈良時代末から平安時代前半頃までの文化層が確認された。

遺物の取上げは、堆積の新しい方から便宜的にⅠ～Ⅲ層として取り上げ、一部Ⅳ層として取り上げた遺物もある。

火山灰の存在や土器の様相などから、Ⅰ層は10世紀前半頃、Ⅱ層は9世紀～10世紀頃、Ⅲ層は奈良時代末から平安時代始め頃という年代が考えられる。

今年度も昨年度と同じように、木棺墓・溝跡や炭化物の集中箇所を中心とした遺構が見つかっており、直接生活に係わる井戸跡や建物跡などは見つかなかった。

(溝跡)

溝跡は昨年度と同様に、幅が狭く等間隔で主に主軸が南北方向でほとんど遺物を含まない溝(写真2)と、幅が広く深さがあり南北方向のSD4や、北東方向にのびるSD5(写真3)が見つかった。

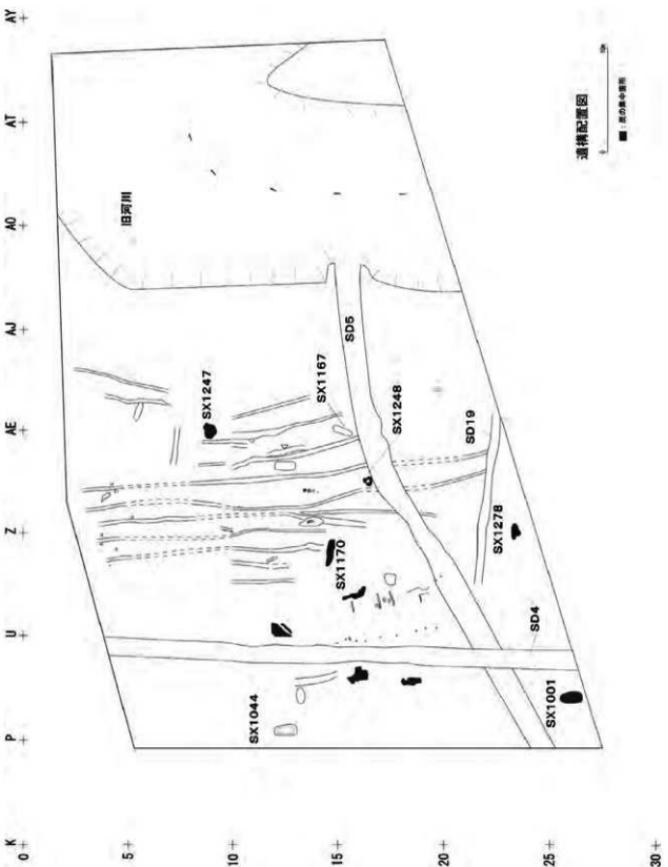
調査区中央寄りの南北方向の溝はほぼⅠ層で検出し、遺物はほとんど出土しなかった。調査区の中央部では比較的明瞭にプランを確認できたが、北側や南側では一部

を除いてプランを確認できなかった。幅は30～40cmで、長さは確認できた範囲で30～40mほどである。溝の底部には粗砂が縞状に堆積し、水が流れたことが窺えるが、性格は不明である。

Ⅱ層で確認された溝も、Ⅰ層と同じように調査区中央部を除いてプランの確認が難しかった。やや西寄りに主軸が振れ、この溝の場合も底部には粗砂が縞状に堆積する状況が見られた。

SD4は覆土の上層から十和田a火山灰が検出されており、調査時の所見や火山灰の分析結果から、火山灰の降下時には溝としての機能がほとんど失われていたと考えられる。遺物は赤燒土器の环が主体で、完形や半完形を中心に数多く出土した。次いで赤燒土器の小型甕や甕が僅かに出土し須恵器の出土はほとんどなかった。

SD5はSD4よりも古く、Ⅱ層を掘り込んでつくられている。土層断面の観察では、大きく2つの溝の断面の切り合いで認められ(SD5a・SD5b)、遺物を極力区別して取り上げる努力をしたが、切り合いで明瞭でない箇所はSD5として取り上げた。出土した遺物はSD4より少ないが、須恵器の割合が多くなる。



造構配置図



写真2 南北方向の溝（北から）



写真3 SD5 完掘状況（西から）



写真4 炭化物集中箇所（調査区中央部）南から



写真5 SX1170掘下げ状況



写真6 SX1248掘下げ状況

(炭化物の集中箇所)

今年度の調査で最も多くの遺物が出土したのが炭化物の集中箇所である(写真4)。炭化物の集中箇所は大きく4つの種類に分けることが出来る。

種類①は溝状に植物を燃やした炭が堆積し、遺物を多く含むものである(写真5)。今回の炭化物の集中箇所で最も数が多い。SX1170からは板状の木製品や、焼けた礫・須恵器甕の破片・土師器などが出土した。

種類②は円形で深く掘りこんどおり、植物を燃やした炭が堆積して、遺物を多く含んでいる(写真6)。この種の遺構はSX1248の1基のみであり粘土層と炭化層が互層になっており、板状の木製品や焼けた礫・須恵器甕が出土した。炭化層からは桃の種や炭化米が出土した。8世紀末から9世紀初めの土器が伴っている。

種類③は形は不正形で炭が厚く堆積するが、植物が自然炭化したと考えられるもので、遺物はほとんど含まれない。SX1278などがあるが数は少ない(写真7)。

種類④は形は不正形で木を燃やした炭が分布し、遺物をほとんど含まないもの(写真8)。SX1247は、いわゆる消し炭が分布するもので、甕土は認められなかった。

(火葬に関わる施設 仮称)

今年度の調査では火葬に関わる施設SX1001(写真9)が検出された。掘り方の規模は長さ170cm・幅85cmである。炭層の中には数多くの骨片や甕土ブロックが僅かに含まれたが、炭層底部には甕土が認められなかった。炭層直下からは土師器甕の底部が出土し、炭層の下には粘土質の無遺物層があり、その下からは角材や櫛・曲げ物など埋葬に係わる一連の行為の結果と考えられるが、これらのものが火葬施設なのかも含めて検討が必要なので、仮称とした。時期は土師器の甕から10世紀の前半と考えられる。(写真10)。

(木棺墓)

今年度は2基の木棺墓を検出した。SX1044(写真11)とSX1167(写真12)である。

SX1044は長さ190cm・幅65cmで、蓋板と底板、それに底板を支える横木が残っていた。

SX1167は長さ120cm・幅50cmで、底板と横木が残っていた。

また、SX1044の東側から「六太」と墨書きされた須恵



写真7 SX1278掘下げ状況



写真8 SX1247掘下げ状況



写真9 SX1001炭層調査状況

甕が2点出土した(写真13)が、木棺墓との関係は今後の検討課題である。

なお火葬施設と木棺墓については、昨年度出土した2基も含め、5基すべての遺構切取を行い、当センターに持ち帰って室内で遺構精査(写真14)と保存処理を行っている。保存処理は東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターに委託した。



写真10 SX1001炭層掘下げ状況



写真13 墨書き器「穴太」



写真11 SX1044掘下げ状況



写真14 木棺墓の精査の様子

まとめ

昨年と今年の調査から、8世紀の終わり頃から10世紀前半頃までの人々の活動の痕跡が認められた。成果を箇条書きで示すと以下のようになる。

- ① 昨年度と合わせて4基の木棺墓と、火葬施設と考えられるものが検出された。このことから、行司免遺跡の周辺が墓域の一部であったことが確認された。
 - ② 昨年度出土した「富寿神宝」や今年度「鉸具」が出土したことから、近くに官衙に関わる施設が存在する可能性が高く、木棺墓や火葬に関わる施設との関わりも想定される。
 - ③ 秋田城跡の漆紙文書や木簡に記された人名と同じ、「穴太」と記された墨書き土器が出土した。
- 以上3点のほかに、今後の整理の中で炭化物の集中箇所がどのような性格なのか、また木棺墓や火葬施設との関わりを追求することで、行司免遺跡の持つ性格が明らかになると考えられる。



写真12 SX1167掘下げ状況

(出土した遺物)

土器に関しては、Ⅱ層よりⅢ層と下層に行くにしたがって赤燒土器より須恵器・土師器の割合が多くなる傾向が見られ、供膳形態はⅡ・Ⅲ層ではほとんどが須恵器で、煮沸形態でもⅢ層では土師器の長甕が見られた。

金属器は包含層の出土であるが、鉸具と帶金具と考えられる鉄製品がそれぞれⅡ層から出土した。

矢 駆 A 遺 跡

遺跡番号 1618
調査次数 第3次
所在地 鶴岡市大字矢駆字下矢駆
北緯・東経 38度44分08秒・139度46分19秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因 日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調査面積 13,000m²
現地調査 平成18年4月17日～11月30日
調査担当者 黒坂雅人（調査主任）、伊藤成賢、三浦勝美、稻谷 孝、渋谷純子、山内七恵
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代、奈良時代、平安時代
構造 挖立柱建物跡、堅穴住居跡、井戸跡、土坑、柱穴、ピット、河川跡
遺物 須恵器、土師器、陶磁器、石器、木製品、柱材
(文化財認定箱数：150)



調査の概要

矢駆A遺跡は、庄内平野の南西部、鶴岡市街地の西方に開けた水田地帯。大山川と湯尻川にはさまれた沖積地にあって、標高は14.5mを測り、遺跡範囲60,000m²におよぶ広大な遺跡である。本遺跡は微高地（埋没自然堤防）や背後湿地に立地しており、河川の氾濫が多く見られた場所である。

第1次調査は、昭和62（1987）年に鶴岡西部地区の県営圃場整備事業にともなう緊急発掘調査として山形県教育委員会が実施し、およそ6世紀代に当たる古墳時代後



調査区全景

期の大規模な集落跡の存在が確認され、多くの土器類を中心とする遺物が出土した。

今回の調査は、日本海沿岸東北自動車道の建設に先立って進められているもので、事業地区は第1次調査区の南側に隣接している。昨年度行われた第2次調査は、事業地区周囲の農業用の排水路および用水管の切り回し部分について実施され、重機のバケット幅（約180cm）の線掘りとなったが、推定される遺跡範囲の中央部分を東西方向に横断する形となつたため、複数の河川跡や古墳時代の遺物包含層の存在など、広範囲に遺跡の状況を把握

検出した遺構

矢馳A遺跡第3次調査で検出された遺構は、主として古墳時代～中世にかけてのものであり、竪穴住居跡、溝跡、土坑、柱穴跡、ピット、河川跡等が検出された。

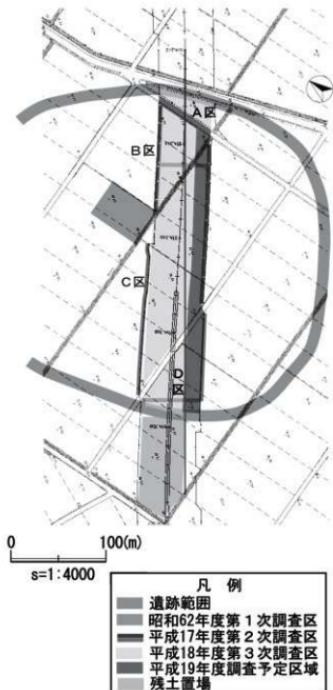
A区では竪穴住居跡(ST981)、畠跡と思われる南北方向に走る多くの溝跡、土坑などが検出された。出土した須恵器・土師器から、奈良～平安時代のものと考えられる。また東西方向の河川跡(SG833)が検出され、須恵器や木製品などが出土した。河川跡は市道を挟んでB区につながっており、調査区北方に伸びていることが確認された。

B区では、住居跡(ST1171)や畠状遺構が検出された。また、ほぼ南北方向に走る2条の河川跡(SG772・SG791)も検出され、木製品や須恵器などの遺物が出土している。

C区では、東部に柱穴跡・井戸跡等が検出された。柱穴跡の一部は掘立柱建物を構成すると思われる。また井戸跡からは、井戸組みの木枠も出土している。またこれらの遺構を囲むように溝跡も検出され、出土遺物などから中世の、館跡などに見られる周溝ではないかと推測される。従って、先にふれた柱穴跡・井戸跡の中には、中世の遺構が含まれると考えられる。

C区中央・西部では溝跡や土坑、柱穴跡、更にその下部から河川跡(SG160・SG1045・SG1048)等多くの遺構などが検出され、遺物も多く出土した。出土遺物から、古墳時代のものと考えられる。

D区では、近世から近代にかけての埋跡が検出され、護岸用の板組みも合わせて出土した。また、C区からつながる河川跡(SG160・SG1048)も検出された。

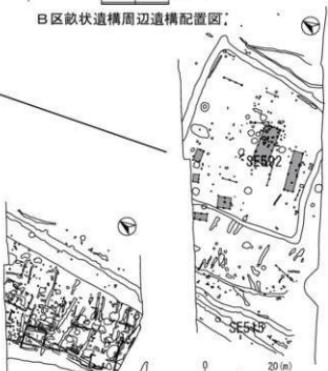
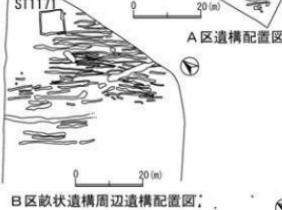
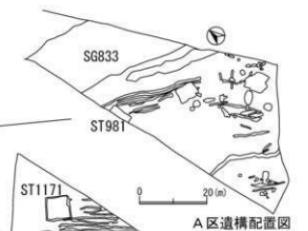
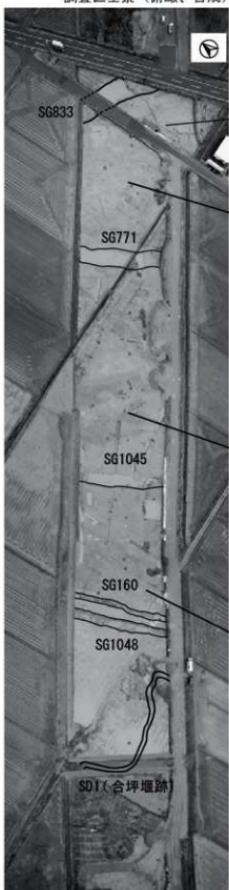


握することができた。今年度は、その第2次調査を受け、事業地区本体部分についてを行わ、竪穴住居跡や河川跡などについて発掘調査を行った。19年度は側道部分や市道に使われている部分の調査、19年度以降に本格的な出土遺物の復元や実測などを行い、精查・検討を行う予定である。



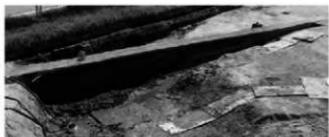
C区河川跡(SG160及びSG1048)実掘状況

調査区全景（俯瞰、合成）



C区西端周辺
遺構配置図

遺構配置図



A区河川跡（SG833）断面



B区河川跡（SG771）断面



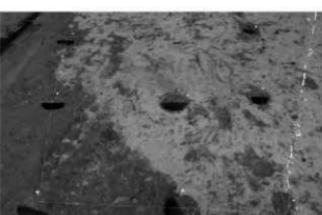
B区廻穴住居跡（ST1171）発掘状況



B区井戸跡（SE592）断面及び木枠出土状況



B区歎状遺跡発掘状況



C区据立柱建物跡



B区河川跡（SG771）発掘状況



D区埋跡木組み出土状況

出土した遺物

本調査では古墳～中世の土師器や須恵器、木製品などの遺物が出土した。

古墳時代では、C区中央部の遺物包含層とC区西部の溝跡・河川跡から、高环をはじめとする土師器等が多数出土した。特にSG160河川跡からは多くの环・鉢・甌などの土師器が出土している。およそ6世紀代の古墳時代中～後期のものと思われるが、詳細は今後検討する必要がある。

奈良・平安時代では、A区河川跡から小型の甌や、墨書きのある环など、多くの須恵器が、A区住居跡から土師器、紡錘車、裏底にヘラ書きのある須恵器が出土した。また、同じヘラ書きのある須恵器が、A区遺物包含層からも出土した。須恵器には奈良時代から平安時代の中頃のものまでがあり、遺跡周辺の集落がどのような変遷を経てきたのか検討が必要である。

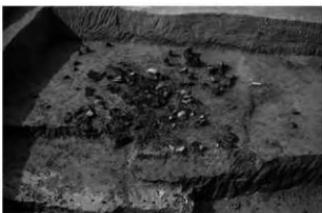
中世の遺物は、C区東部の遺構から、瀬戸焼や青磁など、中世～近代の陶器器などが数点出土している。

木製品では、平安時代のものと思われるものが多く出土しており、B区河川跡より木皿2枚、C区井戸跡より木枠や曲物、祭祀で使われたと考えられる畜糞などが出土した。今後理化学分析等を通して、木製品の年代や、遺構の成立した時期等が明らかになるものと期待したい。

その他、古墳時代の土製の玉、石製の菅玉、永楽通宝や寛永通宝といった中近世の古銭も出土した。



A区整穴住居跡 (ST981) 遺物出土状況



C区中央遺物包含層の遺物出土状況



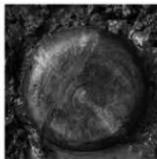
C区河川跡 (SG160) 遺物出土状況



C区中央河川跡 (SG1045) の遺物出土状況



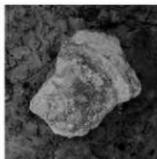
C区河川跡 (SG160) 耳付甌他出土状況



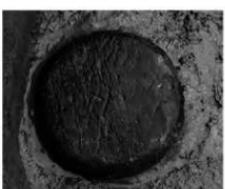
(左) A区河川跡 (SG833) より出土した須恵器环
(右) A区包含層より出土した墨書きのある杯



C区河川跡 (SG160) 土師器高他出土状況



A区竪穴住居跡 (ST981) (左) 及びA区包含層 (右) より出土した刻書のある須恵器环



A区河川跡 (SG833) より出土した
木製の皿 (左) と斎串 (右)

まとめ

矢馳A遺跡第3次調査の成果として、次の3点があげられる。

C区河川跡 (SG160・SG1048・SG1045)・C区中央部溝跡群は、出土遺物から古墳時代の所産であることが確認できた。出土遺物の詳細は今後の検討課題とはいえ、これらの遺構からは、土師器をはじめとする多くの土製品が出土しており、当時の生活がうかがえる貴重な資料と思われる。

A区の河川跡 (SG833)・住居跡 (ST981) は、出土遺物から奈良・平安時代の遺構であることが確認できた。特に、住居跡と遺物包含層から出土した同じ刻印のある須恵器は、これらの遺構の性格を物語る資料として貴重なものと考えられる。

C区中央の大好きな溝跡がめぐる中に多くの井戸跡や、土坑、柱穴跡を確認できることも成果としてあげられる。個々の遺構の時代を検討し、また掘立柱建物などの構造についても子細に検討を加えなければならないが、館跡の性格や構造を明らかにする上で貴重な資料と思われる。



C区中央遺物包含層より出土した土師器高环



C区河川跡(SG160)より出土した土師器环

木の下館跡

遺跡番号 平成8年度登録
調査次数 第3次
所在地 鶴岡市大字水沢字水京他
北緯・東経 38度42分30秒・139度44分06秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因 日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調査面積 750m²
現地調査 平成18年4月17日～7月13日
調査担当者 佐藤正俊（調査主任）、深澤 萬
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、鶴岡市教育委員会、庄内教育事務所
遺跡種別 包蔵地、城館跡
時代 旧石器時代、縄文時代、中世、近世
遺構 曲輪、堅穴住居跡、溝状遺構、炭窯跡
遺物 石器、須恵器、銅錢、中世陶器、陶磁器、磁器
(文化財認定箱数：1)



調査の概要

木の下館跡は平成8年に山形県教育委員会によって新規に登録された遺跡で、同教委『山形県中世城館遺跡調査報告書 第3集(庄内・最上地域)』では築城者不明ながら戦国期に築城された城館として報告されている。(同書91ページ。遺跡番号203-048)

本遺跡は近接するいくつかの遺跡とともに日本海沿岸東北自動車道の路線内にかかることになったため、日本道路公団東北支社(現・東日本高速道路株式会社東北支社)と山形県教育委員会との協議の結果、財团法人山形

県埋蔵文化財センターが緊急発掘調査を実施することになった。

計画路線内全体の遺跡面積はおよそ5,400m²で、遺構・遺物の分布状況を把握する第1次調査は平成16年12月に行われた。そして平成17年度には東部の3,900m²を対象として第2次調査が実施された。今回残る1,500m²の内750m²を第3次調査として行った。

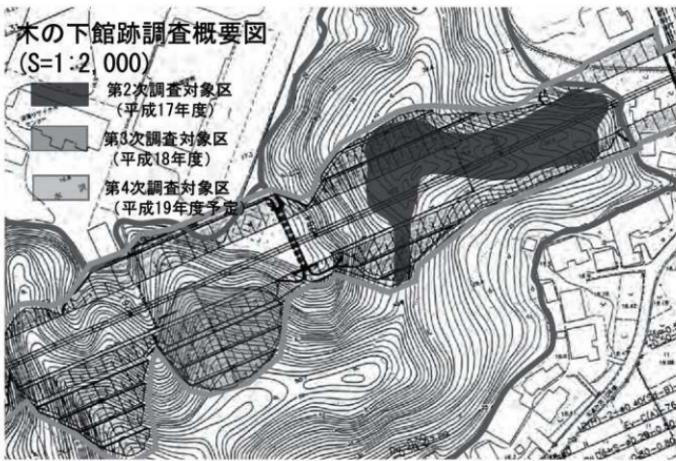
第3次調査は平成18年4月17日に開始され、①器材搬入②調査区の設定③重機での表土除去ができないため、人力による表土除去及び遺構検出④遺構精査と記録といった手順で行われ、同年7月13日に終了した。

遺跡はR羽越本線羽前水沢駅の南方約0.7kmに位置し、西の大戸川、東の大山川に挟まれた京田山(標高65m)の山上に立地する。

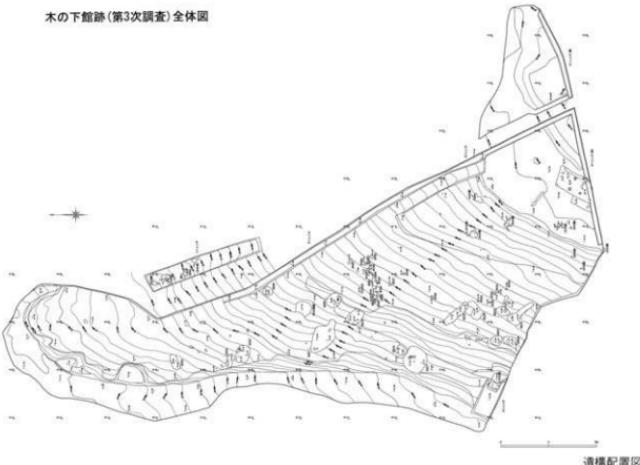
遺構と遺物

今回の発掘調査で見つかった遺構は、曲輪跡・堅穴造構・溝状遺構・ビット・炭窯跡・不明遺構である。

曲輪跡は、土層断面で7段を確認でき、田地形である山の形を利用し、斜面を削って構築したことが判った。調査区南側の路線外の部分が一段高くなっている、曲輪がもう一段あった可能性もある。曲輪確認のためのトレチ子を掘った際、6段目から性格不明の落ち込みが一箇



木の下館跡(第3次調査)全体図



所検出された。

曲輪2段目の平坦な場所からは、堅穴状遺構2棟が検出された。2棟は切りあっており、ST301は長辺約4m(現存)・短辺約2mの長方形を呈しており、9本の柱穴を作っている。長辺は南側に延びており、全容は不明である。ST302は壁ぎわに炉跡が検出されたが、規模や性格はいずれも判らない。いずれも、特定される遺物が出土していないため時期は不明である。

曲輪の斜面中腹からは炭窯跡3基検出された。SQ316は、長径1.5m・短径0.9m円の楕円形を呈している。SQ320は、直径1.6mの円形を呈している。両方の遺構からも上層から多量の炭くずが、床面から真っ赤に焼けた土が確認された。炭くず以外の遺物の出土は無く、時期については不明である。

遺物は、土器や石器が整理箱1箱分出土した。旧石器時代の石器剥片、平安時代の須恵器片、鎌倉時代の珠洲焼、近世陶器・磁器、古銭(寛永通宝)などが、調査区全体から散在して出土した。

ま と め

3次調査の成果は、次のとおりである。

- ・曲輪跡は2次調査区から南にある本丸への通り道にあたり、防衛する上で重要な役割をはたしていたと考えられる。
- ・堅穴状遺構は関連する遺物が無く、時期を特定することはできない。しかし、上層より近世陶器が出土しており、これよりは前の時期である。炭窯とセットで考えるなら、作業小屋や物置のような施設であったと推測される。
- ・炭窯跡の時期は遺物の出土が無いため不明である。製鉄との関連が考えられるが、鐵滓などの製鉄関連の遺物は出土していない。また、昨年度調査された万治ヶ沢遺跡からも検出されており、形態が似類している。



調査区全景（北から）



調査風景（南から）



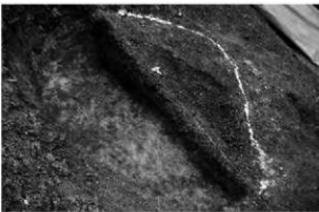
曲輪跡（南から）



ST301・ST302堅穴状遺構（北から）



SQ316発堀 (北から)



SQ320発堀 (北から)



調査区完掘全景 (西から)



出土遺物



空撮 (西から)

たま つくり 玉作 1 遺跡

遺跡番号	平成16年度登録
調査次数	第2次
所在地	鶴岡市大字中清水字玉作
北緯・東経	38度42分49秒・139度45分17秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道（湯瀬～鶴岡）建設
調査面積	2,786m ²
現地調査	平成18年7月3日～8月31日
調査担当者	佐藤正俊（調査主任）、深澤 萬
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、鶴岡市教育委員会、庄内教育事務所
遺跡種別	集落跡
時代	古墳時代、平安時代
遺構	
遺物	土師器、須恵器、磁器、木製品 (文化財認定箱数: 1)



調査の概要

玉作1遺跡は、山形県教育委員会の試掘調査の結果、平成16年度に新規に登録された遺跡である。遺跡の一部が日本海沿岸東北自動車道の路線内にかかることになったため、日本道路公団東北支社（現・東日本高速道路株式会社東北支社）と県教育委員会との協議の結果、財団法人山形県埋蔵文化財センターが緊急発掘調査を実施することになった。

計画路線内全体の遺跡面積はおよそ7,400m²で、このうち暫定二車線工事区域に入り、平成17年度に着工予定と



調査概要図

なっているブレード施工部分を含む3,680m²を対象として平成17年度に第1次調査を行った。本年度は暫定二車線工事区域の残り2,786m²を第二次調査として調査を行った。高速道路側道部分1,000m²を平成19年度に第三次調査として行う予定である。

現地調査は7月3日に開始し、①器材搬入②調査区の設定③重機による表土除去④面削りと遺構検出⑤遺構精査と記録といった順序で行われ、8月31日に現地調査が終了した。

遺跡はJR羽越本線羽前大山駅の南南東約3.3kmに位置し、河間低地に立地する。地目は水田で一部は軒作田となり畠地として利用されている。

遺構と遺物

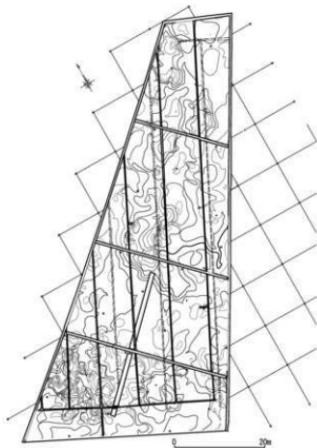
今回の調査区では、以前のほ場整備によって擾乱を受け、掘立柱建物跡などの遺構は検出できなかった。

調査区の中央部から東側では、広範囲に亘って粘土層と砂層が交互に堆積し、流木や木片が多数検出された。この地区には低湿地帯が広がっていたと考えられる。

出土遺物は、調査区の中央から南西側のほ場整備によって擾乱を受けた層から多数出土した。第1次調査と同様に主に古墳時代前期と後期の土師器、平安時代の須恵器や赤焼土器等が出土した。

ま と め

今回の調査では、遺構や遺物が検出される層があったとみられる南西側域の一帯が、ほ場整備で壊されていたため、往時の人々が生活する痕跡を確認することができなかった。しかし、中央部から東側にかけて低湿地が大きく広がることが判り、古墳時代の集落は水辺に近い微高地に立地していたと考えられる。集落の中心地は調査区の南側にあったものと推測することができる。



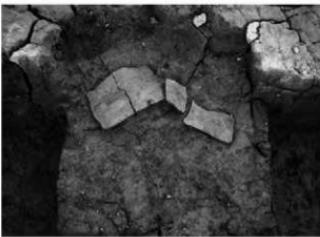
調査区全体図



空撮（西から）



調査風景（西から）



出土遺物（南から）

岩崎遺跡

遺跡番号	平成17年度登録
所 在 地	鶴岡市大字下清水字岩崎
北緯・東経	38度43分21秒・139度45分43秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調査面積	5.000m ²
現地調査	平成18年5月8日～9月22日
調査担当者	水戸部秀樹（調査主任）、渡辺和行
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時 代	古墳時代、奈良時代、平安時代
遺 構	掘立柱建物跡、竪穴住居跡、井戸跡、土坑、柱穴、ピット
遺 物	須恵器、土師器、陶磁器、石器、木製品、柱材 (文化財認定箱数：70)



調査の概要

岩崎遺跡は、県教育委員会による分布調査を経て平成17年度に新規の遺跡として登録された。遺跡範囲内に日本海沿岸東北自動車道の建設が実施されるため、記録保存のための緊急発掘調査が行われることになった。

当遺跡は、古墳時代と奈良時代、平安時代の遺跡である。調査成果から、古墳時代では集落、平安時代では官衙に関連する遺跡であると考えられる。奈良時代に属する遺物は出土しているものの、明確な遺構は検出されなかった。

遺跡は大山川右岸に立地する。現在は水田に整備されているが、遺跡南方の丘陵部の延長に位置することから、かつては周囲より高い地形であったと考えられる。

遺構と遺物

古墳時代に属する遺構は竪穴住居と土坑SK155などが検出された。ただし、遺存状況は悪くわずかにカマド近辺が残るのみであった。また、SK155からは多数の土師器が出土した。遺物では、古墳時代前期に属す土師器の小型丸底甕と甕など、ほかに勾玉や管玉も出土した。

奈良時代後半（8世紀後半）の遺物では須恵器の高台付壺や円面鏡が出土した。山形県では円面鏡の出土は珍しく、庄内地方ではほかに6遺跡が挙げられるのである。特に田川郡城では、当遺跡と荒沢塚跡に限られる。

平安時代に属する遺構は、掘立柱建物SB759・SB760、掘立柱列、井戸SE38・SE126・SE380・SE560・SE591・SE628などが検出された。SB759・760は総柱建物であり、倉庫と考えられる。

ほかにも大小の柱穴が数多く検出された。柱材が残るものも多く、その直径は太いもので30cmを測る。また先を尖らせた杭状の柱なども見られた。

井戸は6基検出された。中には幾つかの種類が見られる。SE591は、長い板を縦に並べて方形の井戸枠を組み、

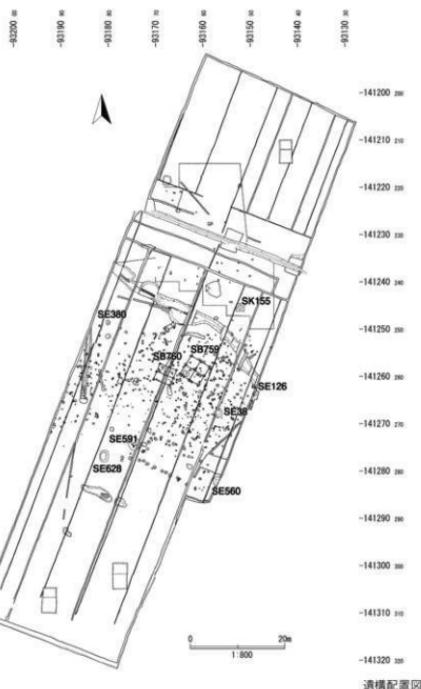
その内側に井桁を設けている。井桁は井戸の上端と下端に二箇所設置されている。周囲からの土圧により上端の井桁は折れ、井戸枠の縦板は内側に倒されている。井戸の中からは赤焼き土器の壺や、須恵器の蓋などが出土した。SE380は井戸枠として丸太をくり貫いたものが上下に二つ重ねた状態で埋設されている。SE126は小型であり、井戸枠の内法は40cm四方、深さは35cmである。SE38・560・628は素掘りの井戸である。SE628からは蓋が出土した。

ほかに黒曜石製のアメリカ式石鏃、近世以降の陶磁器などが出土した。

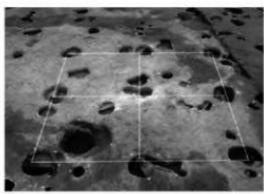
ま と め

当遺跡では、古墳時代前期から中期には集落が営まれた。奈良時代の造構は確認されなかったが、円面鏡や高台付壺などが出土した。希少な円面鏡が出土していることから、周辺に官衙関連の施設があったと予想される。

平安時代（9～10世紀代）の造構、遺物が最も多く確認された。倉庫であると考えられる掘立柱建物は、現在2棟確認されており、やはり官衙関連施設と考えられる。岩崎遺跡周辺は出羽郡大田郷に比定（山形県史第一巻）されており、関連の施設であった可能性も含め検討していく必要がある。



遺構配置図



掘立柱建物SB759



井戸SE380



井戸SE591

みなみ 南 田 遺 跡

遺跡番号 平成16年度登録
所在地 鶴岡市大字清水新田字南田
北緯・東経 38度43分40秒・139度45分52秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因 日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調査面積 3,400m²
現地調査 平成18年9月19日～11月3日
調査担当者 水戸部秀樹（調査主任）、渡辺和行
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺跡種別 集落跡
時代 古墳時代、奈良時代、平安時代
遺構 井戸跡、土坑、溝跡、川跡、柱穴、ピット
遺物 須恵器、土師器、木製品、柱材
(文化財認定箱数：20)



調査の概要

南田遺跡は、県教育委員会による分布調査を経て平成16年度に新規の遺跡として登録された。遺跡範囲内に日本海沿岸東北自動車道の建設が実施されるため、記録保存のための緊急発掘調査が行われることになった。

遺構と遺物

当遺跡からは古墳時代・奈良時代・平安時代の遺構・遺物が確認された。住居は検出されず、住居域からはやはり離れた個所であると考えられる。東側に遺跡は続かなかったため、中心は調査区の西側になると予想される。

主な遺構は溝SD2・SD3・SD78、土坑SK142、井戸SE80、川跡SG81・SG130・SG248・SG356などである。川跡SG130下層、SG248・SG356は古墳時代の土器が出士した。溝、土坑、川跡SG130上層からは8世紀後半の土器、中には8世紀半ばまでさかのぼるものも出土して



SG130川跡の土器出土状況

いる。SK142は廃棄土坑と見られ、土器のほかに炭が大量に検出された。川跡SG81からは10世紀の赤焼き土器などが出土した。

遺跡周辺の地形は東から西へ傾斜しているため、調査区で検出された川跡、溝とも調査区の西にあると推察される遺跡の中心へ向かって流れるものと考えられる。

ま と め

『続日本紀』では708年に出羽郡を設置したとされるが、その中心である出羽柵の具体的な所在地は今もまだ不明である。『山形県史第一巻』では、その可能性地の一つとして大山川流域が挙げられた。出羽柵は733年以秋田市まで北進するため、8世紀第一四半期の遺物が出土しなければ出羽柵に比定することは難しい。出土した土器は、庄内平野に出羽柵が



経営されていた年代から約四半世紀以降のものである。

今回の調査では、出羽柵の所在地に関する手がかりは得られなかったが、庄内平野では少なかった8世紀後半の須恵器をはじめとした良好な資料が多く出土した。



出土した8世紀後半の須恵器



俯瞰写真（左が北）

B. 研究業務

1 研究研修

(1) 全国埋蔵文化財法人連絡協議会事業への派遣

ア 総 会

会 場 山口県山口市（ホテルニュータナカ）

派遣職員 専務理事 柏倉俊夫、調査研究部長 尾形與典

期 日 平成18年6月8日～9日

イ 役員会

会 場 日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館

派遣職員 専務理事 柏倉俊夫

期 日 平成18年11月30日～12月1日

ウ コンピュータ等研究委員会

会 場 大阪府大阪市（ホテルアヴィーナ大阪）

派遣職員 専門調査研究員 伊藤邦弘、調査研究員 高桑 登

期 日 平成18年6月29日～30日

エ 研 修

(ア) 研修名 管理部門部会、調査部門部会合同研修会

会 場 北海道札幌市（ホテルライフォート札幌）

派遣職員 調査研究部長 尾形與典、総務課長補佐 船越真知子

期 日 平成18年9月21日～22日

(イ) 研修名 全国埋蔵文化財法人連絡協議会海外研修

研修地 中華人民共和国

派遣職員 局長 小笠原正道

期 日 平成18年12月5日～10日

オ ブロック活動

北海道・東北地区会議及びに同北海道・東北地区コンピュータ等研究委員会

会 場 福島県郡山市（郡山市民文化センター）

派遣職員 専務理事 柏倉俊夫、調査研究部長 尾形與典

調査研究員 高桑 登

期 日 平成18年10月26日～27日

(2) 「古代エジプト王朝の終焉に関する多角的研究」研究代表 筑波大学教授 川西宏幸

派遣地 エジプト テヘラ村

派遣職員 調査研究員 植松暁彦

期 日 平成18年7月12日～8月17日

2 情報処理

(1) 収蔵図書データベース

新収蔵図書 3,256冊のデータ入力実施

3 普及

(1) ホームページ

主な項目と内容は以下のとおりです。

調査遺跡一覧	発掘調査遺跡や整理作業中の遺跡を紹介しています。
発掘調査速報	調査期間中、遺跡の状況を毎週更新して紹介しています。
イベント情報	調査説明会、各種イベントの情報を提供しています。
センター刊行物案内	調査報告書、広報誌などの刊行物を紹介しています。
学校教育への協力	出前授業の紹介、埋蔵文化財を活かした授業のアイデアなどを提供しています。また、出前授業の状況や、児童・生徒の感想文を掲載しています。
弁天秘宝館	発掘調査での出土品を時代ごとに収録し、わかりやすく解説しています。
埋文やまがた	4ヶ月ごとに発行する広報誌「埋文やまがた」を紹介しています。これまでもに刊行したバックナンバーもご覧になれます。
ディスクロージャー	情報公開制度に基づき、センターの情報を提供しています。
その他、掲示板やセンターの紹介など、楽しめる内容となっています。	

(2) 山形県埋蔵文化財発掘調査報告会の開催

「発掘やまがた最前线」

期 日 平成18年12月16日(土)～17日(日)

会 場 山形国際交流プラザ(ピッグウイング)

共 催 山形県教育委員会

後 援 遊佐町教育委員会・東北芸術工科大学

内 容 報告会：平成18年度調査から8遺跡の報告

遺物展示：企画展「発掘された被災遺跡」

縄文体験コーナー：勾玉づくり、アンギン編み、縄文クッキーづくり、弓矢

入場者 576名

(3) 日本海沿岸東北自動車道関係遺跡発掘調査報告会

「発掘された鶴岡の歴史＜2006＞」

期 日 平成19年3月3日(土)

会 場 出羽庄内国際村ホール(鶴岡市)

共 催 鶴岡市教育委員会

協 力 国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所

東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所

内 容 報告会：平成18年度調査から7遺跡の報告

遺物展示：木の下館跡、玉作1遺跡

行司免遺跡、岩崎遺跡

南田遺跡、興屋川原遺跡、矢馳八遺跡

入場者 256名

(4) 外部展示

「高擧南遺跡、菖蒲江1・2遺跡」展

期　日　常　設

会　場　山形県総合交通安全センター

内　容　「高擧南遺跡」「菖蒲江1遺跡」「菖蒲江2遺跡」発掘資料展示公開
(土師器、木製品等の実物展示、発掘調査に関わる写真パネル等展示)

「県庁の下は縄文時代」展

期　日　平成18年6月26日（日）～7月14日（金）

会　場　県庁1階県民ギャラリー

内　容　「熊の前遺跡」発掘資料展示公開
(縄文土器、石器等の実物展示、発掘調査に関わる写真パネル等展示)

入　場　者　577名

「日本最大級の縄文土器」展

期　日　平成18年8月22日（火）～9月18日（月）

会　場　山形空港ビル特設ギャラリー（山形空港ビル2階）

共　催　山形空港ビル株式会社

内　容　「水木田遺跡」発掘資料展示公開
(縄文土器、石器等の実物展示、発掘調査に関わる写真パネル等展示)

入　場　者　611名

「県内4地域の歴史新発見」展

期　日　平成18年11月2日（木）～29日（水）

会　場　山形県郷土館「文翔館」ギャラリー3

内　容　「鶴ヶ岡城跡」「上野遺跡」「山形城三の丸跡」「米沢城跡」発掘資料展示
(中国陶磁器、茶道具等の実物展示、発掘調査に関わる写真パネル等展示)

入　場　者　264名



県庁ロビー県民ギャラリー



文翔館ギャラリー3

(5) 学校への協力

No.	派遣職員名	派遣校・依頼者名	年月日	内容
1	柏倉俊夫・小笠原正道 山口博之・石井浩幸 渡辺淳一・黒坂広美 安部由佳	上山市立西郷第一小学校 校長 片桐 理子	2006年4月18日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り 野菜切り
2	山口博之・渡辺淳一 長瀬えみ子・鈴木久美子	上山市立西郷第二小学校 校長 大沼 修一	2006年4月20日	6年社会科・5年総合学習 「縄文時代のくらしと西郷二小」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り 石器でものを切る
3	山口博之・石井浩幸 星とき子・安部由佳	天童市立干布小学校 校長 高宮 洋悦	2006年4月25日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り 野菜切り
4	山口博之・石井浩幸 植松曉彦・安部由佳	寒河江市立寒河江小学校 校長 荒木 利見	2006年4月26日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り 野菜切り
5	山口博之・斎藤主税 高桑登	舟形町立長沢小学校 校長 布川 雄二	2006年4月27日	6年社会科 「縄文時代のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り 石器でものを切る
6	渡辺淳一・黒坂広美 安部由佳・鈴木久美子	中山市立豊田小学校 校長 田中 克彦	2006年5月9日	6年社会科 「縄文時代のくらし」土器・石器に触れてみよう 勾玉づくり
7	山口博之・長瀬えみ子 安部由佳・鈴木久美子	東根市立東根小学校 校長 伊藤 大蔵	2006年5月11日	6年社会科 「大昔のくらしをさがろう」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り
8	山口博之・黒坂広美 鈴木久美子	山形市立大郷小学校 校長 薗澤 雄大	2006年5月15日	6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り 野菜切り
9	山口博之・長瀬えみ子 安部由佳・鈴木久美子	山形市立桜田小学校 校長 水沢 徳子	2006年5月17日	6年社会科 「縄文時代のくらし」土器・石器に触れる 火おこし・弓矢体験・野菜切り
10	山口博之・黒坂広美 星とき子	真室川市立釜淵小学校 校長 田中 康彦	2006年5月24日	5・6年社会科 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 縄文クッキー
11	山口博之・氏家信之 長瀬えみ子・安部由佳	寒河江市立三島小学校 校長 多田 秀人	2006年5月26日	6年社会科 「縄文時代へタイムスリップ」 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
12	山口博之・氏家信之 黒坂広美・鈴木久美子	天童市立高巣小学校 校長 笠原 仁	2006年5月31日	6年社会科 「縄文時代へタイムスリップ」 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
13	山口博之・長橋至 長瀬えみ子・星とき子	新庄市立新庄中学校 校長 竹田 真一	2006年6月1日	1年市域学習 「大昔の人々のくらし」土器・石器に触れてみよう 火おこし・弓矢体験・くるみ割り 野菜切り
14	氏家信之・黒坂広美 鈴木久美子	河北町立満延小学校 校長 山泉 誠	2006年6月5日	6年社会科 「縄文時代へタイムスリップ」 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
15	氏家信之・長瀬えみ子 安部由佳	寒河江市立鶴原小学校 校長 萩原 良悦	2006年6月15日	6年社会科 「縄文時代へタイムスリップ」 火おこし・弓矢体験・石器で野菜切り
16	山口博之・須藤孝宏 安部由佳・鈴木久美子	天童市立天童中郡小学校 校長 岡山 信	2006年6月22日	6年社会科 「縄文時代の山形」 勾玉づくり
17	山口博之・氏家信之 黒坂広美・鈴木久美子	山形市立宮浦小学校 校長 廣谷 春樹	2006年6月27日	6年社会科 「縄文時代へタイムスリップ」 くるみ割り・石器で野菜切り
18	渡辺淳一・須藤孝宏 星とき子	上山市立南小学校6年PTA 代表 井上 雄夫	2006年7月16日	6年親子行事 火おこし・石器で野菜切り・勾玉づくり
19	須藤孝宏・鈴木久美子 加藤瞳	山形県立山形盲学校 校長 相田 遼治	2006年8月4日	サマースクール「特別授業社会科」 土器・石器に触れてみよう・火おこし
20	山口博之・石井浩幸 渡辺淳一・鈴木久美子 加藤瞳	山形市立第七小学校2年PTA 代表 加藤 智一	2006年9月27日	2年親子行事 「弓矢体験・勾玉づくりを体験しよう」土器・石器に触れてみよう・勾玉づくり

No.	派遣職員名	派遣校・依頼者名	年月日	内容
21	渡辺淳一	山形市立第八中学校 校長 菅原 貞	2006年10月15日	2年学校行事 石器をはじく芋煮の野菜切り 火おこし体験
22	押切智紀・星とき子	中川地区公民館 館長 斎藤 貞	2006年10月15日	1～6年親子行事 火おこし焼き芋体験・勾玉つくり
23	渡辺淳一・石井浩幸	山形市立第八小学校P.T.A 代表 芳賀 稔一	2006年10月21日	5年親子行事 「大昔のくらし」 勾玉つくり
24	山口博之・須藤孝宏	山形市立第六中学校 校長 今井 義惠	2006年10月27日	文化祭支援「地域交流・文化講座」 勾玉つくり
25	今田秀樹・渡辺淳一	天童市立荒谷小学校 校長 酒井 智子	2006年11月4日	児童育成事業支援 勾玉つくり
26	石井浩幸・今田秀樹 鈴木久美子・加藤瞳	寒河江市立三葉小学校 校長 多田 秀人	2006年11月9日	6年社会科 「体験活動・勾玉つくり」
27	渡辺淳一	山形県朝日少年自然の家 所長	2006年11月11・12日	「朝日わくわく広場⑥ 朝少まるごと雑文村」雑文 時代における 火おこし体験・勾玉つくり・アンギン風呂
28	石井浩幸・渡辺淳一 鈴木久美子・加藤瞳	天童市立高橋小学校 校長 笠原 仁	2006年11月21日	6年社会科 「雑文時代の日々の生活と食文化」 勾玉つくり
29	渡辺淳一・齋野祐子	寒河江市立陵南中学校 校長 菊池 道	2007年1月12日	おもだか教室1～3年 「雑文時代の人々の生活と食文化」 火おこし体験・雑文クッキーづくり
30	山口博之・石井浩幸 今田秀樹	真室川町立釜屋小学校 校長 田中 旗	2007年1月18日	6年(釜浦小・大瀬小・小又小・及位小)の交流学習 「大昔の真室川の周辺」地域の土器・石器にふれる 勾玉つくり
31	山口博之・黒坂雅人 加藤瞳・齋野祐子	天童市立高橋小学校 校長 笠原 仁	2007年1月23日	6年社会科 「雑文時代の人々の生活」 雑文クッキーづくり



(6) 来所者

a. 見学・研修等

No.	来所者	年月日	人数	内容
1	上山市立南中学校 2学年	2006年5月17・18日	4	職場体験学習
2	道の女性教員会 湯瀬恵美	2006年5月11日	5	施設見学
3	上山市立北小学校 6学年	2006年5月19日	126	施設見学
4	小町立北郷小学校 6学年	2006年6月19日	9	下野木道跡の現地見学
5	雄物川市立雄陸スクール	2006年6月28日	10	体験学習(幻玉づくり)
6	鶴岡市立上郷小学校 5・6学年	2006年6月28日	43	行司免道跡・木の下船跡の現地見学
7	鶴岡市立雄金小学校 6学年	2006年7月12日	20	矢越人道跡の現地見学
8	鶴岡市 中山あわせ会	2006年7月26日	40	矢越人道跡の現地見学
9	小町教育委員会	2006年7月31日	11	下野木道跡の現地観察
10	「第36回雄河江市少女少年郷土史講座」受講児童	2006年8月2日	34	施設見学と体験学習(幻玉づくり) 中山城跡の現地見学
11	東根市立東根第一中学校 1学年	2006年8月4日	1	職場体験学習
12	小町立羽衣水小学校	2006年8月8日	15	下野木道跡の現地観察、発掘体験
13	仁木宏(大蔵市立大学大学院 助教授)	2006年8月19日	3	亀ヶ崎道跡出土遺物の見学(日本藝術振興会科学研究費プロジェクト実施研究)
14	山形市立高十中学校 2学年	2006年9月14日	4	鶴岡体験学習
15	神奈川考古学友の会	2006年9月27日	9	施設見学
16	鶴岡市立福榮小学校 6学年	2006年10月11日	13	行司免道跡の現地見学
17	東北芸術工科大学	2006年10月13日	31	施設見学
18	大崎地区日高道建設事業推進協議会	2006年10月26日	20	矢越人道跡の現地観察
19	山形県立山形養護学校 1・2学年	2006年11月2日	5	職場体験学習
20	上山市議会OB緑友会	2006年11月17日	13	施設見学

b. 図書開覧

No.	来所者	年月日	閲覧目的
1	高畠町役場 小林貴宏	2006年5月10日	資料調査
2	東北芸術工科大学生 高橋静歩	2006年5月25日～2006年12月18日	卒業論文作成
3	東北芸術工科大学助師 手代木美穂	2006年7月13日～2006年8月18日	資料調査
4	天栄市教育委員会 伊野一郎	2006年9月1日～2006年12月15日	資料調査
5	東北芸術工科大学生 小林克也	2006年9月11日	卒業論文作成
6	山形市教育委員会 國井 修	2006年9月27日	発掘調査の参考の為
7	東北芸術工科大学助教授 北野博司	2006年10月4日	資料調査
8	東北芸術工科大学人間科学院 長田知子	2006年10月13日	修士論文研究
9	財團法人愛知県教育・スポーツ振興財團 藤山誠一	2006年10月23日～2006年10月24日	桃文時代晚期の遺跡(東北地方)における堅穴住居調査
10	東北芸術工科大学生 森 秀秋	2006年11月14日～2007年1月11日	卒業論文作成
11	東北芸術工科大学講師 木村志津	2006年11月10日	資料調査
12	金沢学院大学生 北川 智	2007年1月11日	卒業論文作成

c. 資料調査

No.	来所者	年月日	対象遺跡・遺物
1	筑波大学大学院 稲石 悠	2006年6月14日	三折原見台遺跡、下長橋遺跡、上高田遺跡
2	東京大学大学院 森先一貴	2006年6月26日～2006年6月27日	太郎木2遺跡、お仲門林遺跡、「張半」道跡、月山沢遺跡、高瀬川遺跡(「丁跡」)
3	東北芸術工科大学 長島謙太	2006年7月6日～2006年12月22日	小山崎遺跡、生石2遺跡、葛瀬江1遺跡第2次、西ノ前遺跡
4	仙台市教育委員会文化財課 薮野祐彦	2006年9月14日	生石2遺跡、北柳1遺跡、百川田遺跡
5	櫛原学院大学院 中村耕作	2006年9月15日	渡戸遺跡、川口遺跡
6	西柏模考古学研究会 西川修一	2006年9月17日	馬洗湯遺跡、藤田屋敷遺跡、今保道路、高福山遺跡、百刈田遺跡
7	東北芸術工科大学 中嶋雅輝	2006年10月26日	小山崎遺跡
8	東北芸術工科大学 北野博司15名	2006年11月19日	西班田遺跡
9	丸森市埋蔵文化財センター 柏木大延	2007年1月29日	上高田遺跡ほか

(7) 職員派遣等

No.	派遣職員名	派遣場所	年月日	内容
1	山口博之 長井市長	長井市民文化会館	2006年4月22日 ～23日	「縄シンポジウム」発表
2	浜谷孝雄 船長 佐藤継雄	山形県立うきたむ楓土記の丘考古資料館	2006年5月17日	第3回18年度企画展示委員会への派遣
3	山口博之 天童市教育委員会 教育長・佐藤継雄	天童市市民文化会館	2006年6月20日	天童市文化財保護審議会への派遣
4	伊藤邦彦 山形県立文化遺産会 会長 鈴木昭則	長井市農田地区公民館	2006年7月4日	「蛇崩廻跡と長井の古代史」への講師派遣
5	浜谷孝雄 山形県立うきたむ楓土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ楓 土記の丘考古資料館	2006年7月23日	考古学セミナー「山形の旧石器・中石器時代」 への講師派遣
6	石井浩幸 山形県立文化遺産会 会長 佐藤継雄	遊佐町吹浦	2006年8月3日	小山崎遺跡調査指導
7	石井浩幸 山形県立うきたむ楓土記の丘考古資料館	山形県立うきたむ楓 土記の丘考古資料館	2006年8月17日	企画展「田石器から日向へ～大きく変わった 環境と文化」の展示指導
8	石井浩幸 最上町立明徳小学校	山形空港ビル	2006年9月18日	「日本最大の縄文土器」展の講師派遣
9	長崎恒 山形県立山形東高等学校	山形県立山形東高等学校	2006年10月4日	一日総合大学の講師派遣
10	長崎恒 伊藤和夫 山形県立山形東高等学校 校長	山形県立山形東高等学校	2006年10月21日	上山ゆうがく塾への講師派遣
11	長崎恒 上山市教育委員会 教育長・齋藤光 校長	山形県立山形東高等学校	2006年10月21日	上山ゆうがく塾への講師派遣
12	長崎恒 上山市教育委員会 教育長・齋藤光 上山市北部地区公民館 館長 増本隆	上山市久保人公民館	2006年10月20日	「ゆうゆうライフ学校」への講師派遣
13	渡辺厚 財團法人山形県みどり推進機構 大山文化財を愛する会 会長 日野哲也	山形県立みはらしの丘 大山文化財を愛する会	2006年11月1日 10月ワーキングショップ	「歴史はらしの丘」のミュージアムパーク第 1回ワーキングショップ
14	黒柳雅人 金城むらづくり委員会 会長 高橋義一 南陽市金山公民館 館長 佐藤太郎	大山コミュニティセンター	2006年12月5日	大山文化財を愛する会定例講座への講師派遣
15	渡辺厚 大山文化財を愛する会 会長 日野哲也	金城むらづくり委員会 会長 高橋義一 南陽市金山公民館	2007年1月21日	「第13回金山地区むらづくりの集い」への講 師派遣
16	植松信哉 山形県立うきたむ楓土記の丘考古資料 館 館長 佐藤継雄	山形県立うきたむ楓 土記の丘考古資料館	2007年2月18日	「2006年縄陶の发掘調査検討会」への講師派遣
17	今田秀樹			

(8) 調査説明会

No.	市町村	遺跡名	開催日	参加者数	備考
1	南陽市	上野遺跡	2006年6月15日	35	
2	新庄市	中村原C遺跡（第4次）	2006年6月28日	75	
3	米沢市	山ノ下遺跡	2006年8月2日	4	関係者のみで実施
4	南陽市	石畠廻跡	2006年8月4日	57	
5	鶴岡市	木の下遺跡（第3次） 西ノ内遺跡（第3次） 玉川1遺跡（第2次） 岩谷遺跡	2006年8月27日	63	合同で開催
6	南陽市	柳原遺跡（第1次）	2006年9月15日	39	
7	南陽市	椎原遺跡（第2次）	2006年10月25日	48	
8	南陽市	加賀原敷遺跡	2006年10月27日	20	
9	上山市	中村城跡（第2次）	2006年10月27日	79	
10	南陽市	上大作裏遺跡 天主廻跡	2006年10月28日	20	
11	鶴岡市	行方免遺跡	2006年10月28日	60	
12	小国町	下水道跡	2006年10月29日	85	
13	鶴岡市	矢跡八遺跡（第3次） 南印遺跡 興津原遺跡（第3次）	2006年11月19日	58	合同で開催
14	南陽市	百利田遺跡（第4次）	2007年1月24日	4	関係者のみで実施



(9) 資料貸出

No.	貸出先	借用目的	貸出期間	資料名	数量
1	国立立うきたむ風土記の丘考 古資料館	常設展示への展示	2006年4月1日～2007年3月31日	西町函下道跡ほかの出土遺物	21
2	仙台市富沢道跡保存館	企画展「水河間を生きる－2万年前の日」本州島～「への展示	2006年6月23日～9月29日	太郎水野2遺跡出土石器	6
3	大石田町教育委員会	町内から出土した考古資料展への展示	2006年6月23日～8月14日	久佐道跡ほかの出土遺物	3
4	国立立うきたむ風土記の丘考 古資料館	「旧石器から日向へ－大きく変わった歴史と文化－」への展示	2006年7月1日～12月20日	弓張平B道跡ほかの出土石器	42
5	酒田市立資料館	企画展「越後輪軸跡とその周辺」展への展示	2006年7月3日～9月15日	沼田城跡ほかの出土遺物、写真パネル	149
6	奥松島縄文史跡資料館	企画展「どうもん縄文－縄文時代の人とモノの交流－」への展示	2006年7月26日～11月8日	宮の前道跡ほかの出土遺物・備品	4
7	大阪府立浜松池博物館	特別展「水にうつる願い」への展示	2006年10月7日～11月26日	俵田遺跡SM60祭祀遺構復元図	1
		特別展「掘り出された（子ども）の歴史 石器時代から江戸時代まで」への展	2006年9月6日～12月26日	西海道跡 手形付土製品	1
8	明治大学博物館	企画展示資料として使用のため	2006年9月27日～12月20日	弓張平B道跡ほかの出土石器・石材	42
9	国立立うきたむ風土記の丘考 古資料館	「寒河江市少年少女郷土史跡座談会」への展	2006年10月23日～11月2日	製作勾玉、写真パネル	12
10	寒河江市教育委員会	白鷗町社会教育振興大会 歴史資料展	2006年11月15日～11月20日	廻り道跡出土遺物	17
11	白鷗町教育委員会	白鷗町授業資料として使用	2006年11月20日～11月24日	真室川町正原所蔵土器写真	1
12	山形県文化環境部	出前授業資料として使用	2006年11月20日～11月24日	真室川町正原所蔵土器写真	1
13	東北日本の旧石器文化を語る会	第20回東北日本の旧石器文化を語る会	2006年11月24日～11月27日	太郎水野2遺跡出土石器	116

(10) 資料掲載許可

No.	申請者	借用目的	資料名	数量
1	国立歴史民俗博物館	「井生農耕の起源と東アジア－农业革命年代測定による高精度解明－ 年代体系の構築」への掲載 「弥生時代の実年代」への掲載	小反道跡出土資料、洪土川4代地結果等	8
2	名久井 文明	「トチ食料化の起源」への掲載	市野々向道跡、渡戸道跡、高瀬山遺跡出土 玉文化」の資料	3
3	山形県立うきたむ風土記の丘考 古資料館	「うきたむ風土記」への掲載	寛川2遺跡出土世界屈指	6
4	㈱新人物往来社	「中世都市研究12号 中世のなかの「京都」」への掲載	魚ヶ崎城跡出土木造遺物、高瀬山遺跡お堂の溝路写真	2
5	㈱ジャパン通信情報センター	「文化財発掘出土情報 2006年7月号」への掲載	庚度遺跡、中澤山遺跡・行司免柵跡、興屋川原遺跡・木の船跡現地説明会資料	5
6	東洋陶磁学会	「東洋陶磁学会報 第59号」への掲載	鬼ヶ崎城跡出土遺物写真	1
7	㈱郷土出版社	「庄内ふるさと大百科」への掲載	寒川原遺跡第2次出土物出土写真、西向遺跡資料写真集	1
8	平凡社	「デジタル月刊百科2006年7・8号」への掲載	上高田遺跡出土「蛭町」付札木簡(稚子札)写真	1
9	齋藤 信	「沙流川歴史館 館報 平成17年度事業報告」への掲載	渡戸道跡・かっぱ道跡石碑写真	2
10	明治大学博物館	特別展「掘り出された（子ども）の歴史－石器時代から江戸－西海道跡出土 手形付土製品・同写真 2枚」掲載用資料への掲載及びキヤノンショットへの使用	寒川原遺跡第2次出土物出土写真、西向遺跡資料写真集	1
11	㈱アルカ	過去・現在の歴史と未来記念集」、「アルカ研究論集」、「日本・東松山遺跡(1・2期)第1～4次、中原川C遺跡・京原川遺跡発掘調査報告書図面・写真	12	
12	朝日学生新聞社	「朝日小学生新聞」への掲載	西海道跡出土 手形付土製品	1
13	国際航業㈱	「文化遺産の世界」誌掲載分ウェブサイト公開	小島田城跡写真	1
14	西山形振興会	西山形地区山形市会併50周年記念誌 「西山形の歴史と道」への掲載	妙法寺前遺跡近傍・猪俣遺跡・猪俣石碑・妙法寺石碑・大津木造跡出土石器・妙法寺遺跡出土土器・金剛遺跡出土土器(狂口土器・深鉢) 回版	8
15	新潟県立歴史博物館	中越地蔵 企画展「新潟県立歴史博物館研究紀要」中越地蔵 俵田遺跡出土人骨墨書き土器写真(新潟県立歴史博物館長撮影)	俵田遺跡出土人骨墨書き土器写真(新潟県立歴史博物館長撮影)	1
16	朝日町教育委員会	「朝日町史」上巻への掲載	八日目久道跡・昭向遺跡・矧和新田遺跡 回版	13
17	埼玉県立川の博物館	企画展「水辺のまつり」における写真パネル展示及び回版掲載(俵田遺跡の祭祀遺構復元図(理文やまた第12号掲載))	1	
18	有斐閣責任中間法人 日本書古学協会	「日本考古学年報 58号」への掲載	鬼ヶ崎城跡遺構・遺物写真	2
19	山形県立うきたむ風土記の丘考 古資料館	講座「渡御の発展(調査検討会)」へのパネル展示	石川遺跡・三日月遺跡・山上大作遺跡・上野遺跡・高瀬山遺跡・山上大作遺跡・猪俣遺跡(1次)・猪俣遺跡(2次)・下叶水道跡・加藤屋敷遺跡・高安窯跡	11
20	山形県立うきたむ風土記の丘考 古資料館	講座「渡御の発展(調査検討会)」のチラシへの掲載	猪俣遺跡現地説明会時・天王遺跡学芸員実習時の発掘調査写真	2
21	山形県小国町	小国町ホームページに「下叶水道跡発掘調査」を広報	下叶水道跡発掘調査説明会資料	1

(II) 出版物

a. 書籍・業務報告

書名	頁数	発行年月日
理文やまとた 第35号	8	2006年6月30日
理文やまとた 第36号	8	2006年10月31日
理文やまとた 第37号	8	2007年2月28日

b. 調査説明資料

書名	頁数	発行年月日
上野遺跡第2次調査説明会資料	4	2006年6月15日
中川原C遺跡第4次調査説明会資料	4	2006年6月28日
山ノ下遺跡調査説明会資料	4	2006年8月2日
福荷山遺跡第2次調査説明会資料	2	2006年8月2日
石畠遺跡調査説明会資料	4	2006年8月4日
木の下駄跡第3次調査説明会資料	4	2006年8月12日
興屋川原遺跡第3次調査説明会資料	4	2006年8月27日
玉作I遺跡第2次調査説明会資料	4	2006年8月27日
岩崎遺跡調査説明会資料	3	2006年8月27日
槍原遺跡第1次調査説明会資料	4	2006年9月15日
槍原遺跡第2次調査説明会資料	4	2006年10月25日
加藤屋敷遺跡調査説明会資料	4	2006年10月27日
中山城跡第2次調査説明会資料	16	2006年10月27日
上大作東遺跡調査説明会資料	4	2006年10月28日
天王寺跡調査説明会資料	4	2006年10月28日
行司水道跡第3次調査説明会資料	4	2006年10月28日
下叶水道跡調査説明会資料	8	2006年10月29日
矢馳人遺跡第3次調査説明会資料	4	2006年11月19日
南田遺跡調査説明会資料	2	2006年11月19日
興屋川原遺跡第3次調査説明会資料（2回目）	4	2006年11月19日
百刈田遺跡第4次調査説明会資料	4	2007年1月24日

c. 調査報告書

シリーズNo.	書名	頁数	発行年月日
157	上山館跡発掘調査報告書	111	2007年3月28日
158	大塚遺跡・西中上遺跡発掘調査報告書	270	#
159	上敷免遺跡発掘調査報告書	258	#
160	梅ノ木前I遺跡発掘調査報告書	240	#
161	庚塙遺跡発掘調査報告書	199	#
162	上野遺跡第2次発掘調査報告書	107	#
163	中川原C遺跡第4次発掘調査報告書	163	#
164	石畠遺跡発掘調査報告書	164	#
165	槍原遺跡発掘調査報告書	122	#

III 図書受贈先一覧

No.	発行機関	
1	愛知県一宮市教育委員会	65 岩手県二戸地方振興局農政部農村整備室
2	愛知県一宮市博物館	66 岩手県文化振興事業団岩手文化財センター
3	愛知県瀬戸市教育委員会	67 岩手県矢巾町教育委員会
4	愛知県瀬戸市文化芸術財団	68 岩手県立博物館
5	愛知県瀬戸市埋蔵文化財センター	69 岩手考古学会
6	愛知県名古屋市博物館	70 愛知県知立市教育委員会
7	愛知県立大学文学部歴史学科	71 愛知県佐伯市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター
8	愛知県教育・スポーツ振興機関・愛知県埋蔵文化財センター	72 愛知県佐伯市考古組
9	愛知県教育サービスセンター	73 愛知県埋蔵文化芸術調査センター
10	愛知県城北市教育委員会	74 エコプロ山陽開拓特定会社・住友不動産・国際軌葉
11	愛知県新城市教育委員会	75 江別市道達発掘調査グループ
12	愛知県豊田市教育委員会	76 大分県朝日市教育委員会
13	アイティ文化研究所・研究推進機構	77 大分県杵市教育委員会
14	青森県市道達調査研究会	78 大分県教育行政埋蔵文化財センター
15	青森県青森市	79 大分県竹田市教育委員会
16	青森県教育委員会	80 大分県大町市教育委員会
17	青森県教育文化財保護課	81 大分県豊後大野市教育委員会
18	青森県五戸町教育委員会	82 大分県立吉野史跡館
19	青森県五所川原市教育委員会	83 大分県立歴史博物館
20	青森県弘前市教育委員会	84 大分県明治博物館
21	青森県市道達調査研究会	85 大阪府八尾市文化財調査研究会
22	青森県七戸町教育委員会	86 大阪府枚方市文化財研究調査会
23	青森県青森市教育委員会・道端教育事務所	87 大阪府河内長野市道端研究会
24	青森県八戸市教育委員会	88 大阪府河内長野市教育委員会
25	青森県八戸市博物館	89 大阪府岸和田市教育委員会
26	青森県埋蔵文化財調査センター	90 大阪府父鬼市教育委員会
27	秋田県横手市教育委員会	91 大阪府高槻市教育委員会・文化財調査会・埋蔵文化財調査センター
28	秋田県秋田市教育委員会	92 大阪府泉佐野市教育委員会
29	秋田県北秋田市教育委員会	93 大阪府高岡郡羽衣町教育委員会
30	秋田県由利本荘市教育委員会	94 大阪府文化財センター
31	秋田県教育委員会	95 大阪府文化財調査研究会センター
32	秋田県教育局弘田道端調査事務所	96 大阪府豊中市教育委員会
33	秋田県南陽市教育委員会	97 大阪府立山道端博物館
34	秋田県男鹿市教育委員会	98 大阪府立辻丸道端博物館
35	秋田県埋蔵文化財センター	99 大阪府立生文化博物館
36	秋田県立博物館	100 関西法律専修大学の埋蔵文化財センター
37	秋田県経済調整事務所	101 関西開港市教育委員会
38	青山学院大学文学部史学研究室	102 関西張園市教育委員会
39	朝日新聞社	103 関西園芸市埋蔵文化財センター
40	飛島村料組	104 関西教育委員会
41	石川県教育委員会	105 関西古吉備文化財センター
42	石川県金沢市研究調査室	106 関西園都市教育委員会
43	石川県珠洲市教育委員会	107 関西園都市の埋蔵文化財センター
44	石川県小松市教育委員会	108 関西大学埋蔵文化財調査研究センター
45	石川県能美郡教育委員会・真庭道端発掘調査団	109 関西理工科大学人文学部研究室
46	石川県埋蔵文化財センター	110 関西理工科大学「丹山の学」研究会・吉原入出版
47	石川県野々市市教育委員会・野々市市中南部地区圏整理組合	111 神姫教育委員会
48	美城郡猪崎町教育委員会	112 神姫郡立埋蔵文化財センター
49	美城郡上条町教育委員会	113 大正前大史学研究所
50	美城郡教育委員会	114 おおの水女子大学・鹿児島大学
51	美城郡教育指導室	115 大分女子大学文芸財学部
52	美城郡東美郷町美郷町教育委員会	116 香川県高松市教育委員会
53	岩手県いきいき南郷地域整備事務所	117 香川県丸亀市教育委員会
54	岩手県花巻市博物館	118 香川県教育委員会
55	岩手県盛岡市道端の学び館	119 香川県香川市教育委員会
56	岩手県二戸郡一戸町教育委員会	120 香川県高松市教育委員会
57	岩手県衣川村教育委員会	121 香川県・豊都・三野町教育委員会
58	岩手県春米地方振興局	122 香川県・豊都市教育委員会
59	岩手県石井市教育委員会	123 香川県埋蔵文化財センター
60	岩手県教育委員会	124 鹿児島県中種子町教育委員会
61	岩手県津軽町教育委員会	125 鹿児島県伊都郡教育委員会
62	岩手県盛岡市教育委員会	126 鹿児島県教育委員会
63	岩手県大船渡市教育委員会	127 鹿児島県出水市教育委員会
64	岩手県大槌町教育委員会	128 鹿児島県立埋蔵文化財センター

No.	発行機関	
129	神奈川県横浜市ふるさと歴史財団	193 高知県在川町教育委員会
130	神奈川県伊勢原市教育委員会	194 高知県文化財団歴史文化財センター
131	神奈川県西条考古古学研究会	195 高知書院
132	神奈川県鎌倉市教育委員会	196 駒澤大学考古学研究室
133	神奈川県教育委員会	197 駒澤大学歴史文化博物館
134	加速分析研究所本社	198 考古学会研究会
135	加藤山田理恵文化財調査部・学校法人栄應学園	199 国立航空宇宙
136	学生社	200 国立交通安全
137	種別考古学協会	201 国立交通安全四国地方整備局
138	開拓史政局企画室中部農業水利事業所・千葉県教育振興財団	202 国立交通安全東北地方整備局
139	開拓史政局企画室農業水利事業所・千葉県教育振興財団	203 国立交通安全東北地方整備局都山国道路事務所
140	元興寺文化研究研究所	204 国立交通安全東北地方整備局磐城国道路事務所
141	元興寺文化研究研究所民俗文化財保存会	205 国立歴史民俗博物館
142	神塙洋一境堀発掘調査会	206 古事記協会
143	柏森吉亮先生顕彰会	207 研究大考古学会
144	柏森吉亮各務原市埋蔵文化財調査センター	208 小野寺直樹
145	柏森吉亮博士下木道事業部	209 財團法人かながわ考古学財団
146	柏森吉亮市立教育委員会・越谷市教育振興事業団	210 埼玉県教育委員会
147	柏森吉亮教育文化財調査保護センター	211 埼玉県所沢市教育委員会
148	京都府立京都古代化里資料館	212 埼玉県船橋市立埋蔵調査会
149	京都府立京都考古資料館	213 埼玉県埼玉市立教育委員会
150	京都府立京都文化芸術文化財保護課	214 埼玉県埋蔵文化財センター
151	京都府立京都埋蔵文化財調査研究会	215 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
152	京都府立長岡京埋蔵文化財センター	216 埼玉県立博物館
153	京都府立教育委員会・向日市埋蔵文化財センター	217 佐賀県教育委員会
154	京都府立大学院文化研究科21世紀COEプログラム	218 在佐賀県教育文化財課
155	京都府立埋蔵文化財研究センター	219 在佐賀県神埼市教育委員会
156	京都府久美浜町教育委員会	220 在佐賀県唐津市教育委員会
157	京都府京丹波市教育委員会	221 在佐賀県立埋蔵調査博物館
158	京都府教育委員会	222 サーポル書店
159	京都府山城郡教育委員会	223 高知歴史博物館
160	京都府城陽郡教育委員会	224 緑風教育委員会
161	京都府大宮町教育委員会	225 波佐根高町教育委員会
162	京都府丹後町教育委員会	226 波佐根高町市教育委員会
163	京都府竹野町埋蔵調査役場	227 波佐根文化財保護協会
164	京都府竹野町赤堀跡探査	228 波佐根立土藏古墳博物館
165	京都府中部大宮町役場	229 波佐根立人形文化会館
166	京都府福島町出土教育委員会	230 波佐根探査市立教育委員会
167	京都府峰山町教育委員会	231 波佐根大字賀賀谷ヶ谷土地区埋蔵調査組合
168	京都府埋蔵文化財調査研究センター	232 波佐根教育委員会
169	北竜町市町文化財担当者会	233 波佐根御崎町教育委員会
170	宮内庁書陵部	234 波佐根芝川町教育委員会
171	其和研究会	235 波佐根施設市埋蔵文化資料
172	捨遺遺跡・武藏文化財研究所	236 静岡県静岡市教育委員会
173	郷土出版社	237 静岡県埋蔵文化財調査研究所
174	九州国立博物館	238 静岡市立長良博物館
175	九州史資料館	239 熊本県教育委員会
176	十九十三里水道水道企業組・東郷文化センター	240 熊本県教育行政埋蔵文化財調査センター
177	熊本県城町教育委員会	241 熊本県山鹿市教育委員会
178	熊本県教育委員会	242 熊本県出水市教育委員会
179	熊本県熊本市教育委員会	243 熊本県山鹿市土木建築事務所
180	熊本県立藝術古墳館	244 熊本県山鹿市教育委員会
181	群馬県安中市ふるさと文学館	245 熊本県山鹿市教育文化振興事業団
182	群馬県高崎市能舞台音楽考古資料館	246 熊本県津居野町教育委員会
183	群馬県教育委員会	247 熊本県山田市教育委員会
184	群馬県高崎市教育委員会	248 熊本県山田土木建築事務所・島根県浜田市教育委員会
185	群馬県東部県民局高崎土木事務所	249 ジーパン古墳情報センター
186	群馬県太田市土木事務所	250 庄内考古学研究会
187	群馬県東部県民局太田土木事務所	251 新人物往来社
188	群馬県埋蔵文化財調査事業団	252 世界考古学會議開催組織大阪大会実行委員会
189	群馬県立がんセンター	253 潜文庫
190	建設省東北地方建設局山形工事事務所	254 全埋蔵文化財法人連絡協議会事務局
191	高知県赤岡町教育委員会	255 大阪エンジニアリング
192	高知県教育委員会	256 第一法規

No.	発行機関	
257	岡山の古道跡調査研究会	321 岡取組岡市文化財団
258	但馬考古学研究会・両丹考古学研究会	322 岡取組茅ヶ崎市教育文化事業団明徳文化財調査室
259	千葉県木更津市教育委員会	323 岡取組羽田町教育委員会
260	千葉県印旛郡市文化財センター	324 岡取組教育委員会
261	千葉県香取郡市文化財センター	325 岡取組文化財調査室
262	千葉県佐倉市・印旛郡市文化財センター	326 岡取組霞ヶ浦町教育委員会
263	千葉県市川市教育委員会	327 岡取組市川市教育委員会
264	千葉県市川市立市川考古学博物館	328 岡取組島市市教育委員会
265	千葉県成田市史跡教科・勾玉工房Mogi	329 岡取組木下市教育委員会
266	千葉県千葉市立加須貝塚博物館	330 岡取組埋蔵文化財センター
267	千葉県船橋市道跡調査会	331 岡取組成田市教育委員会
268	千葉県船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター	332 船橋市教育委員会
269	千葉県袖ヶ浦市市教育委員会	333 船橋市足利市教育委員会
270	千葉県多古町教育委員会	334 船橋市立博物館
271	千葉県富津市教育委員会	335 富士見町富士市教育委員会
272	千葉県印旛郡教育委員会	336 富士見町文化振興団明徳文化財調査事務所
273	千葉県南房総地域整備センター・銚子整備事務所・東総文化財センター	337 富士見町埋蔵文化財センター
274	千葉県企業庁	338 富士市古文書資料館
275	千葉県教育委員会・千葉県文化財センター	339 富士市埋蔵文化財調査委員会
276	千葉県教育振興財團	340 富士大学人文学部考古学研究室
277	千葉県教育振興財团文化財センター	341 少子・高齢化・人間ドックセンター
278	千葉県史料館編纂部	342 美術大学附属内地道跡調査委員会
279	千葉県史料館研究財團	343 美術芸術大学
280	千葉県市原市教育委員会	344 美術芸術大学考古芸術部歴史遺産学科
281	千葉県市原市文化センター	345 美術芸術大学文化遺産保存修復研究センター
282	千葉県芝山市教育委員会	346 美術大学合字学博物館
283	千葉県船橋市教育委員会	347 東京日本の旧石器文化と語る会
284	千葉県東葛文化財センター	348 東京歴史物語
285	千葉県道路公社	349 同志社大学歴史資料館
286	千葉県文化センター	350 同志社
287	千葉県立図書のむら	351 岩槻の里・里田広介記念館・まほろば
288	千葉県立文学部考古学古文書研究室	352 戸田古窯跡調査委員会
289	中国考古文書局	353 長崎県志賀市教育委員会
290	中国考古文書研究所	354 長崎県教育委員会
291	筑波大学人文社会科学研究科歴史・人類学専攻	355 長崎県教育行政の辻道跡調査事務所
292	天理大学附属天理图书馆	356 長崎県川棚町教育委員会
293	天理大学文部歴史文化学科考古学・民俗学専攻	357 長崎県長崎市教育委員会
294	東京政治経済学生生活文化博物館	358 長崎県波佐見町教育委員会
295	東京大学史料編纂所	359 岩槻町教育委員会
296	東京大学埋蔵文化財調査室	360 岩槻町市立公園考古会
297	東京駅江戸口京博鉄道	361 岩槻町在住市教育委員会
298	東京港北区教育委員会	362 桜島町文化振興事業団
299	東京都新宿区教育委員会	363 岩槻町埋蔵文化財センター
300	東京生糸町今宮文財団	364 仙台市宇都宮市教育委員会
301	東京都墨田区道跡調査会	365 仙台市墨田区文化財協会
302	東京都墨田区教育委員会	366 仙台市泉区立藏蔵文化財センター
303	東京市政府中野教育委員会	367 仙台市上郷町教育委員会
304	東京北区教育委員会	368 仙台市大字町町教育委員会
305	東京都埋蔵文化財センター	369 仙台市泉区市教育委員会
306	東京歴史文化財センター	370 仙台城・上古代遺金研究会
307	東京吉祥寺・南町道跡調査会	371 岩槻町立根原考古学研究所
308	東京港北区立港郷・資料館	372 仙台市立根原考古学研究所根原博物館
309	東京都小平市教育委員会	373 仙台女子大学
310	東京都新宿区教育委員会	374 仙台文化古研究会埋蔵文化財センター
311	東京都墨田区道跡調査会	375 名古屋大学人文学部考古学研究科考古学研究室
312	東京駒目の山町道跡調査会	376 名古屋大学文学部
313	東京駒の山町道跡調査会	377 南山大学人類学博物館
314	東京府中市教育委員会	378 新潟県加茂市教育委員会
315	東京都文京区道跡調査会	379 新潟県教育委員会
316	越後湯舟美馬市教育委員会	380 新潟県荒川町教育委員会
317	越後湯舟佐野市教育委員会	381 新潟県神林村教育委員会
318	越後湯舟内市教育委員会	382 新潟県胎内市教育委員会
319	越後湯舟埋蔵文化財センター	383 新潟県長岡市教育委員会
320	越後大學	384 新潟県豊城市教育委員会

No.	発行機関	
385	新潟市埋蔵文化財調査事業団	449 福島県福島市振興公社
386	新潟市立歴史博物館	450 福島県文化財センター・白河館
387	日韓交流歴史博物館促進事業実行委員会	451 福島県文化振興事業団
388	日本古事記協会	452 福島大学行政政策学部考古学研究室
389	日本考古学会	453 北海道教育厅学生生活課文化課
390	日本古文書會	454 北海道厚岸町教育委員会
391	日本古文書研究所	455 北海道石狩市教育委員会
392	日本古文書研究会	456 北海道早来町教育委員会
393	西日本高速道路中国支社津山事務所	457 北海道厚岸市教育委員会
394	兵庫県神戸市立教育委員会	458 北海道函館市教育委員会
395	兵庫県神戸市埋蔵文化財センター	459 北海道函館市教育委員会
396	兵庫県神戸市水道局	460 北海道函館市埋蔵文化財事業団
397	兵庫県神戸市立博物館	461 北海道標津町教育委員会
398	兵庫県姫路市立城跡研究室	462 北海道埋蔵文化財センター
399	兵庫県家教局教育委員会	463 北海道大学
400	兵庫県教育委員会	464 法政大学
401	兵庫県上郡町教育委員会	465 法政大学国際日本学研究センター・法政大学国際日本学研究所
402	兵庫県神戸市立教育委員会	466 墓園文化財研究会
403	兵庫県赤穂市立教育委員会・白旗城跡調査委員会	467 三重県松阪市教育委員会
404	兵庫県赤穂市立教育委員会	468 三重県埋蔵文化財センター
405	兵庫県埋蔵文化財調査事業団	469 三重県立博物館
406	広島県広島市教育文化振興事業団	470 三重大学人文学部考古学日本学研究所
407	広島県在伯原尻島町教育委員会	471 広島県教育委員会
408	広島県東広島市教育委員会	472 広島県佐伯原町教育委員会
409	広島県立歴史博物館	473 広島県小市市教育委員会
410	広島大学人文学部研究科帝釈峠道路群発掘調査室	474 広島県清川町教育委員会
411	弘前市立人文学部日本考古学研究室	475 広島県福山市教育委員会
412	弘前市立人文学部部長國庵一・岡田研究センター	476 宮崎県埋蔵文化財センター
413	福井県教育局埋蔵文化財調査センター	477 宮崎県木都町教育委員会
414	福井県福井市教育委員会	478 宮崎県立木都原考古博物館
415	福井県文化財保護センター	479 宮崎県船出市交通局
416	福岡県北九州市立自然史・歴史博物館	480 宮崎県船出市教育委員会
417	福岡県久留米市教育委員会	481 宮崎県船出市建築局
418	福岡県久留米市文化観光局	482 宮崎県船出市宮内遺跡保存館
419	福岡県筑紫教育委員会	483 宮崎県多胡城市埋蔵文化財調査センター
420	福岡県福岡市博物館	484 宮崎県利根町教育委員会
421	福岡県北九州市芸術文化振興財團・埋蔵文化財調査室	485 宮崎県延岡市教育委員会
422	福岡県甘木市教育委員会	486 宮崎県向日市教育委員会
423	福岡県久留米市教育委員会	487 宮崎県丸森町教育委員会
424	福岡県教育委員会	488 宮崎県教育委員会
425	福岡県高田市教育委員会	489 宮崎県延岡町教育委員会
426	福岡県志免町教育委員会	490 宮崎県多胡城市教育委員会
427	福岡県太宰府市教育委員会	491 宮崎県多胡城跡調査研究所
428	福岡県大刀洗町教育委員会	492 宮崎県太郎原
429	福岡県大野城市教育委員会	493 宮崎県東臼杵郡市教育委員会
430	福岡県豊前市立塩原町教育委員会	494 宮崎県富山町教育委員会
431	福岡県筑後市教育委員会	495 宮崎県矢部町教育委員会
432	福岡県朝倉町教育委員会	496 宮崎考古学
433	福岡県基町町教育委員会	497 武藏文化財研究所
434	福岡県八女市教育委員会	498 加賀出版
435	福岡県北九州市教育委員会	499 明治大学博物館事務室
436	福岡県在原町教育委員会	500 木原学舎
437	福島県いわき市教育委員会	501 文化科学省構内埋蔵調査会
438	福島県いわき市教育文化事業団	502 山形県羽衣町教育委員会
439	福島県会津若松市教育委員会	503 山形県河沼町教育委員会
440	福島県教育委員会	504 山形県東田川郡南陽町教育委員会
441	福島県郡山市森林事務所	505 山形県教育委員会
442	福島県郡山市埋蔵文化財調査事業団	506 山形県高畠町教育委員会
443	福島県須賀川市教育委員会	507 山形県山辺町教育委員会
444	福島県土木部	508 山形県西郷町教育委員会
445	福島県南相馬市教育委員会	509 山形県南陽市始合政策室政策企画課
446	福島県農林水産部	510 山形県長井町教育委員会
447	福島県白河市教育委員会	511 山形県長井市教育委員会
448	福島県福島市教育委員会	512 山形県長井市古代の丘資料館

513	山形県鶴岡市教育委員会
514	山形県天童市教育委員会
515	山形県白鷗町教育委員会
516	山形県八戸町教育委員会・八戸遺跡発掘調査委員会
517	山形県米沢市教育委員会
518	山形県遊佐町教育委員会
519	山形県立うみたか風土記の丘考古資料館
520	山形県立博物館
521	山形県立米沢女子短期大学・米澤市本史学科・米沢史学会
522	山形県立鶴岡高等学校
523	山形県高畠町教育委員会
524	山形県長井市・長井市教育委員会
525	山形県米沢市上杉博物館
526	山口ひこくぐり財團・山口地理叢文化財センター
527	山口県宇部市教育委員会
528	山口県下関市教育委員会
529	山口県下関市考古博物館
530	山奥越後地域美術図書
531	山奥越後教育委員会
532	山奥越後ループ・市教育委員会文化財課
533	山奥越後市遺跡調査会
534	山奥越後市教育委員会
535	山奥越後町教育委員会
536	山奥越後甲斐市教育委員会
537	山奥越後文化財センター
538	山奥越後立考古博物館
539	山武考古学研究所
540	佐生郡市はかる実行委員会・毎日新聞社・毎日放送
541	越後五城
542	吉田弘文館
543	吉野文化史研究会
544	立教人文学科・社会教育講座
545	立命館大学考古学系歴史学科
546	立命館大学文学部・法政寺鳴尾花山址発掘調査団
547	歴史公園博物館・滋慶側生館(熊本県立長崎古墳群分館)
548	六兵衛館
549	和歌山県吉備町教育委員会・吉備町文化財保護審議会
550	和歌山県有田町教育委員会
551	和歌山県教育委員会
552	和歌山県文化財センター
553	和歌山県和歌山市教育委員会・和歌山市文化体育振興事業団
554	若狭二方城文博物館
555	早稲田大学會津八一記念博物館

ISSN 1341-397X

年 報

平成18年度

2007年5月18日 発行

発 行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター

〒999-3161

山形県上山市弁天二丁目15番1号

☎023-672-5301㈹

印 刷 株 大 風 印 刷

$\overline{V}_n \in$